北海道立帯広美術館年報
平成7年—8年度

BIENNIAL REPORT OF HOKKAIDO OBIHIRO MUSEUM OF ART 1995-1996

北海道立帯広美術館年報

平成7年－8年度



目 次

目 次 …… 3
展覧会事業
　平成7―8年度コレクション・ギャラリー一覧 …… 5
　　現代日本のポスター展 partⅡ …… 6
　　中谷有逸展 …… 7
　　道東の美術―山と森と平原と …… 9
　　理想郷（アルカディア）を求めて―バルビゾン派の風景画 …… 10
　　道東の作家たち …… 12
　　現代版画―［版］の手法 …… 13
　平成7―8年度特別展一覧 …… 14
　　特別展＝歌川国貞 …… 16
　　居串佳一展 …… 21
　　20世紀美術への眼差し …… 25
　　アンドレ・フランソワ展 …… 31
　　ルオー版画展 …… 37
　　ビュッフェ展 …… 43
　　今日のプリントアート展 …… 47
　　イギリス木版画展 …… 51
　　能勢眞美展 …… 56
　　マヤ古代文明の遺産 …… 60
　　プラハ国立美術館所蔵浮世絵展 …… 65
　　ユトリロ展 …… 70
　　富士美術館名品展 …… 74
　　北海道・今日の美術 …… 78
　　黄金時代のポスター芸術 …… 81
　　フランス美術200年の巨匠たち …… 86
教育普及事業
　　美術講演会 …… 90
　　特別展セミナー …… 91
　　美術鑑賞講座 …… 92
　　ミュージアム・カレッジ …… 92
　　土曜映写室 …… 93
　　アートウォッチング …… 94
　　トークショー …… 95
　　キッズ・ミュージアム …… 96
　　ミュージアム・ミステリー …… 97
　　ミュージアム・コンサート …… 98
　　団体オリエンテーション …… 99
　　博物館実習 …… 100
　　その他 …… 101
美術作品の収集
　平成7年度作品収集状況 …… 103
　　購 入 …… 104
　　受 贈 …… 104
　　委託制作 …… 104
　平成8年度作品収集状況 …… 106
　　購 入 …… 107
美術作品の貸出 …… 108
特別観覧 …… 109
名 簿 …… 110
館内案内図 …… 111
建築概要 …… 112
設備概要 …… 112
沿 革 …… 113
観覧者数一覧 …… 114

展覧会事業

平成7年度コレクション・ギャラリー一覧

No.	展　覧　会　名	会　　期	開催日数
1	現代日本のポスター展 part Ⅱ	4 月15日(土)～ 7 月30日(日)	84
2	見えざる碑像(イメージ)　中谷有逸展	8 月 5 日(土)～11月26日(日)	88
3	道東の美術 ― 山と森と平原と	12月 2 日(土)～ 3 月27日(水)	85

平成8年度コレクション・ギャラリー一覧

No.	展　覧　会　名	会　　期	開催日数
4	理想郷(アルカディア)を求めて―バルビゾン派の風景画	4 月 9 日(火)～ 7 月14日(日)	79
5	抽象の遥かな風　道東の作家たち	7 月20日(土)～12月 1 日(日)	103
6	現代版画 ―［版］の手法	12月 7 日(土)～ 3 月30日(日)	80

現代日本のポスター展　part Ⅱ

会期＝平成7年4月15日(土)―7月30日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

戦後、日本のポスターは1950年代の経済復興と軌を一にして発展の道をたどる。はやくも1951年には、デザイナーたちの全国組織である日本宣伝美術協会が組織され、以後、さまざまな国際交流や技術的進歩を背景に日本のポスター表現は豊かに展開されてきた。

近年ではデザイナー、カメラマン、コピーライターらが共同で作業を行うアートディレクター・システムが定着し、高度な専門化・分業化のもと、より斬新な作品が生み出されている。また電子製版技術の開発、コンピューター・グラフィックスの利用など、グラフィック・アートの表現世界はますます多様化している。

本展では、1950年代から今日にいたる日本の代表的なポスター28点により、戦後日本のグラフィズムを概観した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
1	浅葉　克己、坂田栄一郎	ダイアナ靴店	1978（昭和53）	オフセット、紙
2	石岡　瑛子、山口はるみ、操上　和美	PARCO感覚	1972（昭和47）	オフセット、紙
3	伊藤　憲治	ミリオンテックス	1954（昭和29）	オフセット、紙
4	井上　嗣也	モリサワ	1984（昭和59）	オフセット、紙
5	岡本　滋夫	岡本滋夫展	1979（昭和54）	オフセット、紙
6	奥村　靱正	S・F・X	1984（昭和59）	オフセット、紙
7	勝井　三雄	HIROSHIMA APPEALS	1989（平成元）	オフセット、紙
8	亀倉　雄策	ニコンカメラ	1957（昭和32）	オフセット、紙（オリジナルはシルクスクリーン印刷）
9	亀倉　雄策、横山　　明	HIROSHIMA APPEALS	1983（昭和58）	オフセット、紙
10	佐藤　晃一	ニュー・ミュージック・メディア	1974（昭和49）	オフセット、紙
11	佐藤　晃一	ユーロパリア89ジャパン	1989（平成元）	オフセット、紙
12	U. G. サトー	FREEDOM	1889（平成元）	オフセット、紙
13	田中　一光	日本古典芸能団招聘記念	1981（昭和56）	オフセット、紙
14	仲條　正義	タクティクス・デザイン	1988（昭和63）	オフセット、紙
15	中村　　誠、石岡　瑛子、横須賀功光	資生堂サマー化粧品	1967（昭和42）	オフセット、紙
16	永井　一正	リリーカラー	1974（昭和49）	オフセット、紙
17	長友　啓典、黒田征太郎	話の特集博覧会	1971（昭和46）	オフセット、紙
18	長友　啓典、黒田征太郎	時代劇	1974（昭和49）	オフセット、紙
19	灘本　唯人	MARIE	1968（昭和43）	オフセット、紙
20	早川　良雄	カロン洋裁生徒募集	1949（昭和24）	オフセット、紙
21	早川　良雄	第5回東京国際版画ビエンナーレ展	1966（昭和41）	オフセット、紙
22	福田　繁雄	VICTORY 1945	1975-76（昭和50-51）	オフセット、紙
23	細谷　　巌、北井　三郎	ヤマハオートバイ	1960（昭和35）	オフセット、紙
24	山城　隆一	第2回東京国際版画ビエンナーレ展	1960（昭和35）	オフセット、紙（オリジナルはシルクスクリーン印刷）
25	湯村　輝彦	TASTES OF FLAMINGO	1976（昭和51）	オフセット、紙
26	横尾　忠則	腰巻お仙―忘却編	1966（昭和41）	オフセット、紙（オリジナルはシルクスクリーン印刷）
27	横尾　忠則	横尾忠則近作展	1973（昭和48）	オフセット、紙
28	和田　　誠	ベトナムの子どもを支援する会のために	1968（昭和43）	オフセット、紙

＊　作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。
＊　作品はすべて1989年に復刻されたものである。

見えざる碑像（イメージ）　中谷有逸展

会期＝平成7年8月5日(土)―11月26日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

協力＝十勝毎日新聞社、帯広シティーケーブル

関連事業

アートウォッチング95
「美の現場＝中谷有逸　大地とのダイアローグ」
日時＝７月21日(金)～23日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、帯広シティケーブル

トークショー
「記憶の碑／記録の版」
講師＝中谷有逸氏（美術家）、吉田豪介氏（美術評論家）
日時＝８月５日(土)　午後２時～4時
会場＝当館講堂

モダンアート協会会員、道展会員、平原社美術協会会員の中谷有逸は、帯広市在住の現代美術家である。はやくから抽象と具象が混在する独特の版画作品を制作、ついで《碑（いしぶみ）》シリーズのような凹凸併用版という独自の技法による抽象版画を数多く発表し、近年はさまざまな素材を組み合わせたり、複数の作品で構成された大作に取り組むなど、新たな表現を探求している。

本展に先立ち７月21日から23日には、公開共同制作「アートウォッチング95」が「美の現場＝中谷有逸　大地とのダイアローグ」と題して開催され、延べ170人の市民の参加によって十勝の大地をテーマにした４点の作品が制作された。本展はこれらの共同制作作品および1960年代半ば以降の代表作27点により構成されたものである。

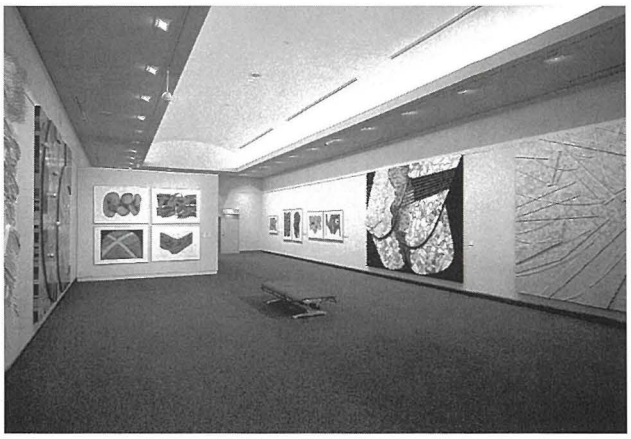
作者の近年の足跡を振り返るとともに今後をも展望する充実した展示内容は大きな反響を呼び、会期中10,361人におよぶ観覧者が来館した。地元帯広を拠点に活躍する美術家の斬新な造形世界への理解と関心を深める好機になったといえよう。



会場入口風景



会場風景

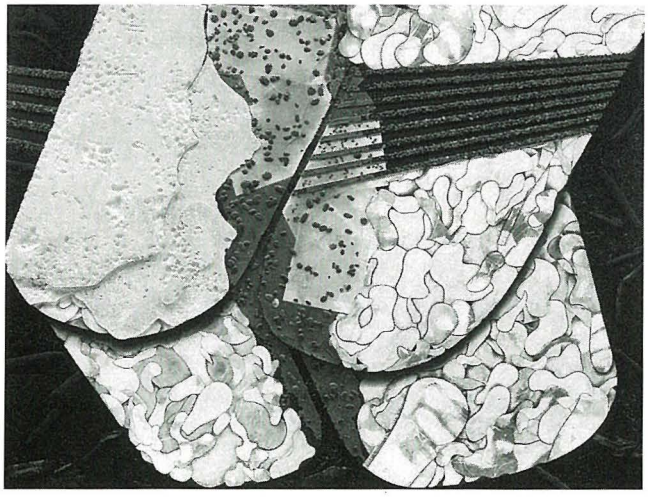


会場風景

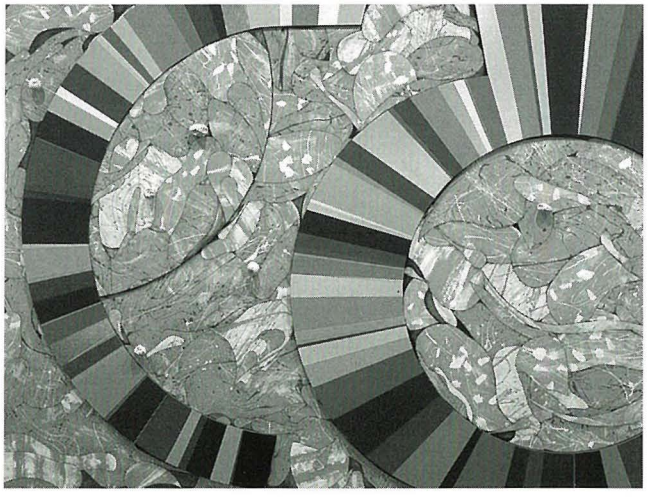
出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
1	碑（祖）	1965（昭和40）	紙、凹凸併用版	67.2×46.0
2	碑（鐸）	1976（昭和51）	紙、凹凸併用版	59.0×39.5
3	碑（見えざりし者たちの）	1988（昭和63）	紙、凹凸併用版	38.8×58.2
4	碑（柔かい重なり）	1988（昭和63）	紙、凹凸併用版	42.5×64.2
5	碑（出エジプト）	1989（昭和64）	紙、凹凸併用版	32.5×59.8
6	碑（聖衣に）	1989（昭和64）	紙、凹凸併用版	58.3×40.7
7	碑（アナトリアの人）	1990（平成２）	紙、凹凸併用版	41.0×57.0
8	碑（結果）	1990（平成２）	紙、凹凸併用版	58.3×40.2
9	碑（つながれた海から）	1994（平成６）	紙、凹凸併用版、シルクスクリーン、コラージュ	62.2×87.5
10	碑（砂漠に吹く）	1994（平成６）	紙、凹凸併用版、コラージュ	64.0×87.4
11	碑（滅ぼされた帝国の）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版	108.5×75.2
12	碑（閉ざされる海の）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、発泡スチロール、コラージュ	108.5×77.7×d5.0
13	碑（夏の音）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、油彩、ラッカー、ヴァイオリン、コラージュ	109.5×73.5×d9.0
14	碑（あの時は）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	108.5×76.2
15	碑（僧正たちが）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	66.5×90.2
16	碑（ベナレスの凪）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	62.0×89.8
17	碑（届かなかった便り）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	75.5×104.0
18	碑（暑い風が…）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	71.4×96.2
19	碑（あの丘へ）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	80.0×101.8
20	碑（やってきた海）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	76.8×108.0
21	碑（3月に湧く）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	102.0×70.5
22	碑（カセレスの風）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	70.8×102.8
23	碑（海・蠕動）	1995（平成７）	紙、凹凸併用版、コラージュ	270.0×540.0
24	雪溶けの大地	1995（平成７）	ベニヤ板、木、発泡スチロール、コラージュ	240.0×360.0
25	風の大地	1995（平成７）	ベニヤ板、木、シール、ロープ	240.0×360.0
26	稔りの大地	1995（平成７）	ベニヤ板、木、発泡スチロール、コラージュ	240.0×360.0
27	雪の大地	1995（平成７）	ベニヤ板、木、段ボール、和紙、針金	240.0×360.0

※寸法は縦×横、または縦×横×d奥行。
※No.1～8、23は北海道立帯広美術館蔵、No.9～22、24～27は作者蔵。



「雪溶けの大地」



「稔りの大地」

道東の美術―山と森と平原と

会期＝平成7年12月2日(土)― 平成8年3月27日(水)
主催＝北海道立帯広美術館

帯広美術館のある道東地域に本格的な美術の歩みが見られるようになるのは昭和期に入ってからのことである。以後多くの美術家たちがこの地から生まれ、道内外で多彩な制作活動を繰り広げてきた。彼らの活躍の場、またその表現手段や作風は実に多種多様で、そこに特別な地域的共通項や歴史的展開の道筋を見出すことは難しい。しかしとりわけ道東の地で長く活動を続けた作家たちの作品には、この地の変化に富んだ風景や自然の営みを題材とし、あるいはそこから想をえて制作されたものが少なくない。

この展覧会では当館所蔵作品より道東の厳しくも美しい風土を題材に作品を制作した作家たち12名の油彩・版画・ポスター併せて22作品を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	阿部　貞夫	くまげらと摩周	1958（昭和33）	木版、紙	37.9×27.0
2	伊藤　隆二	池のほとり	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	72.8×91.0
3	伊藤　隆二	曇り日	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	53.1×72.9
4	伊藤　隆二	初秋	1935（昭和10）	油彩、キャンバス	80.7×116.8
5	神田　日勝	痩馬	1956（昭和31）	油彩、板	52.3×61.0
6	神田　日勝	風景	1956（昭和31)頃	油彩、板	60.7×73.5
7	神田　日勝	家	1962（昭和37)頃	油彩、板	38.6×46.9
8	栗谷川健一	タンネの斜面	1956（昭和31）	オフセット、紙	102.0×74.0
9	栗谷川健一	緑に歌う	1960（昭和35）	オフセット、紙	103.3×73.2
10	栗谷川健一	家路	1962（昭和37）	オフセット、紙	103.0×73.0
11	武田　伸一	凍土	1966（昭和41）	油彩、キャンバス	182.0×229.0
12	竹山　義雄	早春山野	1978（昭和53）	油彩、キャンバス	130.6×162.0
13	竹山　義雄	山湖（レイクルイズ）	1979（昭和54）	油彩、キャンバス	130.3×162.1
14	手島圭三郎	しまふくろう・冬	1985（昭和60）	木版、紙	53.0×75.0
15	手島圭三郎	しまふくろう・なく	1990（平成2）	木版、紙	53.0×75.0
16	寺島　春雄	赤の原野	1959（昭和34）	油彩、キャンバス	131.3×194.3
17	寺島　春雄	凍土	1961（昭和36）	油彩、キャンバス	117.0×91.1
18	檜原　武正	日の出	1975（昭和50）	油彩、キャンバス	165.0×132.5
19	能勢　眞美	初秋池畔	1942（昭和17）	油彩、キャンバス	96.5×106.0
20	能勢　眞美	疎林初秋	1967（昭和42）	油彩、キャンバス	97.0×162.0
21	望月　正男	落日	1977（昭和52）	油彩、キャンバス	112.1×145.5
22	八鍬　一郎	糠平の風景	1956（昭和31）	油彩、キャンバス	60.6×50.0

＊　寸法は縦×横。
＊　No.6は鹿追町立神田日勝記念館蔵、No.7は神田ミサ子氏蔵、他は北海道立帯広美術館蔵。

アルカディア
理想郷を求めて—バルビゾン派の風景画

会期＝平成8年4月9日(火)—7月14日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

19世紀中頃、パリの東南フォンテーヌブローの森のはずれにあるバルビゾン村で制作した一群の風景画家たちは、今日、バルビゾン派と呼ばれている。彼らは、フォンテーヌブローの豊かな自然景観の中に理想郷を見出し、その変化に富む風景やそこに暮らす人々の生活情景を、印象派の先駆をなすような清新な筆致で描き出した。

本展では、当館所蔵のバルビゾン派およびその周辺の18作家の油彩、水彩、素描、版画49点により、近代風景画の確立に大きな役割を果たした自然主義絵画の一端を紹介、会期中の観覧者は11,104人を数えた。

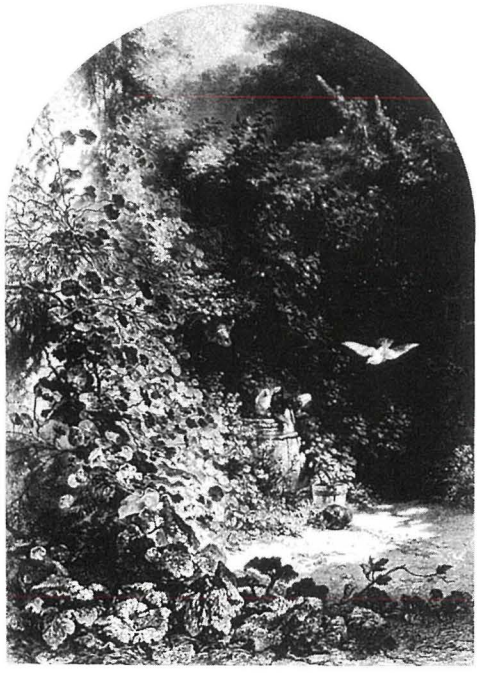

会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	A.アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング、紙	7.0×15.1
2	A.アピアン	ロメ谷	1868	エッチング、紙	10.1×19.1
3	A.アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング、紙	14.1×23.3
4	A.アピアン	マントン近郊	1879	エッチング、紙	12.2×20.1
5	H.J.アルピニー	川辺の道	不詳	水彩、紙	23.9×33.7
6	H.J.アルピニー	川辺	不詳	水彩、紙	22.5×33.8
7	A.アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ、木炭、紙	55.7×41.6
8	A.アロンジェ	森の中	不詳	水彩、紙	53.5×75.7
9	J. B. C. コロー	ひざまづくマグダラのマリア	1858	クリシェ=ヴェール、紙	16.5×11.4
10	J. B. C. コロー	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5×22.0
11	J. B. C. コロー	植林された平野	1866	エッチング、紙	10.0×13.0
12	Ch. E. ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8×19.3
13	Ch. E. ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ	不詳	油彩、キャンバス	81.2×65.0
14	Ch. E. ジャック	オランダ牛	不詳	エッチング、紙	11.0×17.9
15	Ch. E. ジャック	雄鳥と雌鳥	不詳	エッチング、紙	12.1×17.0
16	Ch. E. ジャック	夏	不詳	エッチング、紙	12.8×9.7
17	Ch. E. ジャック	水飲み場	不詳	エッチング、紙	14.5×21.0
18	Ch. E. ジャック	豚飼いの少年	不詳	エッチング、紙	11.5×17.7
19	L. シャブリ	牧場と木々	不詳	油彩、キャンバス	32.0×47.5
20	L. シャブリ	アレスの道	不詳	エッチング、紙	14.3×20.8
21	J. デュプレ	ソローニュの風車	1835	リトグラフ、紙	19.6×14.0
22	J. デュプレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7×20.7
23	J. デュプレ	イギリス風景	1836	リトグラフ、紙	12.9×20.7
24	J. デュプレ	アランソン風景	1839	リトグラフ、紙	13.3×19.0
25	A. ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩、キャンバス	40.0×68.0
26	Ch. ドービニー	レバノンの西洋杉	1842	エッチング、紙	17.5×11.3
27	Ch. ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4×34.3
28	Ch. ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14.0×23.9
29	Ch. ドービニー	ヴィラーヴィル海岸	不詳	エッチング、紙	9.2×19.8

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
30	C. トロワイヨン	牛のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	80.6×99.7
31	J. L. ブラカサ	海辺の羊	不詳	油彩、キャンバス	49.0×65.0
32	F. L. フランセ	風景ー丘陵の牛	1859	パステル、紙	54.7×82.6
33	F. L. フランセ	沼辺の犬	不詳	リトグラフ、紙	15.6×24.7
34	K. ボドメール	鹿の呼び声	不詳	油彩、キャンバス	101.0×81.0
35	K. ボドメール	鹿	不詳	エッチング、手彩色、紙	8.7×13.5
36	K. ボドメール	鳥の水場	不詳	リトグラフ、紙	48.8×34.4
37	J. F. ミレー	裁縫する女	1855-56	エッチング、紙	10.5×7.4
38	J. F. ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0×34.0
39	J. F. ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング、紙	19.2×34.0
40	P. ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3×28.0
41	P. ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5×14.0
42	E. A. ラヴィエイユ	村の眺め	不詳	油彩、キャンバス	32.8×56.0
43	L. リッシェ	農婦のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	43.8×59.7
44	Th. ルソー	ビオーのサクランボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1×27.7
45	Th. ルソー	ビオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.8×27.7
46	Th. ルソー	樫の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7×17.2
47	不詳	コローの肖像	不詳	エッチング、紙	11.9×10.9
48	不詳	ユエの肖像	不詳	エッチング、紙	15.1×11.2
49	不詳	ドービニーの肖像	不詳	エッチング、紙	21.4×15.3

＊　寸法は縦×横。
＊　No.17、18は松山雄策氏蔵、他は北海道立帯広美術館蔵。



ボドメール「鳥の水場」



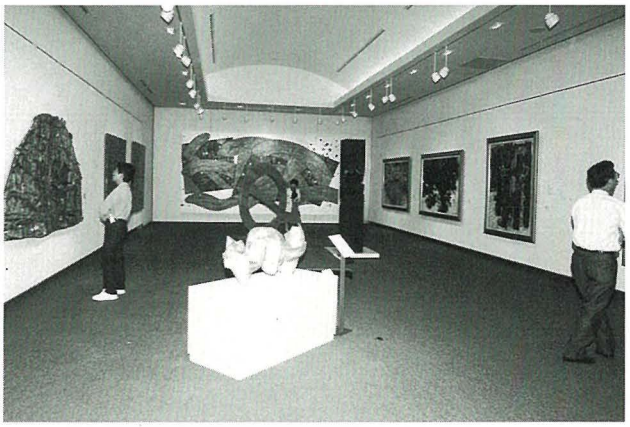
リッシェ「農婦のいる風景」

抽象の遥かな風　道東の作家たち

会期＝平成8年7月20日(土)―12月1日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

現実に存在する風景や人物を忠実に模倣する再現的美術に対し、一方では、色彩や形態、素材感といった美術作品を構成する諸要素を駆使してそれ自体で独立した美的空間を創造しようとするさまざまな美術的傾向がある。抽象美術は、その代表的な例といえる。

再現的美術から抽象的美術への指向は、十勝をはじめとした道東の作家たちの作品にも見て取れる。この展覧会では、当館所蔵作品のうち道東地域において抽象的表現を模索した9作家の作品16点を展示し、イメージや形態の個性的な表現を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	岡沼　淳一	MONSOON	1988（昭和63）	木	185.0×44.3×190.0
2	岡沼　淳一	far away	1992（平成4）	木	高さ44.0
3	神田　日勝	人と牛B	1968（昭和43）	油彩、板	183.5×182.5
4	武田　伸一	凍土	1966（昭和41）	油彩、キャンバス	182.0×229.0
5	寺島　春雄	柵と人	1957（昭和32）	油彩、キャンバス	162.1×130.7
6	寺島　春雄	黒の凶地	1959（昭和34）	油彩、キャンバス	130.9×194.2
7	寺島　春雄	赤の原野	1959（昭和34）	油彩、キャンバス	131.3×194.3
8	富谷　道信	マントル対流	1976（昭和51）	鉄	40.0×40.0×230.0
9	富谷　道信	アデラの記憶	1980（昭和55）	木	115.0×30.0×30.0
10	中江　紀洋	HAHA(祈り)	1994（平成6）	スプルース、金属	91.5×107.0×156.0
11	中谷　有逸	碑（海・蠕動）	1995（平成7）	凹凸併用版、コラージュ、紙	270.0×540.0
12	檜原　武正	作品“赤”	1984（昭和59）	トタン板、コラージュ、油彩	180.0×180.0
13	檜原　武正	無題	1984（昭和59）	トタン板、釘、針金、塗料	170.0×170.0
14	檜原　武正	黒の惑星'90-17	1990（平成2）	トタン板、空き缶、廃品、釘、針金、塗料	154.5×302.0
15	森　健二	光年のメロディーNo.3	1968（昭和43）	油彩、キャンバス	130.5×162.5
16	森　健二	光年の導「道」	1983（昭和58）	油彩、キャンバス	130×162.0

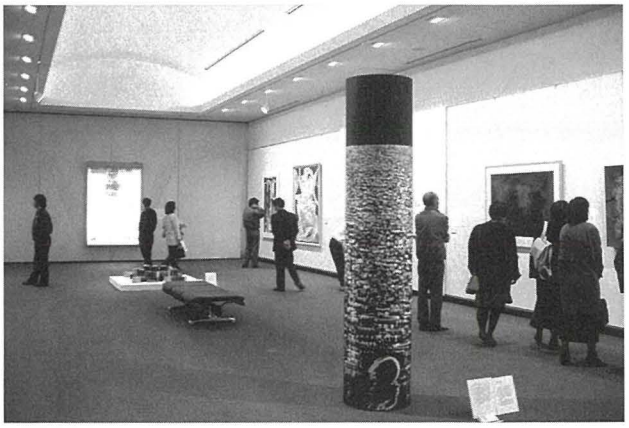
＊　寸法は、立体作品は奥行×幅×高さ、平面作品は縦×横。
＊　作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

現代版画 — [版] の手法

会期＝平成8年12月7日(土) — 平成9年3月30日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

版画はもともと絵画の複製技術として発達し、木版画、銅版画などの技法を生み出してきた。しかし1960年代以降、版画とは「版」を媒介として画像や形態を間接的に他の素材に転写したものとより広く定義づけられるようになり、さまざまな技法や素材を用いて従来の版画のイメージを超える斬新な作品が制作されてきた。

この展覧会では、当館所蔵作品を中心にした13作家の17作品を、特にその多彩な技法や制作方法に焦点をあてながら展示し、拡張する現代版画の世界を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	秋岡　美帆	ゆれるかげ	1992	スキャナグラフ(NECO)、麻紙	153.5×212.5
2	一原　有徳	SON4(b)	1983	モノタイプ、紙	径50.1×240.0
3	大浦　一志	杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13…普賢岳(川は水を必要としていた)	1994	ミクストメディア、印画紙	169.0×225.0
4	太田　三郎	Stamp map of Hokkaido "December29,1993"	1993	切手、消印	290.0×360.0
5	岡部　昌生	オビヒロ・マトリックス1991の10ピース	1991	鉛筆、フロッタージュ、紙	各50.9×39.4(10点組)
6	島　　州一	指紋と木目	1976	シルクスクリーン、角材	11.0×11.0×26.0他(24点組)
7	島　　州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、段ボール、和紙	99.0×69.0
8	島　　州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、和紙	73.0×63.5
9	島　　州一	CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS No.38	1982-85	フィンガープリント、シルクスクリーン、チョーク、スチレンボード、アクリルボックス	90.0×98.0×d11.3
10	森村　泰昌	寒雀寒鳩（御舟）	1990	カラー写真プリント	155.0×120.0
11	森村　泰昌	野菜涅槃（若沖）	1990	カラー写真プリント	208.0×120.0
12	デイヴィッド・ホックニー	グランド・キャニオンの北側を見る 1982年9月　アリゾナ	1982	フォト・コラージュ	114.0×252.7
13	ロイ・リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6×114.3
14	ロバート・ラウシェンバーグ	スリング—ショッツ・リットNo.8	1985	シルクスクリーン、ミクストメディア	214.3×141.8×d32.2
15	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0×126.5
16	マイク・スターン、ダグ・スターン	若い娘たち	1990-93	印画紙、透明フィルム、木	57.5×46.0×d5.5他(9点組)
17	フランク・ステラ	スワン・エングレイヴィング、ブルー、グリーン、グレー	1985	エッチング、ミクストメディア、紙	169.0×133.0

＊　寸法は、立体作品は奥行×幅×高さ、または径×高さ。平面（レリーフ）作品は、縦×横（×d奥行）。
＊　No.10、11は双ギャラリー蔵、No.13はプライベート・コレクション、他は北海道立帯広美術館蔵。

平成7年度特別展一覧

No.	展覧会名	会期	開催日数	主催・後援ほか
1	特別展＝歌川国貞 幻のコレクション－［浄瑠璃づくし］と［百人美女］	4月15日(土)～ 5月14日(日)	26	主催／北海道立帯広美術館、札幌テレビ放送、十勝毎日新聞社
2	オホーツク・魂の還流 居串佳一展	5月20日(土)～ 6月18日(日)	26	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社 協力／網走市立美術館、道銀文化財団
3	ボナール、マティス、ブラック、ミロ、シャガールから今日の作家まで 20世紀美術への眼差し マーグ・コレクション展	6月24日(土)～ 7月30日(日)	32	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、北海道新聞社、マーグ・コレクション展実行委員会 後援／フランス大使館 協力／日本航空
4	視覚の逍遙・夢のコラージュ アンドレ・フランソワ展	8月5日(土)～ 9月3日(日)	26	主催／北海道立帯広美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 後援／フランス大使館 協力／日本航空、日本グラフィックデザイナー協会 協賛／花王株式会社
5	ルオー版画展 光と闇のレクイエム	9月9日(土)～ 10月10日(火)	27	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会、北海道新聞社 協力／ハーモ美術館
6	現代具象絵画の巨匠 ビュッフェ展 精神の漂泊	10月17日(火)～ 11月26日(日)	35	主催／北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、ビュッフェ展実行委員会 後援／フランス大使館、十勝町村会、帯広市教育委員会、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中校会、帯広市小中校長会連合会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広青年会議所、帯広市町内会連絡協議会、帯広市婦人団体連絡協議会、帯広市老人クラブ連合会、帯広市民劇場運営協議会、帯広市文化スポーツ振興財団、日専連帯広会、NCおびひろ、帯広デザイナーズ協会、とかちカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA 協力／日本航空 協賛／NTT帯広支店、帯広建設業協会、帯広信用金庫、帯広日産自動車株式会社、東洋印刷株式会社
7	今日のプリントアート展	12月2日(土)～ 1月28日(日)	41	主催／北海道立帯広美術館
8	イギリス木版画展　1890～1945	2月3日(土)～ 3月27日(水)	44	主催／北海道立帯広美術館、ブリティッシュ・カウンシル 協力／郡山市立美術館

平成8年度特別展一覧

No.	展覧会名	会期	開催日数	主催・後援ほか
1	風韻のカンヴァス **能勢眞美展** 草木を愛で、詩趣を写す。	4月9日(火)～ 6月2日(日)	47	主催／北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、NHK帯広放送局
2	**マヤ古代文明の遺産** 興亡の謎を探る	6月8日(土)～ 7月14日(日)	32	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社、マヤ古代文明の遺産展実行委員会 後援／外務省、グァテマラ政府文化スポーツ省、在グァテマラ日本大使館、在日グァテマラ大使館、グァテマラ国立考古学民族学博物館、グァテマラ・ポポル・ヴフ博物館 協力／京都外国語大学、京都文化博物館、コンピューター・システム㈱、㈱田中地質コンサルタント、たばこと塩の博物館、㈶資源・環境観測解析センター、東京家政大学生活資料館
3	**プラハ国立美術館所蔵浮世絵展** 歌麿、写楽、北斎、広重…	7月20日(土)～ 8月18日(日)	26	主催／北海道立帯広美術館 後援／文化庁、チェコ文化省、チェコ共和国大使館
4	モンマルトル点景―白の哀愁 **ユトリロ展**	8月24日(土)～ 9月29日(日)	31	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会 後援／フランス大使館
5	日本の美〈雅(みやび)〉と〈彩(いろどり)〉 **富士美術館名品展**	10月8日(火)～ 11月17日(日)	35	主催／北海道立帯広美術館、富士美術館、帯広市、十勝毎日新聞社、富士美術館名品展実行委員会 後援／十勝町村会、帯広市教育委員会、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中校長会、帯広市小中学校長会連合会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広青年会議所、帯広市町内会連絡協議会、帯広市婦人団体連絡協議会、帯広市老人クラブ連合会、帯広市民劇場運営協議会、帯広市文化スポーツ振興財団、日専連帯広会、帯広デザイナーズ協会、とかちカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA 協力／NCおびひろ、NTT帯広支店、帯広日産自動車株式会社、東洋印刷株式会社
6	北海道・今日の美術 **語る身体(からだ)・10人のアプローチ**	12月7日(土)～ 1月12日(日)	24	主催／北海道立帯広美術館 企画／北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館、北海道立函館美術館、北海道立帯広美術館
7	帯広美術館開館5周年記念 ベル・エポックの華 **黄金時代のポスター芸術**	1月18日(土)～ 2月16日(日)	25	主催／北海道立帯広美術館 企画協力／谷口事務所
8	ブザンソン美術館展 **フランス美術200年の巨匠たち** ブーシェ、アングルからルノワール、ロダンまで	2月22日(土)～ 3月30日(日)	31	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社 後援／外務省、文化庁、フランス大使館 協力／エールフランス、全日空

特別展＝歌川国貞　幻のコレクション―［浄瑠璃づくし］と［百人美女］

会期＝平成7年4月15日(土)―5月14日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、札幌テレビ放送、
　　十勝毎日新聞社

関連事業

特別展セミナー
「繚乱の幕末浮世絵師・国貞」
講師＝佐藤幸宏（当館学芸員）
日時＝4月29日(土)、5月6日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

土曜映写室
「浮世絵と歌川広重」「東海道五十三次」
日時＝4月15日(土)、22日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

長い江戸時代を通じ、町民文化の興隆の中から生まれた浮世絵版画は、幕末期には高度な技術的発展を遂げ、芸術性の高い表現を生み出した。とりわけこの時代に多くのすぐれた絵師を輩出した歌川派の総帥として浮世絵界に君臨したのが、歌川国貞（天明6年－元治元年、1786－1864）である。80年近くの生涯に描いた作品は数万点とも言われ、浮世絵史上最大の作画量を誇る人気絵師であった。

本展は、絶大な名声を博したこの国貞の幻の名作二組、完全な揃いでは世界唯一とされる《浄瑠璃づくし》（10枚揃い）と、やはり完全な揃いでは初公開となる《江戸名所百人美女》（100枚揃い）により、国貞芸術の精華を紹介したものである。

庶民文化の中で花開いた浄瑠璃を題材に「粋」の美意識を斬新な造形の内に昇華させた代表作《浄瑠璃づくし》と、国貞晩年の円熟した筆力を見せる《江戸名所百人美女》の2つのシリーズの展覧を中心に、さらに《新板錦絵当世美人合梅好きどり》など希少な初期の名品3点を加え総計113点を展示、国貞芸術の魅力をあますところなく伝えるものとなった。

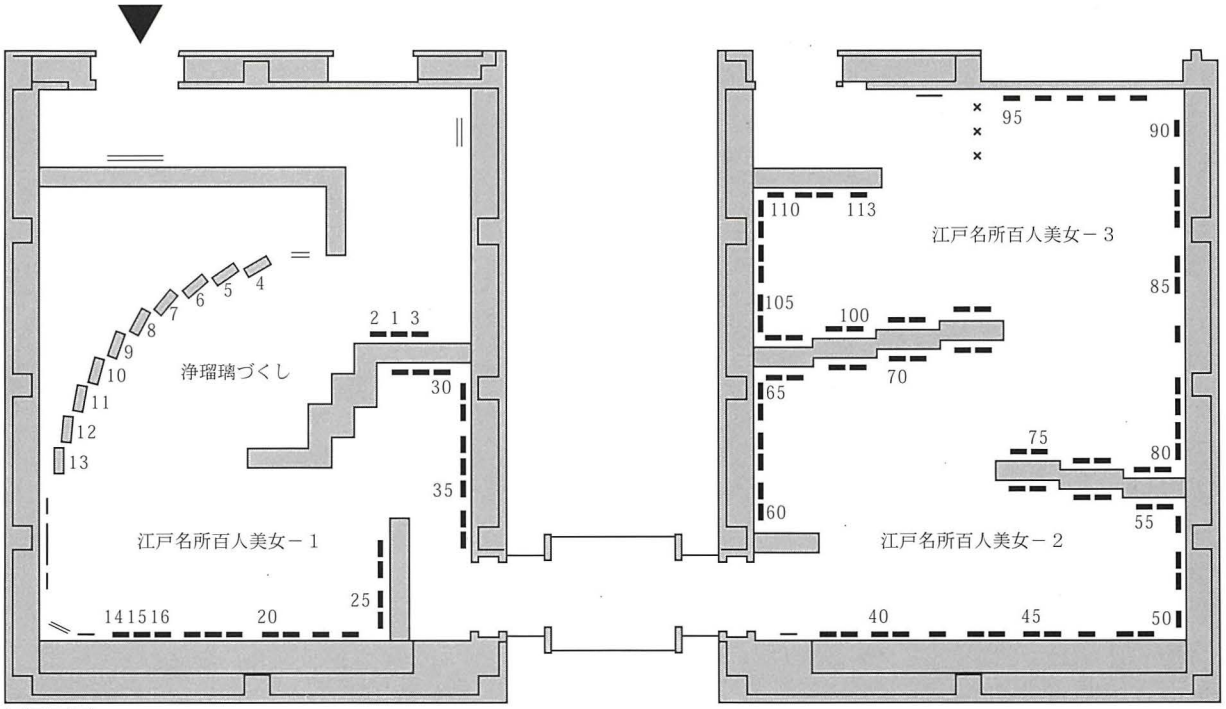
《浄瑠璃づくし》の展示に際しては、保存面と視認性を考慮した単品展示台を特別に製作して10点を扇形に配置し、シリーズ全体を眺望しつつ1点1点が空間に浮かび上がるような展示演出を試みた。

なお、出品作品はいずれも帯広在住の高橋博信氏（日本浮世絵協会理事）のコレクションであるが、平成9年2月に同氏は逝去された。本展の実現にあたって多大なご協力をいただくとともに、浮世絵芸術の研究発展に尽力された同氏のご冥福をお祈りしたい。



ポスター


図録



展示図面


会場風景


会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	版型
1	青楼美人雪月花　花	文化6（1809）	長大判錦絵
2	今様大津絵	文化12（1815）	大判錦絵
3	新板錦絵当世美人合　梅好きどり	文化14（1817）	大判錦絵
4	浄瑠璃づくし　おふさ徳兵衛　心中重井筒	天保3（1832）	大判錦絵
5	浄瑠璃づくし　小春治兵衛　増補天の網島	天保3（1832）	大判錦絵
6	浄瑠璃づくし　梅川忠兵衛　傾城恋の飛脚	天保3（1832）	大判錦絵
7	浄瑠璃づくし　三勝半七　女舞剣の紅葉	天保3（1832）	大判錦絵
8	浄瑠璃づくし　お千代半兵衛　心中宵庚申	天保3（1832）	大判錦絵
9	浄瑠璃づくし　お妻八郎兵衛　桜鍔恨みの鮫鞘	天保3（1832）	大判錦絵
10	浄瑠璃づくし　梅が枝源太　ひらがな盛衰記	天保3（1832）	大判錦絵
11	浄瑠璃づくし　お染久松　染め模様妹背の門松	天保3（1832）	大判錦絵
12	浄瑠璃づくし　お俊伝兵衛　近頃河原の達引き	天保3（1832）	大判錦絵
13	浄瑠璃づくし　小紫権八　驪山比翼塚	天保3（1832）	大判錦絵

No.	作品名	制作年	版型
14	江戸名所百人美女　根岸	安政4（1857）	大判錦絵
15	江戸名所百人美女　新吉原満花	安政4（1857）	大判錦絵
16	江戸名所百人美女　阿寿かやま	安政4（1857）	大判錦絵
17	江戸名所百人美女　芝神明	安政4（1857）	大判錦絵
18	江戸名所百人美女　か屋ば町	安政4（1857）	大判錦絵
19	江戸名所百人美女　築地門跡	安政4（1857）	大判錦絵
20	江戸名所百人美女　五百羅かん	安政4（1857）	大判錦絵
21	江戸名所百人美女　大師河原	安政4（1857）	大判錦絵
22	江戸名所百人美女　日くらしの里	安政4（1857）	大判錦絵
23	江戸名所百人美女　赤さかの氷川	安政4（1857）	大判錦絵
24	江戸名所百人美女　御茶の水	安政4（1857）	大判錦絵
25	江戸名所百人美女　両国ばし	安政4（1857）	大判錦絵
26	江戸名所百人美女　山王御宮	安政4（1857）	大判錦絵
27	江戸名所百人美女　日本ばし	安政4（1857）	大判錦絵
28	江戸名所百人美女　芝あたご	安政4（1857）	大判錦絵
29	江戸名所百人美女　深川八幡	安政4（1857）	大判錦絵
30	江戸名所百人美女　駿河町	安政4（1857）	大判錦絵
31	江戸名所百人美女　赤羽根水天宮	安政4（1857）	大判錦絵
32	江戸名所百人美女　堀切菖蒲	安政4（1857）	大判錦絵
33	江戸名所百人美女　天神	安政4（1857）	大判錦絵
34	江戸名所百人美女　今戸	安政4（1857）	大判錦絵
35	江戸名所百人美女　堀の内祖師堂	安政4（1857）	大判錦絵
36	江戸名所百人美女　梅やしき	安政4（1857）	大判錦絵
37	江戸名所百人美女　葵坂	安政4（1857）	大判錦絵
38	江戸名所百人美女　長命寺	安政4（1857）	大判錦絵
39	江戸名所百人美女　三縁山増上寺	安政4（1857）	大判錦絵
40	江戸名所百人美女　浅草寺	安政4（1857）	大判錦絵
41	江戸名所百人美女　王子稲荷	安政4（1857）	大判錦絵
42	江戸名所百人美女　湯島天神	安政4（1857）	大判錦絵
43	江戸名所百人美女　神田のやしろ	安政4（1857）	大判錦絵
44	江戸名所百人美女　高縄	安政4（1857）	大判錦絵
45	江戸名所百人美女　東本願寺	安政4（1857）	大判錦絵
46	江戸名所百人美女　霞ケ関	安政4（1857）	大判錦絵
47	江戸名所百人美女　成田山旅宿	安政4（1857）	大判錦絵
48	江戸名所百人美女　根津権現	安政4（1857）	大判錦絵



「新板錦絵当世美人合　梅好きどり」



「浄瑠璃づくし　おふさ徳兵衛　心中重井筒」

No.	作品名	制作年	版型
49	江戸名所百人美女　志のばず弁天	安政4（1857）	大判錦絵
50	江戸名所百人美女　墨水花豊	安政4（1857）	大判錦絵
51	江戸名所百人美女　小石川牛天神	安政4（1857）	大判錦絵
52	江戸名所百人美女　品川歩行新宿	安政4（1857）	大判錦絵
53	江戸名所百人美女　大川橋　里俗吾妻ばし	安政4（1857）	大判錦絵
54	江戸名所百人美女　新ばし	安政4（1857）	大判錦絵
55	江戸名所百人美女　猿若町	安政4（1857）	大判錦絵
56	江戸名所百人美女　上野東叡山	安政4（1857）	大判錦絵
57	江戸名所百人美女　木母寺	安政4（1857）	大判錦絵
58	江戸名所百人美女　洲崎	安政4（1857）	大判錦絵
59	江戸名所百人美女　妻恋稲荷	安政4（1857）	大判錦絵
60	江戸名所百人美女　木場	安政4（1857）	大判錦絵
61	江戸名所百人美女　目黒瀧泉寺	安政4（1857）	大判錦絵
62	江戸名所百人美女　染井	安政4（1857）	大判錦絵
63	江戸名所百人美女　花川戸	安政4（1857）	大判錦絵
64	江戸名所百人美女　江戸ばし	安政4（1857）	大判錦絵
65	江戸名所百人美女　首尾の松	安政4（1857）	大判錦絵
66	江戸名所百人美女　八町堀	安政4（1857）	大判錦絵
67	江戸名所百人美女　呉服ばし	安政4（1857）	大判錦絵
68	江戸名所百人美女　永代橋	安政4（1857）	大判錦絵
69	江戸名所百人美女　三圍	安政4（1857）	大判錦絵
70	江戸名所百人美女　鋲炮洲	安政5（1858）	大判錦絵
71	江戸名所百人美女　神楽坂	安政5（1858）	大判錦絵
72	江戸名所百人美女　四ツ谷	安政5（1858）	大判錦絵
73	江戸名所百人美女　浅草田町	安政5（1858）	大判錦絵
74	江戸名所百人美女　第六天神	安政5（1858）	大判錦絵
75	江戸名所百人美女　駒形	安政5（1858）	大判錦絵
76	江戸名所百人美女　三田聖坂	安政5（1858）	大判錦絵
77	江戸名所百人美女　海晏寺	安政5（1858）	大判錦絵
78	江戸名所百人美女　柳島	安政5（1858）	大判錦絵
79	江戸名所百人美女　いひ田まち	安政5（1858）	大判錦絵
80	江戸名所百人美女　鎧のわたし	安政5（1858）	大判錦絵
81	江戸名所百人美女　京ばし	安政5（1858）	大判錦絵
82	江戸名所百人美女　溜いけ	安政5（1858）	大判錦絵
83	江戸名所百人美女　小梅	安政5（1858）	大判錦絵



「浄瑠璃づくし　小紫権八　驪山比翼塚」



「江戸名所百人美女　五百羅かん」

No.	作品名	制作年	版型
84	江戸名所百人美女　婦る川	安政5（1858）	大判錦絵
85	江戸名所百人美女　あさぎがはら	安政5（1858）	大判錦絵
86	江戸名所百人美女　芝神明前	安政5（1858）	大判錦絵
87	江戸名所百人美女　吉徳稲荷	安政5（1858）	大判錦絵
88	江戸名所百人美女　尾張町	安政5（1858）	大判錦絵
89	江戸名所百人美女　鏡ケ池	安政5（1858）	大判錦絵
90	江戸名所百人美女　竪川	安政5（1858）	大判錦絵
91	江戸名所百人美女　浅草す八丁	安政5（1858）	大判錦絵
92	江戸名所百人美女　御舟蔵前	安政5（1858）	大判錦絵
93	江戸名所百人美女　千束	安政5（1858）	大判錦絵
94	江戸名所百人美女　柳ばし	安政5（1858）	大判錦絵
95	江戸名所百人美女　とりのまち	安政5（1858）	大判錦絵
96	江戸名所百人美女　大音寺まへ	安政5（1858）	大判錦絵
97	江戸名所百人美女　白銀粉目呂	安政5（1858）	大判錦絵
98	江戸名所百人美女　三味せんぼり	安政5（1858）	大判錦絵
99	江戸名所百人美女　するがだい	安政5（1858）	大判錦絵
100	江戸名所百人美女　新大はし	安政5（1858）	大判錦絵
101	江戸名所百人美女　白髭明神	安政5（1858）	大判錦絵
102	江戸名所百人美女　十軒店	安政5（1858）	大判錦絵
103	江戸名所百人美女　人形町	安政5（1858）	大判錦絵
104	江戸名所百人美女　薬げんぼり	安政5（1858）	大判錦絵
105	江戸名所百人美女　上野山下	安政5（1858）	大判錦絵
106	江戸名所百人美女　志ん宿	安政5（1858）	大判錦絵
107	江戸名所百人美女　今戸	安政5（1858）	大判錦絵
108	江戸名所百人美女　よし原	安政5（1858）	大判錦絵
109	江戸名所百人美女　よし町	安政5（1858）	大判錦絵
110	江戸名所百人美女　今川ばし	安政5（1858）	大判錦絵
111	江戸名所百人美女　千住	安政5（1858）	大判錦絵
112	江戸名所百人美女　御殿山	安政5（1858）	大判錦絵
113	江戸名所百人美女　内藤新宿	安政5（1858）	大判錦絵

＊　作品はすべて高橋博信氏蔵



「江戸名所百人美女　鋲炮洲」



「江戸名所百人美女　柳ばし」

オホーツク・魂の還流　居串佳一展

会期＝平成7年5月20日(土)―6月18日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社

協力＝網走市立美術館、道銀文化財団

関連事業

特別展セミナー
「居串佳一―北方のロマンとその精神風土」
講師＝寺嶋弘道（当館学芸課長）
日時＝5月27日(土)、6月10日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

土曜映写室
「オホーツクわが魂―居串佳一の世界」
「北海道の美術　絵画編」
日時＝5月20日(土)、6月3日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



ポスター



図録

居串佳一は、昭和戦前期から戦後にかけて活躍した道東ゆかりの画家である。1911（明治44）年北海道常呂郡野付牛村（現・北見市）に屯田兵の次男として生まれた居串は、網走にあって北海道美術協会（道展）や独立美術協会への出品を重ね、画家としての地歩を固めていった。1935年には上京を果たすが、戦後の一時期は北海道に戻り全道美術協会（全道展）の結成に参加するなど北海道画壇の発展にも深く関わった。道内外にあって旺盛な制作活動を繰り広げたが、1955（昭和30）年札幌滞在中に病をえて、惜しまれつつ44歳の生涯を閉じた。

本展は、網走市立美術館所蔵作品を中心とした油彩、水彩、素描により、その生涯と絵画世界を振り返る回顧展である。オホーツクの海辺や道東の大地に生きる人々の姿を、時に写実的に時に幻想的に描き、晩年にはアイヌの叙事詩に着想をえた作品を制作するなど、生涯、北海道の風土に根ざした作品を創りだすことを目指したこの画家の全貌が紹介された。

展覧会構成は、油彩作品を編年によって下記の4セクションに区分し、主展示室の第1室と第2室に二分して展示した。素描作品については第2室にコーナーを設けて一括して展示した。

1　風景を築く　（昭和5～10年）
2　北方的ロマンティシズム（昭和11～19年）
3　親愛なるまなざし　（昭和20～25年）
4　ユーカラへの賛歌（オマージュ）　（昭和26～30年）

なお、会期半ばに帯広市内の個人から居串作品貸し出しの申し出があり、従軍画家時代の貴重な淡彩スケッチであったので、6月3日から「千島スケッチ」として4点の作品を参考出品した。



会場風景



会場風景

出品目録

1　風景を築く

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）	所蔵
1	コスモス	1930（昭和5）	水彩、紙	52.8×44.0	——
2	そいのある静物	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	46.0×53.5	桂田桂子氏
3	北大構内	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	53.3×65.3	桂田桂子氏
4	船着場	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	48.4×63.3	網走市立美術館
5	風景	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	71.6×90.0	網走市立美術館
6	夏のオホーツク海	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	91.1×117.0	網走神社
7	摩周湖	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	53.3×65.5	北海道網走南ヶ丘高等学校
8	月夜	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	31.8×41.0	鈴木三喜男氏
9	雪の風景	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	72.5×91.0	北海道共済農業協同組合連合会
10	雪の風景	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	90.0×116.0	網走市立美術館
11	北見風景	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	73.0×91.2	中山衡一氏
12	風景	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	88.0×114.0	網走市立美術館
13	夏山	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	90.0×116.0	網走市立美術館
14	作業場	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	64.0×79.0	網走市立美術館
15	冬期捕鯨場	1934（昭和9）	油彩、キャンバス	90.0×116.0	網走市立美術館
16	雪の風景	1934（昭和9）	油彩、キャンバス	88.5×129.0	網走市立美術館
17	海	1934（昭和9）	油彩、キャンバス	93.0×142.7	網走市立美術館
18	磯	1934（昭和9）	油彩、キャンバス	110.0×144.0	網走市立美術館
19	海とかまど	1935（昭和10）	油彩、キャンバス	95.6×129.0	網走市立美術館
20	氷上漁業	1936（昭和11）	油彩、キャンバス	129.5×162.2	網走市立美術館

2　北方的ロマンティシズム

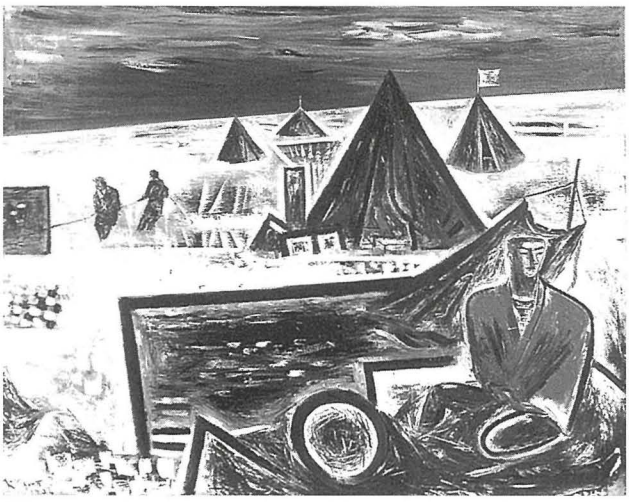
No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）	所蔵
21	海に生く	1936（昭和11）	油彩、キャンバス	190.5×94.0	網走市立美術館
22	静夜	1937（昭和12）	油彩、キャンバス	193.9×97.0	網走市立美術館
23	漂泊	1939（昭和14）	水彩、紙	74.5×56.3	木村政幸氏
24	漂泊	1939（昭和14）	油彩、キャンバス	227.3×181.8	網走市立美術館
25	曠原	1940（昭和15）	油彩、キャンバス	223.5×179.0	網走市立美術館
26	旅人	1940（昭和15）	油彩、キャンバス	158.5×127.0	網走市立美術館
27	動物園	1940（昭和15）	油彩、キャンバス	80.3×65.1	網走市立美術館
28	北方に生く	1941（昭和16）	油彩、キャンバス	178.0×223.5	網走市立美術館
29	村境	1942（昭和17）	油彩、キャンバス	175.5×221.5	網走市立美術館
30	午睡	1943（昭和18）	油彩、キャンバス	91.1×116.8	北海道警察北見方面本部
31	戦闘	1943（昭和18）	油彩、キャンバス	158.5×127.0	網走市立美術館
32	夜襲	1944（昭和19）	油彩、キャンバス	157.5×127.0	網走市立美術館
33	焚火	1944（昭和19）	油彩、キャンバス	92.5×188.7	網走市立美術館
34	朝霧（北方）	1944（昭和19）	油彩、キャンバス	72.7×116.7	北海道立近代美術館

3　親愛なるまなざし

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）	所蔵
35	眠る山羊	1946（昭和21）	油彩、キャンバス	45.3×52.8	網走信用金庫
36	氷上の賑わい	1946（昭和21）	油彩、キャンバス	94.5×190.0	網走市立美術館
37	春漁	1947（昭和22）	油彩、キャンバス	90.2×116.0	網走市立美術館
38	オホーツク海の漁人	1948（昭和23）	油彩、キャンバス	145.0×72.5	網走市立美術館
39	百合	1948（昭和23）	油彩、キャンバス	116.0×91.0	網走市立美術館
40	りんご園の母子	1948（昭和23）	油彩、キャンバス	116.7×91.1	網走市立中央小学校
41	リンゴ園の娘	1948（昭和23）	油彩、キャンバス	116.0×73.5	網走市立美術館
42	樹氷と月	1948（昭和23）	油彩、キャンバス	91.0×116.3	東藻琴村
43	野の母娘	1949（昭和24）	油彩、キャンバス	113.5×70.7	網走市立美術館
44	船のり	1949（昭和24）	油彩、キャンバス	116.0×90.5	北海道
45	漁港の早春	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	90.9×116.7	網走市立美術館
46	河	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	91.1×117.0	網走市立網走小学校
47	川添ひの家	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	72.7×116.8	網走市立網走第一中学校
48	静物	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	31.5×41.0	釧路市教育委員会
49	鬼づた	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	41.0×31.5	——

4　ユーカラへの賛歌（オマージュ）

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）	所蔵
50	朝	1951（昭和26）	油彩、キャンバス	88.7×116.0	網走市立美術館
51	虫籠	1951（昭和26）	油彩、キャンバス	91.2×72.7	——
52	日傘	1952（昭和27）	油彩、キャンバス	80.0×64.8	網走市立美術館
53	群像	1952（昭和27）	油彩、キャンバス	178.5×224.0	網走市立美術館
54	裁	1953（昭和28）	油彩、キャンバス	178.5×224.0	網走市立美術館
55	憩	1953（昭和28）	油彩、キャンバス	115.5×90.5	網走市立美術館
56	あね・いもと	1954（昭和29）	油彩、キャンバス	91.2×72.9	中山衡一氏
57	ユーカラー（笛）	1954（昭和29）	油彩、キャンバス	191.0×128.5	網走市立美術館
58	ユーカラー（チパシリ）	1954（昭和29）	油彩、キャンバス	190.5×128.5	網走市立美術館
59	コタンの伝説	1955（昭和30）	油彩、キャンバス	157.7×126.5	網走市立美術館
60	愛撫	1955（昭和30）	油彩、キャンバス	116.0×91.1	網走市立美術館
61	愛犬の死	1955（昭和30）	油彩、キャンバス	116.0×91.0	網走市立美術館
62	群鴉	1955（昭和30）	油彩、キャンバス	45.5×53.0	北海道立旭川美術館



「氷上漁業」



「北方に生く」

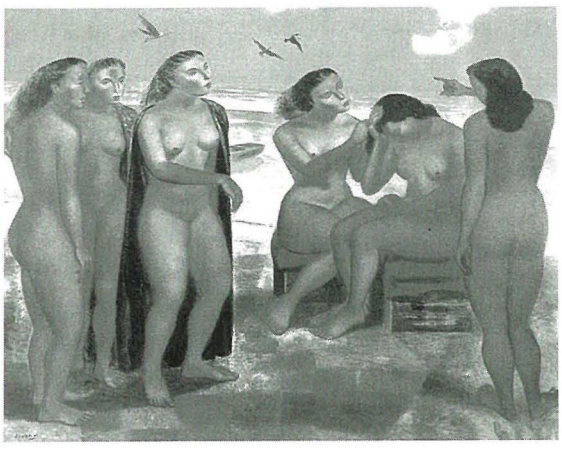
水彩・素描

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）	所蔵
63	〈トド〉	1934（昭和9）	チャコール、紙	27.0×29.0	網走市立美術館
64	〈トド〉		チャコール、紙	26.4×28.9	中山富士男氏
65	自由鳥		チャコール、紙	27.0×29.0	網走市立美術館
66	〈カラス〉		鉛筆、紙	36.1×27.5	網走市立美術館
67	〈北海道犬〉		チャコール、紙	28.3×37.5	網走市立美術館
68	〈水鳥〉	1935（昭和10）	チャコール、紙	27.1×29.0	網走市立美術館
69	〈牛〉		鉛筆、紙	19.0×26.0	中山富士男氏
70	〈港をながむ〉	1935（昭和10）頃	鉛筆、紙	27.3×36.5	網走市立美術館
71	〈氷上漁業〉	1935（昭和10）頃	鉛筆、紙	24.0×29.0	中山富士男氏
72	〈海岸風景〉	1935（昭和10）頃	チャコール、紙	22.3×28.5	網走市立美術館
73	〈碎氷風景〉	1935（昭和10）頃	チャコール、紙	22.4×28.5	網走市立美術館
74	〈女の顔〉	1936（昭和11）	チャコール、紙	28.2×24.0	網走市立美術館
75	〈座る女〉	1937（昭和12）頃	チャコール、紙	37.2×26.6	網走市立美術館
76	川湯温泉　仁伏にて	1940（昭和15）	鉛筆、紙	27.4×36.5	網走市立美術館
77	古老オンネの像	1940（昭和15）	墨、鉛筆、紙	36.7×26.8	中山富士男氏
78	〈アイヌ（於白老）〉	1940（昭和15）	墨、紙	36.1×26.8	中山富士男氏
79	〈犬〉	1941（昭和16）	鉛筆、紙	27.0×36.5	中山富士男氏
80	鷲木兎	1942（昭和17）	鉛筆、紙	36.6×27.0	中山富士男氏
81	甲子園	1942（昭和17）	鉛筆、紙	36.0×27.3	網走市立美術館
82	藻琴山頂	1950（昭和25）	インク、水彩、紙	25.7×34.6	中山富士男氏
83	藻琴山頂ヨリ網走遠望	1950（昭和25）頃	鉛筆、紙	27.3×39.5	中山富士男氏
84	〈漁港の早春〉	1950（昭和25）頃	鉛筆、紙	35.0×52.0	中山富士男氏
85	〈釧路風景スケッチ集〉	1933（昭和8）	チャコール、鉛筆、紙	27.3×24.2	中山富士男氏
86	〈満州スケッチ集（新京・奉天）〉	1936（昭和11）	チャコール、鉛筆、紙	28.0×36.9	中山富士男氏
87	〈満州スケッチ集（熱河・新京）〉	1938（昭和13）	鉛筆、紙	36.6×27.3	中山富士男氏
88	〈南京・上海スケッチ集〉	1939（昭和14）	鉛筆、紙	36.5×27.6	中山富士男氏
89	〈箱根・熱海スケッチ集〉	1942（昭和17）	鉛筆、紙	31.5×24.2	中山富士男氏
90	〈奉天スケッチ集〉	1942（昭和17）	鉛筆、紙	37.0×28.0	中山富士男氏
91	〈熱河スケッチ集〉	1942（昭和17）	鉛筆、紙	26.0×37.7	中山富士男氏
92	〈奥多摩疎開スケッチ集〉	1945（昭和20）	インク、鉛筆、紙	24.8×29.0	中山富士男氏
93	〈千島スケッチ〉	1944（昭和19）頃	水彩、インク、紙	17.8×25.6	黒澤悦子氏
94	〈千島スケッチ〉	1944（昭和19）頃	インク、紙	25.6×18.1	黒澤悦子氏
95	〈千島スケッチ〉	1944（昭和19）頃	水彩、インク、紙	18.1×25.6	黒澤悦子氏
96	〈千島スケッチ〉	1944（昭和19）頃	インク、紙	18.2×25.7	黒澤悦子氏

＊　作品名のうち〈　〉で囲まれたものは、本展のために便宜的につけたものである。
＊　寸法は縦×横。
＊　出品作品のうちNo.93～96は６月３日～６月18日の間、展示。



「船のり」



「裁」

20世紀美術への眼差し　マーグ・コレクション展

会期＝平成7年6月24日(土)―7月30日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、北海道新聞社、
　　マーグ・コレクション展実行委員会

後援＝フランス大使館
協力＝日本航空

関連事業

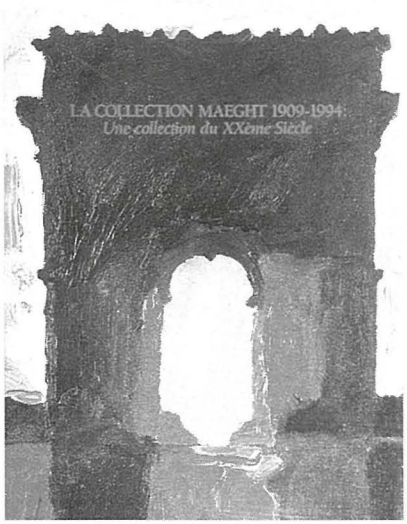
美術講演会
「芸術家たちを支えた美の擁護者
―マーグ・コレクションをめぐって」
講師＝村田　宏氏（横浜美術館学芸係長）
日時＝6月24日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

特別展セミナー
「20世紀美術への誘い」
講師＝鎌田　享（当館学芸員）
日時＝7月1日(土)、7月29日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

土曜映写室
「ボナール―視覚的冒険」
日時＝7月8日(土)、7月15日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



ポスター



図録

パリに本拠をもつマーグ画廊は、エメ・マーグとその妻マルグリットによって1945年に設立された。夫妻は、ミロ、レジェ、ジャコメッティ、ボナールらと親交を結び、彼らの作品を収集してヨーロッパ有数の画廊の地歩を築くとともに、美術雑誌『鏡の裏』や『アール・ヴィヴァン』を発行し、同時代の美術の振興に並々ならぬ情熱を傾けた。1964年には夫妻は南フランスのサン＝ポール・ド・ヴァンスにマーグ財団を設立、多年にわたるコレクションを公開するとともに、美術・音楽・演劇の枠を超えて世界の若手芸術家に発表の場を提供している。夫妻の死後は子息のアドリアン、孫のイザベルとヨーヨにその遺志が受け継がれ、先の巨匠たちに加えて黒田アキ、ガシオロフスキー、デルプラトなど新進作家の紹介と収集に精力的に取組み世界的な注目を集めている。

この展覧会は、3代にわたるマーグ・ファミリーが収集した作品を日本で初めてまとめた形で紹介するものであった。絵画・彫刻などの大作95点に加え、美術家たちがマーグ家に贈った陶器や本などの小品62点を展示し、マーグ家独自の審美眼が選び抜いた20世紀美術の華麗な世界を示すとともに、彼らと美術家たちとの親密な結びつきの一端を紹介した。20世紀ヨーロッパにおける美術家とコレクターの関係に着目したこの展覧会には、会期中9,259名の来館者があった。

なお会期中希望する来館者に対し、本展の開催会場の一つである北海道立旭川美術館と共同で作成した全16頁の図版入り解説リーフレットを配布した。これはボナールやミロ、モノリーや黒田アキなど主要な出品作品15点を取り上げ、その主題や表現の特色について応答形式の解説を行ったものである。



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	ヴァレリオ・アダミ	円柱	1980	油彩、キャンバス	97×74
2	ピエール・ボナール	横たわる少女	1921	油彩、キャンバス	56×61
3	ピエール・ボナール	ル・カンネの風景	1928	油彩、キャンバス	123×275
4	ジョルジュ・ブラック	横たわる女	1930／1952	油彩、キャンバス	74×180
5	ジョルジュ・ブラック	大きな馬の頭像	1943	ブロンズ	14×96×40
6	ジョルジュ・ブラック	鳥Ⅰ—鳥Ⅱ（ベルナールの別荘のアーチ）	1954	油彩、キャンバス	80×287
7	ジョルジュ・ブラック	黒い鳥	1956-57	油彩、キャンバス	181×229
8	アンリ・マティス	マルグリット・マーグの肖像	1945	黒鉛筆、紙	51×38
9	アンリ・マティス	茂み	1951	インク、グワッシュ、紙	149×149
10	アルベルト・ジャコメッティ	カップル	1926頃	ブロンズ	17×37×59
11	アルベルト・ジャコメッティ	台座の上の4つの小像	1950-51	ブロンズ	31×42×160
12	アルベルト・ジャコメッティ	エメ・マーグの肖像	1959	鉛筆、紙	64×49
13	アルベルト・ジャコメッティ	エメ・マーグの肖像	1960	鉛筆、紙	49×31
14	アルベルト・ジャコメッティ	マルグリット・マーグの肖像	1961	油彩、キャンバス	145×95
15	アンドレ・ドラン	船の墓場	1950	油彩、キャンバス	91×120
16	ヴァシリィ・カンディンスキー	優美なアクセント	1935	油彩、キャンバス	89×116
17	マルク・シャガール	黄色い太陽	1958	油彩、キャンバス	97×130
18	マルク・シャガール	乾いた花	1975	油彩、キャンバス	81×65

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
19	フェルナン・レジェ	大きな目の顔	1919	鉛筆、紙	15.5×11.5
20	フェルナン・レジェ	ジュリエットの顔	1919頃	鉛筆、紙	14.5×14.5
21	フェルナン・レジェ	燃えたつような毛髪の顔	1919頃	鉛筆、紙	18×12.5
22	フェルナン・レジェ	少年の顔	1919頃	鉛筆、紙	18×11
23	フェルナン・レジェ	円形の顔	1919頃	鉛筆、紙	15×14.5
24	フェルナン・レジェ	三角形の目のある顔	1919頃	鉛筆、紙	18×12.5
25	フェルナン・レジェ	黒い根	1941	油彩、キャンバス	177.1×121.5
26	フェルナン・レジェ	青い地の上の要素	1941	油彩、キャンバス	174×100.5
27	フェルナン・レジェ	アコーデオンを持つ母と子	1951	グワシュ、紙	50×65
28	フェルナン・レジェ	大パレード（習作）	1953	グワシュ、紙	77×105
29	ジョアン・ミロ	農夫	1914	油彩、キャンバス	65×50
30	ジョアン・ミロ	バルコニー	1917	油彩、キャンバス	40×35
31	ジョアン・ミロ	青いトーテム	1953	油彩、キャンバス	300×20
32	ジョアン・ミロ	絵画　I／V	1960	油彩、キャンバス	92×73
33	ジョアン・ミロ	絵画　I／V	1960	油彩、キャンバス	92×73
34	ジョアン・ミロ	アドリアンの業績を讃えて	1956	パステル、紙	37×28.5
35	ジョアン・ミロ	静寂の中の赤いアクセント	1968	油彩、ロープ、キャンバス	220×362
36	ジョアン・ミロ	砂漠の輝く鳥に導かれる辛き歩み	1968	油彩、キャンバス	194.6×391
37	ジョアン・ミロ	モニュメントのためのプロジェクト	1973	着色したブロンズ	14×28×131
38	ジョアン・ミロ	岩の上に休む渡り鳥	1973	ブロンズ	43×66×122
39	ジョアン・ミロ	無題	1978	インク、紙	58×197
40	ジョアン・ミロ	戦争の好きな王	1981	ブロンズ	50×125×130
41	アレグザンダー・コールダー	蜘蛛の巣―モビル	1965	鉄	径600×高さ300
42	ソール・スタインバーグ	ビューティー・マスク	1965	コラージュ、鉛筆、紙	57.5×72.5
43	ソール・スタインバーグ	ビジネス・マスク	1966	コラージュ、鉛筆、紙	58×72
44	ソール・スタインバーグ	法と秩序	1971	インク、紙	106×236
45	ソール・スタインバーグ	ギギットのタンゴ	制作年不詳	水彩、鉛筆、紙	42×52
46	ジャン・バゼーヌ	イザベル・マーグの肖像	1956	鉛筆、紙	27×23
47	ジャン・バゼーヌ	夜明の歌　Ⅷ	1985	油彩、キャンバス	162×97
48	ラウル・ユバック	赤い大地　Ⅱ	1973	樹脂、板	136×185
49	フランソワ・フィードラー	光の叫び	1981	油彩、キャンバス	195×130
50	アントニ・タピエス	二つの十字のある余白	1973	油彩、キャンバス	235×150
51	ジャン=ポール・リオペル	氷山　XI	1977	油彩、キャンバス	97×130
52	ピエール・タル=コア	レースⅡ	1956	油彩、キャンバス	113×208
53	ブラム・ファン・フェルデ	コンポジション	1960	油彩、キャンバス	130×192

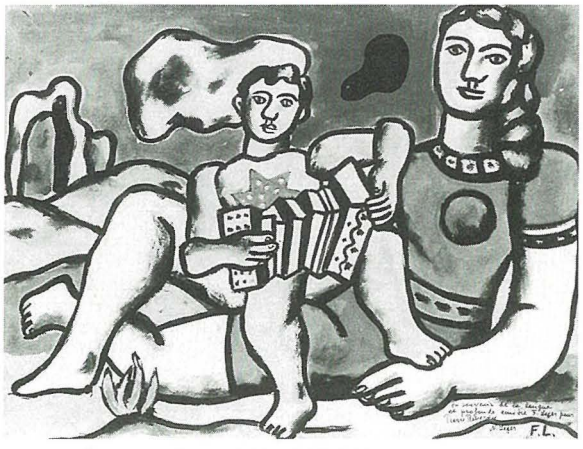


ボナール「横たわる少女」

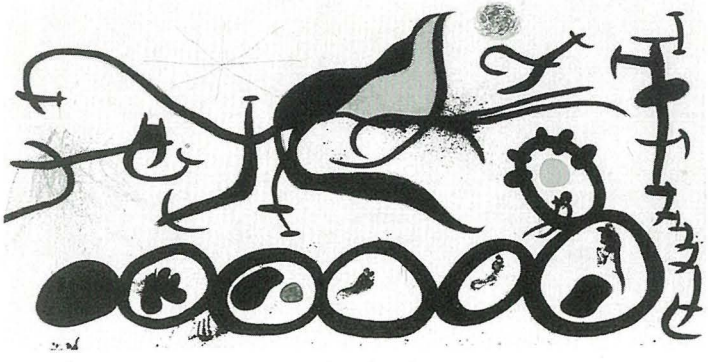


ジャコメッティ「カップル」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
54	エドゥアルド・チリィーダ	見張り	1956	鉄、小石	高さ172
55	リチャード・リンドナー	靴	1976-77	油彩、キャンバス	127×107
56	ジャック・モノリー	テクニカラーNo.19	1977	アクリル、キャンバス	150×150
57	ペーター・クラーゼン	アドリアンのための防犯扉	1981	アクリル、キャンバス	260×360
58	ヤン・フォス	無題	1982	アクリル、キャンバス	130×195
59	サム・フランシス	無題	1983	アクリル、紙	75×62
60	ジェラール・ガシオロフスキー	花（055-056）	1973-82	アクリル、紙	74×61
61	ジェラール・ガシオロフスキー	花（009-010）	1973-82	アクリル、紙	74×61
62	ジェラール・ガシオロフスキー	花（065-066）	1973-82	アクリル、紙	74×61
63	ジェラール・ガシオロフスキー	花（095-096）	1973-82	アクリル、紙	74×61
64	ジェラール・ガシオロフスキー	花（153-154）	1973-82	アクリル、紙	74×61
65	ジェラール・ガシオロフスキー	花（035-036）	1973-82	アクリル、紙	74×61
66	ジェラール・ガシオロフスキー	花（211-212）	1973-82	アクリル、紙	74×61
67	ジェラール・ガシオロフスキー	花（083-084）	1973-82	アクリル、紙	74×61
68	ジェラール・ガシオロフスキー	花（041-042）	1973-82	アクリル、紙	74×61
69	ジェラール・ガシオロフスキー	花（199-200）	1973-82	アクリル、紙	74×61
70	ジェラール・ガシオロフスキー	花（175-176）	1973-82	アクリル、紙	74×61
71	ジェラール・ガシオロフスキー	花（023-024）	1973-82	アクリル、紙	74×61
72	ジェラール・ガシオロフスキー	花（225-226）	1973-82	アクリル、紙	74×61
73	ジェラール・ガシオロフスキー	花（081-082）	1973-82	アクリル、紙	74×61
74	ジェラール・ガシオロフスキー	花（143-144）	1973-82	アクリル、紙	74×61
75	ジェラール・ガシオロフスキー	花（061-062）	1973-82	アクリル、紙	74×61
76	ジェラール・ガシオロフスキー	凱旋門	1974	アクリル、キャンバス	60×44.5
77	ドミニク・ラボヴィ	黄色い月	1991	パステル、紙	153×102.5
78	シャビエ・グラウ	聖務日課　Ⅸ	1990	ミクストメディア、紙	200×200
79	エレーヌ・デルプラト	無題	1990	アクリル、コラージュ、紙	38.5×33
80	エレーヌ・デルプラト	無題	1990	アクリル、コラージュ、紙	38.5×33
81	エレーヌ・デルプラト	無題	1990	アクリル、コラージュ、紙	38.5×33
82	エレーヌ・デルプラト	無題	1990	アクリル、コラージュ、紙	38.5×33
83	エレーヌ・デルプラト	無題	1990	ミクストメディア、キャンバス	180×200
84	マックス・ノイマン	秩序の要因	1988	デトランプ、キャンバス	200×110
85	マックス・ノイマン	肯定的欠陥	1989	デトランプ、キャンバス	210×300
86	ピエール・フォシェ	モンテ・ロトンド	1990	アクリル、インク、キャンバス	200×200
87	トマス・シュリーサー	無題	1990	油彩、石墨、キャンバス	195×150
88	マルコ・デル・レ	傷ついた詩人	1990	油彩、焦がした板	250×150

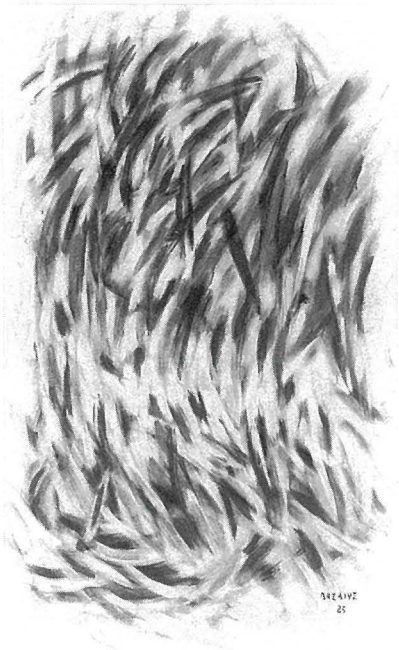


レジェ「アコーデオンを持つ母と子」

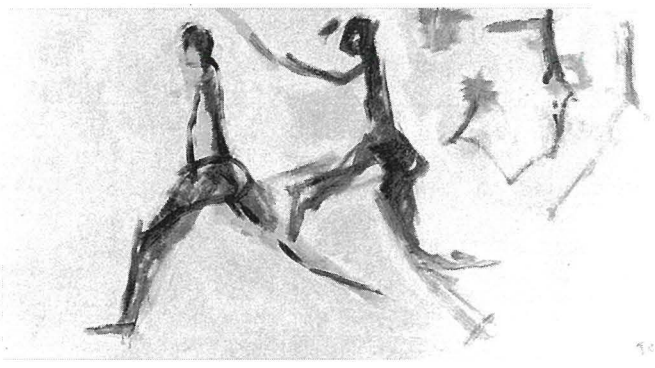


ミロ「砂漠の輝く鳥に導かれる辛き歩み」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
89	マルコ・デル・レ	建築家の啓示	1990	油彩、焦がした板	250×150
90	マリオ・スキファノ	目に見える男	1988	アクリル、キャンバス	227×152
91	ホセ・マヌエル・ブロト	第3日	1989	アクリル、キャンバス	200×200
92	黒田アキ	ベルナールの別荘のアーチ	1989	アクリル、キャンバス	80×287
93	黒田アキ	天使の羽根がささやくⅠ	1991	アクリル、キャンバス	270×160
94	黒田アキ	ミノシデラル　Ⅰ	1992	アクリル、キャンバス	195×455
95	ホセ・マリア・シシリア	いわし	1983	油彩、キャンバス	145×114
96	ジョアン・ミロ	青い夜の顔	1944	セラミック	25×18.5×18
97	ジョアン・ミロ/トリスタン・ツァラ	詩画集「ひとり語る」	1948	リトグラフ	38×29(117頁)
98	ジョアン・ミロ	マケモノ	1954	プリント、絹	41×985
99	ジョアン・ミロ	皿、赤い太陽、白い釉薬	1956	セラミック	直径37
100	ジョアン・ミロ	メリークリスマス	1957	ミクストメディア、紙	28×22
101	ジョアン・ミロ	マーグ財団の夕べのためのスカーフ	1964	絹	120×120
102	ジョアン・ミロ	サンディーのことを思いながら	1973	グワッシュ、紙	36×79
103	ジュゼップ・リョレンス=アルティーガス	花瓶	1969	セラミック	高さ33.5
104	アントニ・タピエス/ジャン・デーヴ	詩画集「創土のコレクション」	1975	エッチング	25×18.5(73頁)
105	ジャン・コルトー/ジャン・タルデュー	詩画集「自然現象」	1988	リトグラフ	21×12.5
106	マルコ・デル・レ	イコン　Ⅲ	1991	油彩、板	22.5×15.5
107	マルコ・デル・レ	イザベルのためのブローチ	1991	銀	5.6×4.1
108	ポール・ビュリー	曲がった形態の上の棒	1970	首飾り、金	2.3×6×1
109	ポール・ビュリー	円盤の両面の棒	1974	指輪、金	1.7×1.2×3.7
110	ポール・ビュリー	四角の上の91本の棒	1974	腕輪、金	5×5×6.5
111	ポール・ビュリー	二つの三角形の上の棒	1974	耳飾り、金	各2.5×2.2×1
112	ポール・ビュリー	割られた半円の上の棒	1974	ブローチ、金	直径4
113	ポール・ビュリー	エメ	1970	釘、木	27×55×18
114	オリヴィエ・ガニュール	四角い杯	制作年不詳	銀打出し	15×15×14
115	ジャック・モノリー	エメの美しき青い眼のために	1976	着色したセラミック	38×9×22
116	エレーヌ・デルプラト	壺	1988	テラコッタ	直径22×高さ30.5
117	ジョルジュ・ブラック	版画集「1916―1947」	1947	リトグラフ	50×33(94頁)
118	ジョルジュ・ブラック	小さな馬	1955	ブロンズ	19×5×22
119	ジョルジュ・ブラック	プロフィル	1960	セラミック	直径28
120	ジョルジュ・ブラック	白い鳥	1961	セラミック	直径24
121	ジョルジュ・ブラック	ぎざぎざのある白い頭部	制作年不詳	セラミック	21×14
122	ジョルジュ・ブラック	ワルツ	制作年不詳	セラミック	直径26.5
123	エドゥアルド・アロヨ	ボクサー―オレンジの紙	1992	ミクストメディア、紙	22.5×17.8



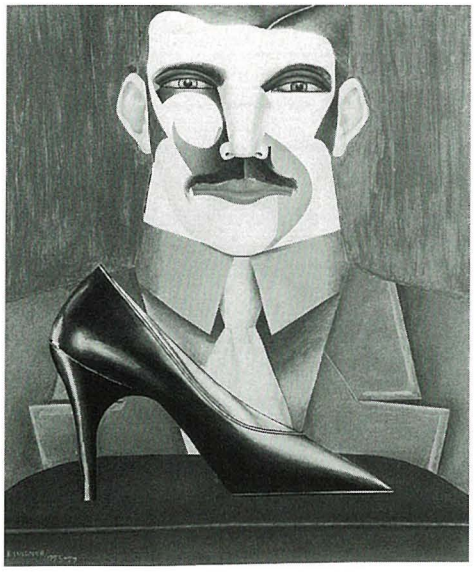
バゼーヌ「夜明の歌VIII」



タル＝コア「レースⅡ」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
124	ドミニク・ラポヴィ	小彫像	制作年不詳	鉄	36.5×34×32
125	パトリック・ドパン	不変の面	1992	カゼイン、板	39×29
126	エルズワース・ケリー	金属による彫刻のモデル	1958	シートメタル、木	4.5×8.8×33
127	エルズワース・ケリー	「鏡の裏」誌　No.110	1958	リトグラフ	38×28
128	マルセル・デュシャン	「1947年のシュルレアリスム展」カタログ	1947	ミクストメディア	24×21(141頁)
129	デイヴィッド・ヘアー	無題	制作年不詳	ブロンズ	4.5×9×33
130	デイヴィッド・ヘアー	無題	制作年不詳	ブロンズ	10×14×21.5
131	デイヴィッド・ヘアー	無題	制作年不詳	ブロンズ	9×17×29
132	アンリ・マティス/ジョルジュ・ブラック/ピエール・ボナール/ジャック・コーブ	画文集「とげの風」	1947	リトグラフ	29×22(23頁)
133	ジャック・プレヴェール	「バラダール島からの手紙」	1956	コラージュ、印刷物	18×26.5
134	ジャック・プレヴェール	イマージュ	1957	印刷物	27×21(43頁)
135	ジャック・プレヴェール/アンドレ・フランソワ	こんにちは、イザベル	1960	コラージュ、紙	34×25
136	ラウル・ユバック	フィロのために!	1962	銅版画	12×8
137	ラウル・ユバック	パリ＝ニース賞杯	1967	ブロンズ	13.8×10.8
138	セザール	パリ＝ニース賞杯	1973	鋳造物	4.5×30×20
139	フランソワ・フィードラー	皿	1974	セラミック	直径45
140	フランソワ・フィードラー	皿	1974	セラミック	直径31
141	黒田アキ	扇	1985	パステル、紙	21.3×51
142	黒田アキ	「ノワズ」誌	1985	リトグラフ	各37×27(20冊)
143	黒田アキ	デッサン集「黒田アキ」vol.1-3	1987	リトグラフ	各27×21(3冊)
144	黒田アキ/パスカル・キニャール	小さな線	1990	印刷物	20×17×11
145	黒田アキ	イザの肖像	1991	スプーン、アクリル、キャンバス	22×14
146	アルベルト・ジャコメッティ	本に描かれたデッサン	制作年不詳	——	——
147	ディエゴ・ジャコメッティ	雄牛一本立て	制作年不詳	ブロンズ	各16.5×22×24
148	ディエゴ・ジャコメッティ	エメ・マーグの肖像	制作年不詳	ブロンズ	9×10×23
149	マルク・シャガール	「エッフェル塔の花嫁」の切手と封筒	1963	印刷物	9×16
150	マルク・シャガール/ジェルジィ・フィコウスキー	詩画集「シャガールの手紙」	1969	エッチング	29×20(35頁)
151	アレグザンダー・コールダー	眼鏡をかけた鳥	1930	針金	18×26×35
152	アレグザンダー・コールダー	マーグ財団の袋	1968	布	41×39.5
153	アレグザンダー・コールダー	「フロランス・マーグの黄金」の中のデッサン	1969	鉛筆	24×20
154	アレグザンダー・コールダー	しわしわへび―アニモビル	1970	鉄	18×50×39
155	アレグザンダー・コールダー/ジャック・プレヴェール	版画集「祝祭」	1971	リトグラフ	46×34
156	エドゥアルド・チリィーダ	無題	制作年不詳	セラミック	3×27×25
157	——	ワイン「ベルナールの別荘」のボトル（10本）	——	——	——

＊　寸法は立体作品は奥行×幅×高さ、平面作品は縦×横。
＊　作品はすべてマーグ財団蔵。



リンドナー「靴」



モノリー「テクニカラーNo.19」

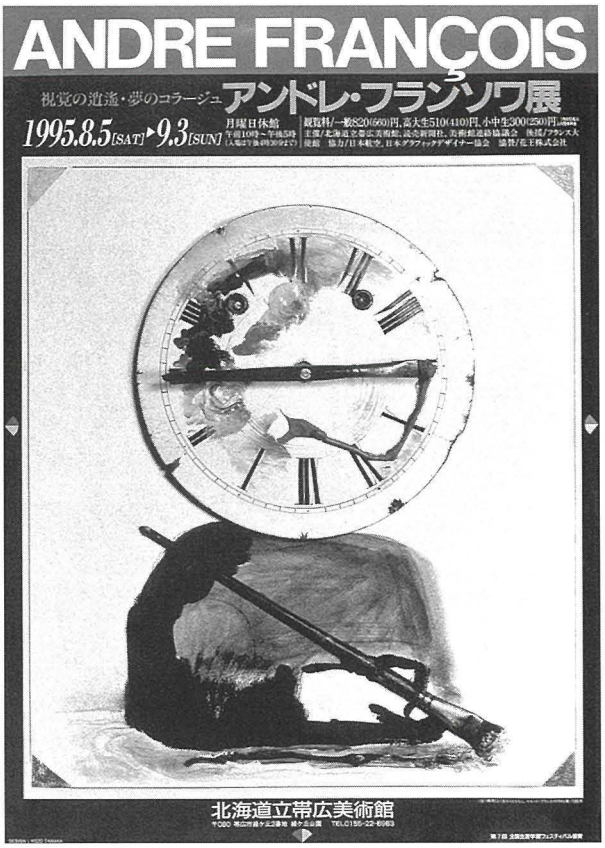
視覚の逍遥・夢のコラージュ　アンドレ・フランソワ展

会期＝平成7年8月5日(土)―9月3日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、読売新聞社、
　　美術館連絡協議会

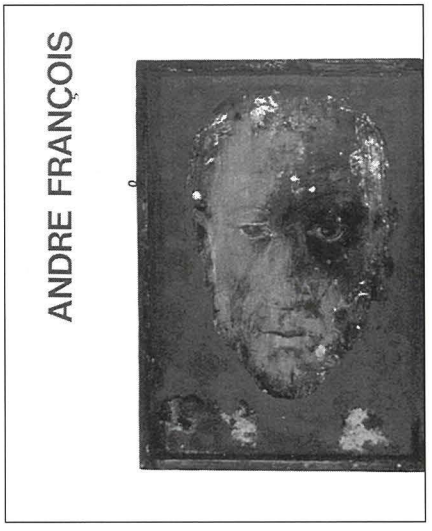
後援＝フランス大使館
協力＝日本航空、日本グラフィックデザイナー協会
協賛＝花王株式会社

関連事業

特別展セミナー
「アンドレ・フランソワ―ユーモリストの造形世界」
講師＝寺嶋弘道（当館学芸課長）
日時＝8月19日(土)、9月2日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



ポスター



図録

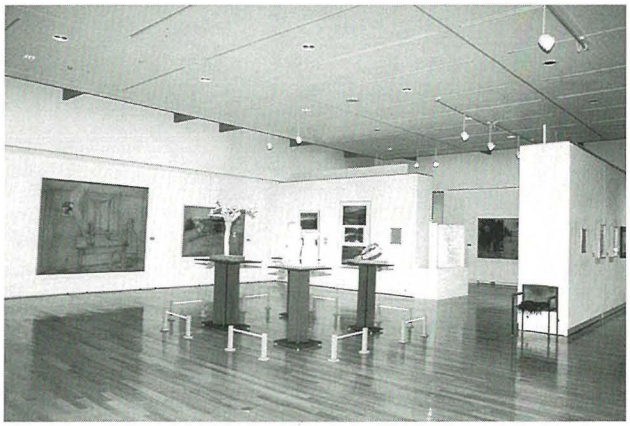
1915年ハンガリーに生まれたアンドレ・フランソワは、グラフィック・デザイン、イラストレーション、舞台装飾など幅広い分野で活躍するフランス在住の美術家である。ブダペストの美術学校を経てパリに移り、グラフィック・デザイナーとしての活動を始めた。『ヴォーグ』『ニューヨーカー』など著名な雑誌の表紙デザインをはじめ、ユネスコやフランス国鉄のポスター、さらには絵本や舞台デザインなど多彩な作品を手掛け、その機知に富んだユーモラスな作風によって高い評価を受けている。

また、これらのコマーシャル・アートと並行して、ペインティングやドローイングなどの平面作品、コラージュやオブジェなどの立体作品の制作も行い、いわばフリー・アートといえるこうした作品はフランソワの造形世界のもう一方の核をなすものとなっている。さまざまな素材、技法を駆使し自由な発想の中から生み出された作品には、夢やファンタジー、あるいは風刺やユーモアの精神が織り込まれている。

本展では、これまであまり紹介される機会のなかったフリー・アートの作品を主体に、版画、ポスター、イラストレーションを加えた145点の作品により、過去30年間にわたるフランソワの創造の軌跡をたどった。夏休み期間と重なる会期中には幅広い年令層の4,330人が来館、ヒューマニティーあふれる数々の作品に魅せられていた。



会場風景



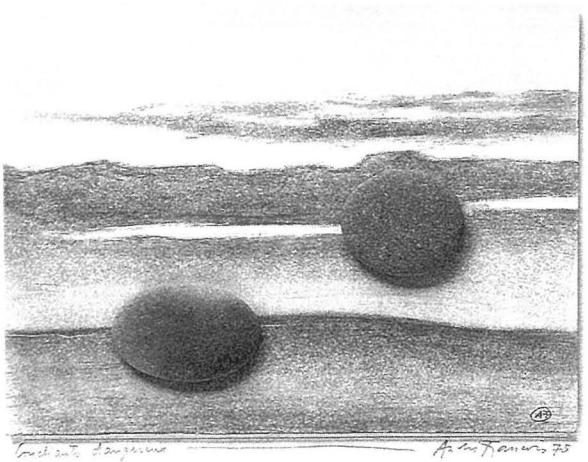
会場風景

出品目録

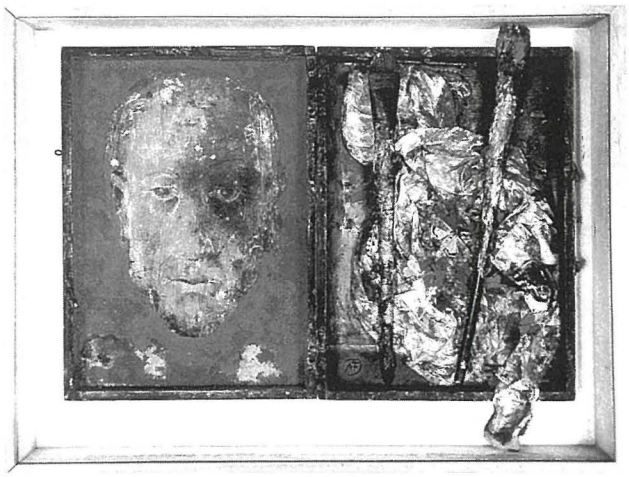
フリー・アート（油彩、水彩、素描、彫刻、コラージュ）

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
1	青いソファの上の裸婦	1973	パステル	102×154
2	青い婚約者	1973	ミクストメディア、木、鉄	98.5×71×d15
3	水浴する女	1969-73	着色された木	76×24.5×63
4	蛾の肌	1974	パステル、コラージュ	45.5×36.5×d8
5	四角い瞳	1974	パステル、インク	104.5×105.5
6	椅子	1974	木、石膏、油彩	125×71.5×d13.5
7	鳥の樹	1974	着色された木	40×105×92
8	蝿なくしても航海は困難	1974	鉛筆、水彩、コラージュ、小石	45.5×59.5×d8
9	天上の病める肉体	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、小石	36.5×45.5×d8
10	冬の家宅侵入	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、小石	36.5×49.5×d8
11	時が空を破壊する	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、小石	36.5×48.5×d8
12	危険な日没	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、小石	36.5×45.5×d8
13	ウルトラマリーン―ウルトラグリーン	1975	アクリリック、コラージュ	43.5×59.5×d8
14	光陰矢の如し	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、時計	59.5×45.5×d8
15	最悪の時	1975	鉛筆、水彩、コラージュ、時計	59.5×45.5×d8
16	ライム	1975-76	パステル	170×95
17	西のリンゴの樹の上の太陽	1975-76	パステル	170×95
18	クルミの樹―桜―教会	1975-76	パステル	170×95

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
19	樹	1975-76	パステル	170×95
20	3つのリンゴ	1975-76	パステル	170×95
21	リンゴの樹―桜―家―霧	1975-76	パステル	170×95
22	12月の高原	1975-76	パステル	170×95
23	桜	1975-76	パステル	170×95
24	雪―ライム	1975-76	パステル	170×95
25	霧―2本のリンゴの樹	1975-76	パステル	170×95
26	霜―リンゴの若木―屋根	1975-76	パステル	170×95
27	朝の亀裂（早起きトカゲ）	1976	アクリリック、パステル、コラージュ	57×97×d6
28	アヴァンギャルド	1976	パステル	105×181
29	手、プレヴェールへのオマージュ	1976	木、鉄	10×65×35
30	20世紀列車に乗り遅れる	1977	コラージュ、時計、様々な素材	68×77
31	7月の田園	1978	パステル	95×170
32	エピエ近郊の平原と胸像	1978	鉛筆、水彩、コラージュ	65×50
33	アトリエの自画像	1979	木、アクリリック	153×250×d18
34	庭に座る裸婦	1979	ベニア板、木、油彩	138×130×d22
35	ハーグの朝から夕暮れまで	1979	水彩	65×50
36	コルメイユ79座像	1979	水彩、鉛筆	65×50
37	夏至	1980	パステル、木炭	124.8×250.2×d6
38	庭園―7月の田園―夏至	1980	グワッシュ、パステル、鉛筆	100×70
39	ヴェクサンの大サーカス	1982	木、アクリリック	（開）200×340 （閉）200×170
40	遺作No.2、自画像	1983-84	木、水彩	（開）105×305 （閉）105×185
41	5月1日のピクニック	1984	水彩、パステル	96×93
42	グリシー―北斜面と裸婦	1984	パステル、鉛筆	124×87
43	二つの風景の間の裸婦	1984	パステル、油彩、インク	71.5×63.5
44	サクランボの季節	1984	グワッシュ、パステル	155×101
45	冬のブードゥー教	1984-85	鉛筆、水彩、パステル	180×102
46	インク	1985	黒鉛筆、パステル	120×180
47	おかしな鳥	1986	アクリリック、コラージュ	48×64
48	周期表	1987	木に貼った紙、アクリリック	96×171
49	アグノーのパラス	1987	水彩、木炭、流木	78.5×58.5×d6.5
50	神秘的なケシの花と自画像	1987	厚紙、パステル	88×129
51	婦人の部屋	1988	木炭、コラージュ、壁紙	127.5×87

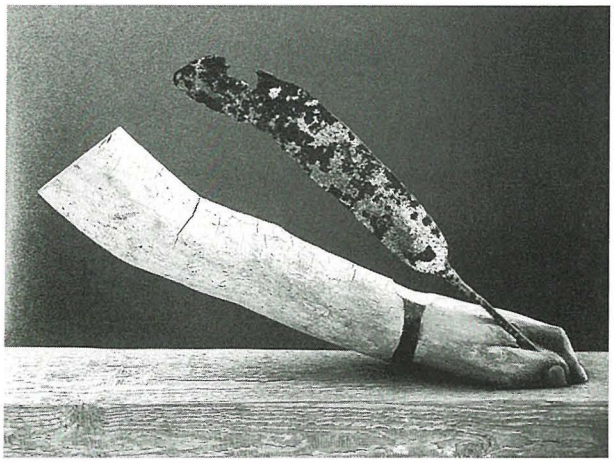


「危険な日没」



「ウルトラマリーン ― ウルトラグリーン」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
52	老いたポルターガイスト	1988	コラージュ、ミクストメディア	131.5×174
53	コーヒーカップのある風景	1988	木、水彩、インク、アクリリック	62.5×51
54	インクブスとスクブス（夢魔）	1989	アクリリック、コラージュ	253×157×d19.5
55	大いなる秋の風景	1989	パステル	131×204
56	時の中心	1989	木、アクリリック、木のアッサンブラージュ	48×142×d27
57	二連折画	1990	（開）アクリリック、コラージュ （閉）木に貼りつけた水彩、アクリリック	（開）106×154×d13.5 （閉）106×77×d15
58	ボナール夫人の化粧室	1990	アクリリック、コラージュ、壁紙	126×104×d5
59	無機質な男	1990	パステル、木	176.5×97×d18.5
60	漂流物の海	1990	アッサンブラージュ、木、鉄、ガラス	100×147.5×d23.5
61	マルスの鏡、二つの三角形	1990-91	水彩、パステル、木炭、コラージュ	125.5×73.5
62	田園詩	1991	アクリリック、コラージュ	187.5×47.5
63	5月のブードゥー教	1991	パステル、コラージュ	120×80×d7
64	12月：屋外ー屋内	1991	パステル、黒チョーク	120×80
65	黄昏ーレイエット	1991	パステル、水彩、コラージュ	66×53
66	18°のコーヒーポット	1992	鉛筆、木炭、コラージュ、壁紙	77×61
67	凌辱と木いちご	1992	厚紙、木、アクリリック、コラージュ	81×62
68	ユダヤの婚約者	1992	木、アクリリック、木炭、コラージュ、鉄	66×63
69	ヴェクサンの大地	1992	厚紙、パステル	60×85.5
70	10月の鳥	1992	パステル	60×80
71	池とからだ	1992	インク、淡彩、パステル	175×100
72	カンヴァセーション・ピース	1992	木、アクリリック、パステル、コラージュ	（開）180×205×d6 （閉）180×100×d6
73	カラス	1992	水彩、コラージュ	40×28.5
74	赤い衿の自画像	1992	厚紙、木炭、パステル	111×76
75	蝶々夫人へのオマージュ	1993	アクリリック、パステル、コラージュ	105.5×76
76	母なるコーヒーポット	1993	厚紙、パステル、アクリリック	200×240
77	魚を獲る鵜	1993	パステル、アクリリック	209×186.5
78	コタンタン半島の猫	1993	花崗岩	25×46.5×28.5
79	頭部とトルソ	1993	木	



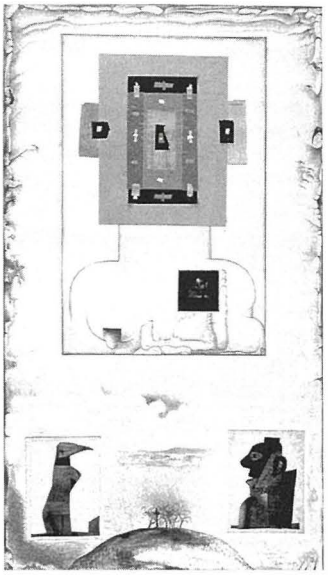
「手、プレヴェールへのオマージュ」



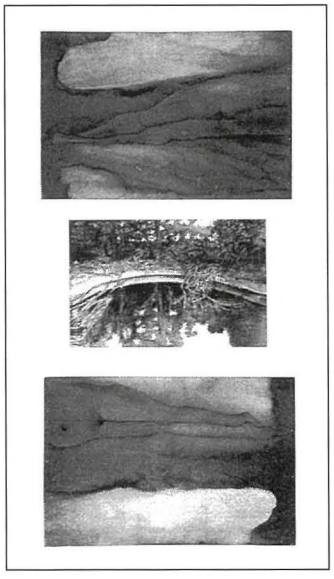
「アトリエの自画像」

グラフィック（版画、ポスター、イラストレーション）

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
80	宝くじ(1)	1969	アクアティント	45×53×53
81	宝くじ(2)	1969	アクアティント	75×56
82	宝くじ(3)	1969	アクアティント	75×56
83	宝くじ(4)	1969	アクアティント	75×56
84	宝くじ(5)	1969	アクアティント	75×56
85	宝くじ(6)	1969	アクアティント	75×56
86	宝くじ(7)	1969	アクアティント	75×56
87	サーカス(1)	1977	アクアティント	75×56
88	サーカス(2)	1977	アクアティント	50×65
89	サーカス(3)	1977	アクアティント	50×65
90	サーカス(4)	1977	アクアティント	50×65
91	サーカス(5)	1977	アクアティント	65×50
92	サーカス(6)	1977	アクアティント	65×50
93	サーカス(7)	1977	アクアティント	65×50
94	装飾美術館	1970	ポスター	65×50
95	太陽と月	1971	水彩	65×52
96	太陽と月	1971	ポスター	41×31
97	文化売買反対、ユネスコ	1979	パステル、鉛筆	64×47.5
98	文化売買反対、ユネスコ	1979	ポスター	36.5×30.5
99	村、休暇、家族	1980	水彩、黒鉛筆	85×58
100	村、休暇、家族	1980	ポスター	65×50
101	オートクチュール	1980	グワッシュ、パステル、インク	65×50
102	徽章を授った猫	1980	パステル、インク	64.5×51
103	眼鏡	1981	インク、パステル	64×49
104	眼鏡	1981	ポスター	34×25.6
105	道化師（アビタ）	1984	ポスター	84×66
106	描く時間は1分たりともなし、イル・ド・フランスのFRAC展	1985	コラージュ、アクリリック	80×60
107	描く時間は1分たりともなし、イル・ド・フランスのFRAC展	1985	ポスター	70×49.5
108	道化師のトランペット	1985	パステル、水彩、インク	67×49.5
109	道化師のトランペット	1985	ポスター	50.5×38
110	ナポリ	1985	ポスター	86×63
111	島	1987	パステル	67×96.5
112	島	1987	ポスター	71.5×51.5
113	個室寝台列車	1990	ポスター	65×49
				90×60



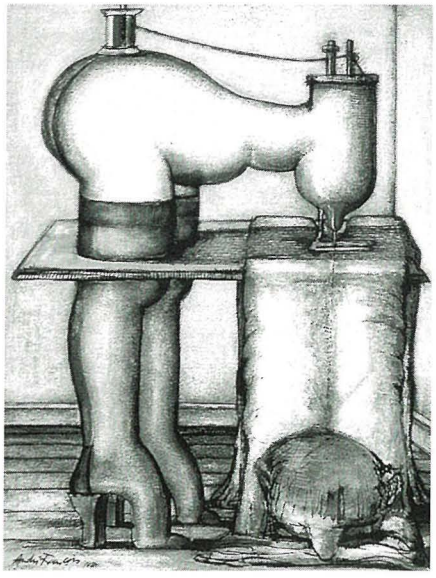
「冬のブードゥー教」



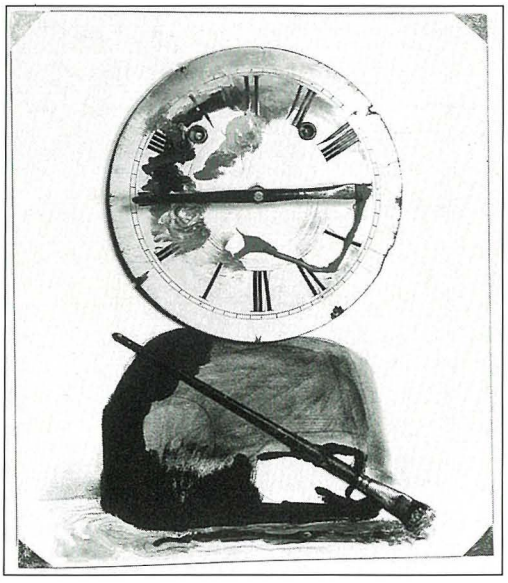
「池とからだ」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
114	ジターヌ（煙草）	1991	木炭、グワッシュ	66×50
115	ジターヌ（煙草）	1991	ポスター	132 ×100
116	カリカチュアと風刺	1992	ポスター	84×59
117	エイズ	1992	アクリリック	30×23
118	エイズ	1992	ポスター	84×59
119-127	『ニューヨーカー』誌の表紙原画とポスター			
	119　屋根の上の猫	1963年９月	キャンバス、油彩	45×31.5
	120　ダウンタウン	1964年３月	キャンバス、油彩	30.8×23
	121　セント・ヴァレンタイン・デー	1970	鉛筆、パステル	32.5×24.5
	122　セント・ヴァレンタイン・デー	1970	ポスター	67.5×52
	123　朝寝	1971年５月	パステル、インク	31.5×24
	124　卵の曙光	1973年３月	パステル、鉛筆	35×26
	125　給水塔	1973年10月	グワッシュ	34.5×25
	126　飛魚	1983	パステル、インク	33.5×25
	127　牧神の笛	1983年７月	パステル	32×25
128-133	『ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール』誌のポスター原画			
	128　羊	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	37.2×44.2
	129　骨をくわえた犬	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	38×45
	130　貧しい知性	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	38.5×45
	131　角のある男	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	45.5×55
	132　鎧をつけた男	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	45.3×53.8
133	スリッパ	1972	パステル、水彩、コラージュ、木炭	38×42
134	ジャック・プレヴェール『パラダール島からの手紙』	1952	本	26×18×0.5
135	アンドレ・フランソワ『わにのなみだ』	1956	本	27×9×1
136	アルフレッド・ジャリ『ユビュ王』	1957	本	18×20×2
137	ジョン・マルコム・ブリニン『ベニスに行けなかったアルチュール王子』	1961	本	21×28.5×1
138	オルダス・ハクスリー『世界一強い男』	1961	本	14×20.5×3
139	ジョン・シモンズ『トムとタビー』	1963	本	21×28.5×1
140	レイモン・クノー『君が君自身を思うなら』	1979	本	18.5×23×4
141	アンドレ・フランソワ『“エッグセサイズ”ブック』	1980	本	21.5×16.5×0.5
142	ボリス・ヴィアン『アラッシュ=クール』	1981	本	23×28.5×5
143	『人食い鬼の息子』	1993	本	23×30×1
144	『一番面白いのは誰？』		本	21×26×1
145	『ニューヨーカー』誌の表紙（50点組）		オフセット、パネル	

＊　寸法は立体作品は奥行×幅×高さ、平面（レリーフ）作品は縦×横（×d 奥行）。
＊　作品はすべて作者蔵。



「オートクチュール」



「描く時間は1分たりともなし、
イル・ド・フランスのFRAC展」

ルオー版画展　光と闇のレクイエム

会期＝平成7年9月9日(土)―10月10日(火)
主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会、
　　北海道新聞社

協力＝ハーモ美術館

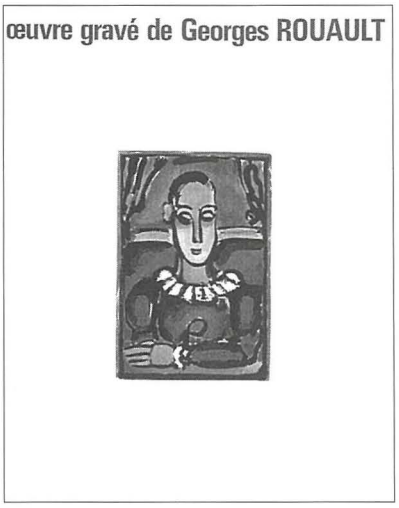
関連事業

美術講演会
「ルオー芸術の魅力」
講師＝中村隆夫氏（美術評論家）
日時＝9月16日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

土曜映写室
「楽園への夢」「20世紀へのかけ橋」
日時＝9月9日(土)、10月7日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



ポスター



図録

ジョルジュ・ルオーは1871年パリに生まれ、19世紀末から今世紀前半にかけて活躍した画家である。彼は太く力強い輪郭線と丹念に作り上げられた緻密なマチエール、重厚な色彩という独自のスタイルによって、聖書中の物語やキリスト像、あるいはサーカス芸人や娼婦の姿を描き続けた。そこには人生の悲惨さや人間の持つ醜悪さを浮き彫りにしようとする鋭い観察眼と、そうした人間の暗面を暖かくみつめる慈しみのまなざしが感じられる。ルオーの一連の作品は、自身の深い信仰に根差したレクイエムともいえる。

30代半ば以降、ルオーは画商ヴォラールの依頼により、版画の制作に着手した。さまざまな技法を用い長い年月を費やして制作したそれら作品は、描線やマチエールといった表現上の特徴、そしてそれらの底流にあるモチーフやテーマ設定の面で彼の油彩画と密接な関係を持っており、ルオーの創作活動の中で重要な地位を占めるものであった。

この展覧会では、『ミセレーレ』『流れる星のサーカス』『受難』といった代表的な版画連作を中心に144点の作品を展示した。独自の造形感覚と深遠な精神世界とを凝縮させたこれら版画作品によってルオー芸術の一端を紹介した本展には、会期中4,219名の来館者があった。



会場風景



会場風景

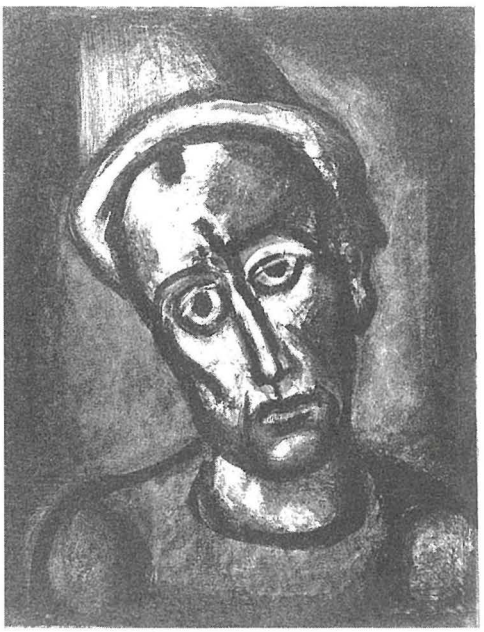
出品目録

No.	作品名	制作年	技法	寸法(cm)
	『ユビュおやじの再生』	1932年刊		
1	扉絵	1928	エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×20.0
2	困り者植民者	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	30.5×19.5
3	候補者さんブドゥバダブー	1928	エリオグラヴュール、エッチング、アクアティント、シュガー・アクアティント	30.0×19.5
4	政治屋	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	29.5×19.0
5	選挙人さん	1928	エリオグラヴュール、エッチング、アクアティント、ドライ・ポイント	27.0×17.0
6	聖歌隊員ユビュおやじ	1928	エッチング	30.5×19.0
7	横顔	1928	エリオグラヴュール、アクアティント、エッチング、シュガー・アクアティント	30.0×20.0
8	解放された黒人	1928	シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	21.0×30.0
9	植民地行政官	1928	エリオグラヴュール、アクアティント、シュガー・アクアティント、エッチング、ドライ・ポイント	27.0×17.0
10	呪文	1928	エリオグラヴュール、アクアティント、エッチング、ドライ・ポイント	30.0×20.0
11	バンブーラ踊り	1928	エッチング、ドライ・ポイント、アクアティント	30.0×15.0
12	裸婦	1928	エリオグラヴュール、ドライ・ポイント、エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	27.0×17.0
13	熱帯の風景	1928	エリオグラヴュール、エッチング、ドライ・ポイント	30.0×19.0
14	水晶	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×20.0
15	イルマ嬢	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント、アクアティント	30.0×18.0
16	飛ぶ魚	1929	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	21.0×31.0
17	結婚	1928	エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×22.0
18	ふたりの奥様	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント	26.5×19.0

No.	作品名	制作年	技法	寸法(cm)
19	サント＝ニトゥーシュ	1928	エリオグラヴュール、ドライ・ポイント、シュガー・アクアティント、アクアティント	25.0×16.5
20	劇場支配人	1928	エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	29.5×20.0
21	坐る裸婦	1928	エリオグラヴュール、エッチング、シュガー・アクアティント、アクアティント	27.0×17.0
22	大きな帽子の娼婦	1928	エッチング、ドライ・ポイント、シュガー・アクアティント	29.5×20.0
	『ミセレーレ』	1948年刊		
23	Ⅰ -神よ、我を憐みたまえ、御身の大いなる慈悲によりて	1923	エリオグラヴュール、アクアティント、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	57.5×42.0
24	Ⅱ -辱しめられるキリスト…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	55.0×40.0
25	Ⅲ -絶えまなく、笞打たれ…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	48.0×36.5
26	Ⅳ -不幸の乞食は、御身の心の中に身を避ける	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	48.0×37.0
27	Ⅴ -罠と悪意のこの世にただ独り	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.8×41.8
28	Ⅵ -我らは苦役囚ではないのか	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	59.0×43.8
29	Ⅶ -我ら自らを王と思い	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	59.0×42.0
30	Ⅷ -顔に皺を描かぬ者はいようか?	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	56.5×43.0
31	Ⅸ -時には道は美し…	1922	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント	37.3×50.4
32	Ⅹ -長き苦悩の古き場末にて	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	60.0×42.0
33	ⅩⅠ -明日は晴れるだろう、難破した者は、そう言った	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	56.8×35.5
34	ⅩⅡ -生きるとは辛き業…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	48.0×36.0
35	ⅩⅢ -愛すれば心嬉しきに	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.3×41.2
36	ⅩⅣ -人呼んで快楽の娘	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	50.5×36.5
37	ⅩⅤ -若かりし唇に苦き味	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	50.5×35.0
38	ⅩⅥ -山の手の夫人は、天国に予約席ありと思う	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	57.4×41.3
39	ⅩⅦ -解放された女は十四時に正午を歌う	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	55.5×42.8
40	ⅩⅧ -罪を宣言された者は立去った…	1922	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント	50.0×34.5
41	ⅩⅨ -弁護士は空ぞらしい言葉で彼に悪意なしと主張する…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	53.5×41.0
42	ⅩⅩ -見捨てられた十字架のイエスの下で	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.0×41.3
43	ⅩⅩⅠ -《虐待され辱しめられたれど、彼は口を開かざりき》	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.8×41.0
44	ⅩⅩⅡ -世は様々なれど、荒地に種蒔くは美しき仕事	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.5×43.0
45	ⅩⅩⅢ -「孤独者」通り	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	36.5×50.5
46	ⅩⅩⅣ -《冬、大地の窺》	1922	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント、シュガー・アクアティント	51.5×36.7
47	ⅩⅩⅤ -ジャン＝フランソワは、決してハレルヤを歌わず…	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.9×42.2
48	ⅩⅩⅥ -渇きと怖れの国で	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	41.5×58.6
49	ⅩⅩⅦ -物に涙あり…	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	58.0×42.1
50	ⅩⅩⅧ -《我を信ずる者は死すとも生きん》	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.8×43.3
51	ⅩⅩⅨ -朝の祈りを歌えよ、日は甦える。	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	50.8×42.0
52	ⅩⅩⅩ -《われら…彼の死において、洗礼を受けたり》	判読不明	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	54.9×42.0

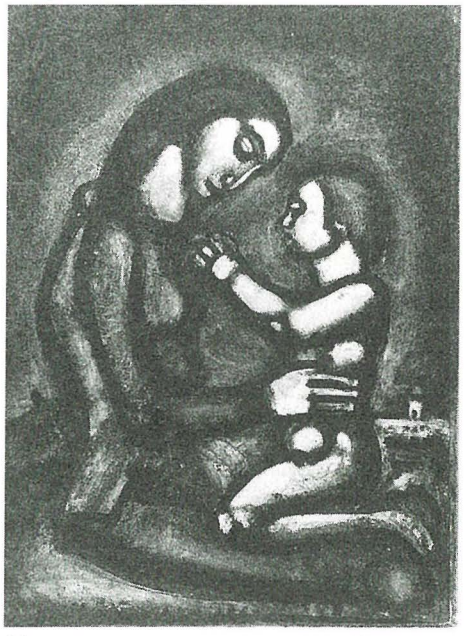


「『ユビュおやじの再生』劇場支配人」

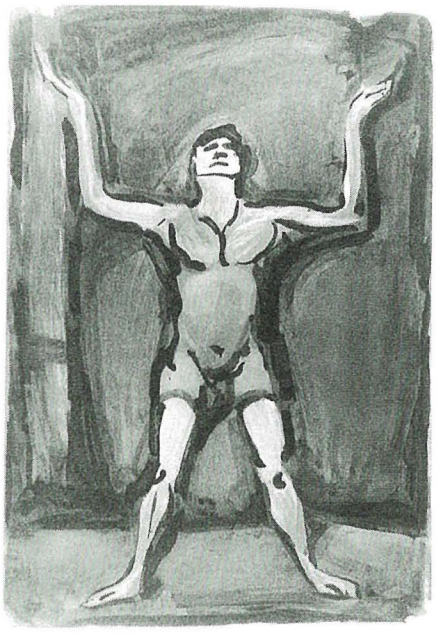


「『ミセレーレ』Ⅷ-顔に皺を描かぬ者はいようか?」

No.	作品名	制作年	技法	寸法(cm)
53	ＸＸＸⅠ -《汝ら、互いに愛し合うべし》	1923	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ピュラン	59.0×42.5
54	ＸＸＸⅡ -主よ、御身なり、われは御身を認む	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	57.0×45.0
55	ＸＸＸⅢ -柔らかき布を持てるヴェロニカは、なおも道をゆく…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	43.5×43.0
56	ＸＸＸⅣ -《廃墟すら亡びたり》	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.5×44.7
57	ＸＸＸⅤ -《イエスは苦しまん、世の終りに至るまで…》	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	58.0×41.0
58	ＸＸＸⅥ -これでお終いだよ、おやじさん!	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	58.7×43.0
59	ＸＸＸⅦ -人は人にとって狼	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.0×41.8
60	ＸＸＸⅧ -シナ人が火薬を発明し、私たちに贈ってくれたと人は言う	1926	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント	57.5×41.0
61	ＸＸＸⅨ -われわれはみな愚かもの…	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	57.0×41.2
62	ＸＬ -顔つき合わせ	1926	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント、エッチング	57.2×43.5
63	ＸＬⅠ -占う人たち…	1923	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント	50.5×43.5
64	ＸＬⅡ -母たちに忌み嫌われる戦争	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	56.0×44.0
65	ＸＬⅢ -《我らは死すべきもの、我らも我らの仲間すべても》	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	51.6×36.7
66	ＸＬⅣ -我がうるわしの国、今いずこ	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	42.2×59.7
67	ＸＬⅤ -死は彼らを奪いぬ、いら草の床より出でしとき	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント、アクアティント	53.7×33.3
68	ＸＬⅥ -《正しき人は、白檀の木のごとく己れを打つ斧に香を移す》	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.5×42.4
69	ＸＬⅦ -深き淵より…	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	43.2×60.0
70	ＸＬⅧ -圧搾機で葡萄は潰された	1922	エリオグラヴュール、アクアティント、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	39.5×48.5
71	ＸＬⅨ -《心気高ければ、首筋強張らず》	1926	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント、シュガー・アクアティント	58.6×42.0
72	Ｌ -《爪と嘴にて》	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.2×44.3
73	ＬⅠ -ランスの微笑みからは程遠く	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント、アクアティント	51.0×38.4
74	ＬⅡ -法は苛酷、されど法	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	57.0×44.2
75	ＬⅢ -七剣の悲しみを負う聖母	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	57.6×40.8
76	ＬⅣ -《死者よ起て!》	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、ドライ・ポイント	58.8×44.5
77	ＬⅤ -盲人も、時に目明きを慰めた	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント、エッチング	58.5×43.5
78	ＬⅥ -高慢と無信仰のこの暗き時代に、地の果てより聖母は見守る	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント、エッチング、ドライ・ポイント	58.5×43.5
79	ＬⅦ -《死に至るまで、そして十字架上の死に至るまで従順なる》	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント	58.0×42.0
80	ＬⅧ -《我らが癒やされたるは、彼の打傷によりてなり》	1922	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント	58.1×46.8
	『サーカス』	1930年刊		
81	アマゾン	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	29.0×22.0
82	曲芸師	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
83	大太鼓を叩く道化師	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
84	道化師と子供	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
85	老いたる道化師	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	32.5×22.5
86	見世物小屋の呼び込み	判読不明	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×29.0



「『ミセレーレ』ＸＬII-母たちに忌み嫌われる戦争」



「『サーカス』曲芸師」

No.	作品名	制作年	技法	寸法(cm)
87	黄色い道化師	1930	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×25.0
88	バレリーナ	判読不明	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×20.0
	『「悪の華」のために版刻された14図』	1966年刊		
89	Ⅰ -悪魔	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	35.0×25.5
90	Ⅱ -辱しめを受けるキリスト（憂鬱と理想1）	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	35.0×26.0
91	Ⅲ -キリスト	1927	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	35.5×25.0
92	Ⅳ -悪の華（憂鬱と理想17）	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	35.5×25.0
93	Ⅴ -横向きの裸婦（憂鬱と理想25）	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	33.5×24.5
94	Ⅵ -「肌黒きわが美女よ、君、眠りて…」（憂鬱と理想33）	1927	エリオグラヴュール、ドライ・ポイント	26.5×36.0
95	Ⅶ -悪魔Ⅱ（憂鬱と理想41）	1926	エリオグラヴュール、ドライ・ポイント	35.0×25.0
96	Ⅷ -悪魔Ⅲ（憂鬱と理想54）	1926	エリオグラヴュール、エッチング、ドライ・ポイント	35.0×26.0
97	Ⅸ -骸骨（憂鬱と理想94）	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント	35.5×25.5
98	Ⅹ -「辻々に売春の灯がともる…」（憂鬱と理想95）	1927	エリオグラヴュール、アクアティント、ドライ・ポイント	34.0×24.0
99	ⅩⅠ -「生者並みに誇高く、われとわが貴なる姿を誇りつつ…」	1927	エリオグラヴュール、アクアティント、シュガー・アクアティント	35.5×25.5
100	ⅩⅡ -悪魔Ⅳ（悪の華109）	1926	エリオグラヴュール、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	34.5×25.0
101	ⅩⅢ -「〈放蕩〉と〈死〉は…」（悪の華112）	1926	エリオグラヴュール、ドライ・ポイント、エッチング	31.0×24.5
102	ⅩⅣ -「眉目美わしく、姿あでやかな女なり…」（悪の華114）	1927	エリオグラヴュール、アクアティント、シュガー・アクアティント、ドライ・ポイント	35.0×24.5
	『流れる星のサーカス』	1938年刊		
103	Ⅰ -扉絵一見世物小屋の呼び込み	1934	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×19.5
104	Ⅱ -黒いピエロ	1935	アクアティント	30.0×20.0
105	Ⅲ -苦いレモン	判読不明	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×21.0
106	Ⅳ -こびと	1934	アクアティント	30.0×20.0
107	Ⅴ -曲芸師	1934	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.5×20.0
108	Ⅵ -小さな女曲馬師	1935?	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×20.5
109	Ⅶ -ルイゾン夫人	1935	アクアティント	30.0×20.5
110	Ⅷ -悲しげな痩っ骨	1934	アクアティント	31.0×21.5
111	Ⅸ -カルメンシータ夫人	1935	アクアティント	30.5×21.0
112	Ⅹ -親代々の旅芸人	1935	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.5×20.0
113	ⅩⅠ -アーサー親方	1934	アクアティント	30.0×20.0
114	ⅩⅡ -苦い甘さ	1934	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×20.0
115	ⅩⅢ -気むずかし屋	1935	アクアティント	31.0×20.5
116	ⅩⅣ -ピエロ	1935	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×21.0
117	ⅩⅤ -バレリーナたち	1934	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.5×20.0
118	ⅩⅥ -オーギュスト	1935	アクアティント	30.0×21.0



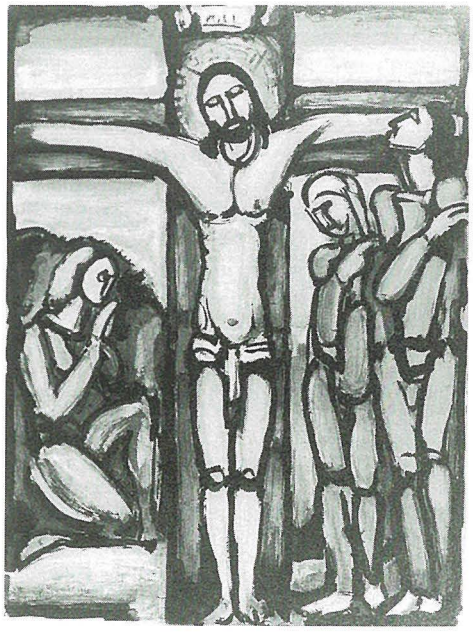
「『悪の華』ⅩⅢ'〈放蕩〉と〈死〉は…」

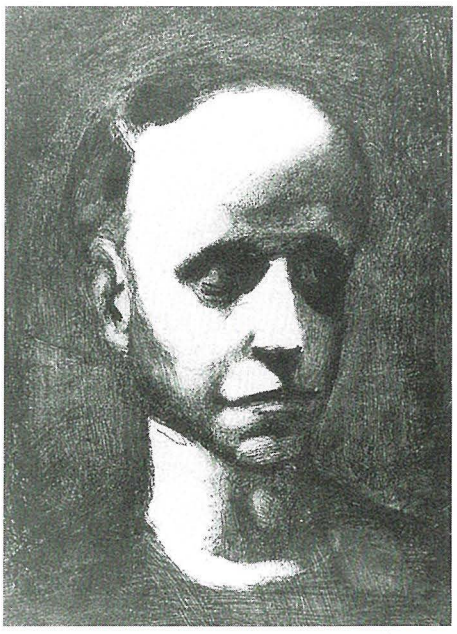


「『流れる星のサーカス』Ⅱ-黒いピエロ」

No.	作品名	制作年	技法	寸法(cm)
119	XVII -眠れ、よい子よ	1935	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×21.0
	『受難』	1939年刊		
120	扉絵 -市門に立つキリスト	1935	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×20.5
121	I -街はずれのキリスト	1935	アクアティント	30.0×20.5
122	II -渡り職人	1935	アクアティント	30.0×20.0
123	III -農夫たち	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	33.0×23.5
124	IV -キリストと聖女	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×20.5
125	V -キリストと貧者たち	1935	アクアティント	29.0×20.5
126	VI -この人を見よ	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	31.8×20.4
127	VII -老人はとぼとぼと歩く	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
128	VIII -この苦しむ人を見よ	1936	アクアティント	30.0×21.5
129	IX -(横顔の)キリスト	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
130	X -漁夫	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	30.0×21.0
131	XI -ならず者…どんなアカデミーからも祝福される山犬	1935	アクアティント	32.0×21.0
132	XII -羽飾りをつけた婦人	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	31.0×21.0
133	XIII -出会い	1936	シュガー・アクアティント	31.5×22.0
134	XIV -キリストと黄金魔神	1936	アクアティント	30.0×21.5
135	XV -キリストと弟子たち	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	29.5×21.0
136	XVI -処刑を手伝う男(十字架の木材を運ぶ)	1936	シュガー・アクアティント	30.0×21.0
	その他の版画作品　大版の色彩オー=フォルト			
137	十字架上のキリスト	1936	シュガー・アクアティント、アクアティント	65.0×49.0
138	死者たちの入江	1939	シュガー・アクアティント、アクアティント	61.0×45.5
139	秋	1938	シュガー・アクアティント、アクアティント	50.0×65.0
	『カトル・シュマン版』：ルオー			
140	自画像III	1926	リトグラフ	34.0×24.5
	『サルタンバンク』			
141	坐る女曲馬師	1927-29年	リトグラフ	32.0×22.0
142	美しいエテルカ	1927-29年	リトグラフ	35.0×23.5
143	調教師	1927-29年	リトグラフ	36.0×29.0
144	小家族	1927-29年	リトグラフ	31.0×23.0

＊　寸法は縦×横。
＊　作品はすべてハーモ美術館蔵。


「十字架上のキリスト」


「自画像III」

現代具象絵画の巨匠　ビュッフェ展　精神の漂泊

会期＝平成7年10月17日(火)―11月26日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、
　　ビュッフェ展実行委員会

後援＝ フランス大使館、十勝町村会、帯広市教育委員会、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中校長会、帯広市小中学校長会連合会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広青年会議所、帯広市町内会連絡協議会、帯広市婦人団体連絡協議会、帯広市老人クラブ連合会、帯広市民劇場運営協議会、帯広市文化スポーツ振興財団、日専連帯広会、NCおびひろ、帯広デザイナーズ協会、とかちカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC 帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB 帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA
協力＝ 日本航空
協賛＝ NTT帯広支店、帯広建設業協会、帯広信用金庫、帯広日産自動車株式会社、東洋印刷株式会社



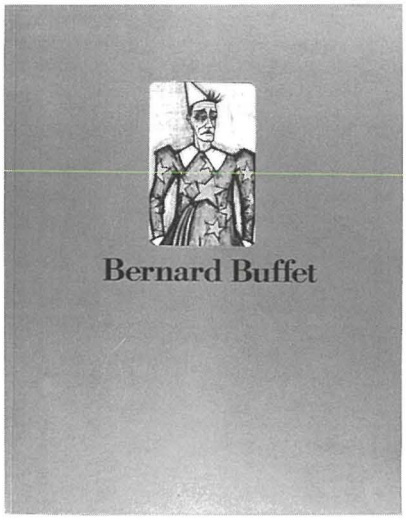
ポスター

関連事業

美術講演会
「ベルナール・ビュッフェの世界」
講師＝ 阿部信雄氏（美術評論家）
日時＝10月21日(土)　午後2時～3時30分
会場＝ 当館講堂

特別展セミナー
「ベルナール・ビュッフェ―人と芸術」
講師＝佐藤幸宏（当館学芸員）
日時＝11月4日(土)、11月18日(土)　午後2時～3時
会場＝ 当館講堂

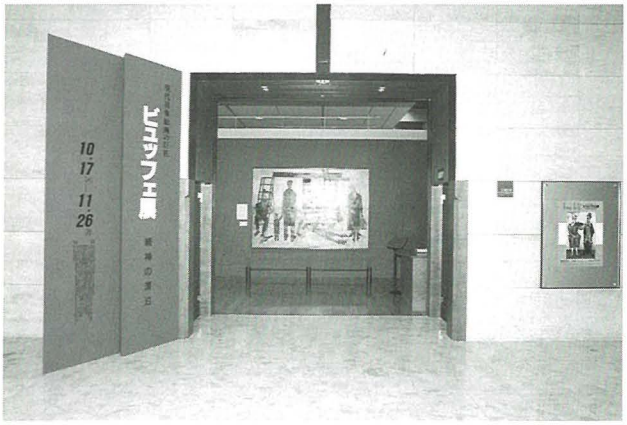
土曜映写室
「社会を写す鏡」「肖像画の系譜」
日時＝10月28日(土)、11月11日(土)、11月25日(土)
　　午後2時～3時
会場＝当館講堂



図禄

ベルナール・ビュッフェは、戦後の美術界において具象絵画の巨匠として確固たる地位を占める画家である。1928年パリに生まれたビュッフェは、15歳でエコール・デ・ボザール（国立美術学校）に合格、1948年20歳の時、パリで最も権威ある新人賞であるクリティック賞を受賞し、当時フランス画壇で全盛を極めた抽象絵画に対抗する具象絵画の旗手として華々しく活躍した。モノトーンの色彩と鋭い描線を駆使し、第２次世界大戦後の荒廃した時代の気分を人物や静物など具象表現に託して描き、現代人の内面の不安や悲劇性を激しく表現したその芸術は「ミゼラビリスム（悲惨主義）」とも呼ばれた。クリティック賞受賞後は世界各国で個展が開催され、43歳でレジョン・ドヌール勲章を受章、46歳でアカデミー会員に選出されるなど、国内外で揺るぎない名声を得ている。

この展覧会では、ビュッフェ自身が選んだ作品に基づき、初期から近年にいたる油彩の大作77点により彼の50年間にわたる画業を回顧し、会期中12,465名の来館者を集めた。



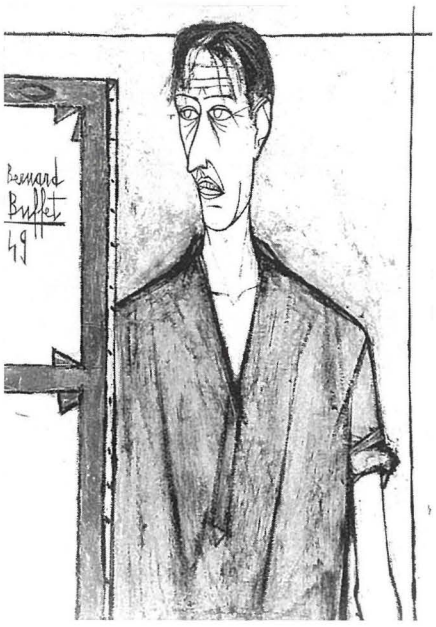
会場入口風景


会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	十字架降下	1946	油彩、キャンバス	172 ×255	パリ国立近代美術館（ポンピドゥー・センター）
2	浴室	1947	油彩、キャンバス	138 ×188	個人蔵
3	トイレの男	1947	油彩、キャンバス	203 ×110	個人蔵
4	二人の裸の男	1947	油彩、キャンバス	159 ×194	個人蔵
5	静物;野菜	1947	油彩、キャンバス	72×88	個人蔵
6	静物;兎	1947	油彩、キャンバス	106 ×61	個人蔵
7	アイロン	1947	油彩、キャンバス	60×81	個人蔵
8	兎と赤い鍋	1948	油彩、キャンバス	119 ×123	個人蔵
9	エイ	1948	油彩、キャンバス	105 ×127	個人蔵
10	ピエタ	1948	油彩、キャンバス	201 ×95	個人蔵
11	直立した裸婦	1949	油彩、キャンバス	192 ×94.5	パリ市立近代美術館
12	身づくろい	1949	油彩、キャンバス	191 ×225	パリ市立近代美術館
13	ジラルダン博士	1949	油彩、キャンバス	55×48	パリ市立近代美術館
14	自画像	1949	油彩、キャンバス	92×65	パリ市立近代美術館
15	バリケード	1949	油彩、キャンバス	200 ×300	個人蔵
16	室内	1950	油彩、キャンバス	196 ×270	パリ国立近代美術館（ポンピドゥー・センター）
17	静物;魚	1950	油彩、キャンバス	97×195	個人蔵
18	川にかかる橋	1952	油彩、キャンバス	130 ×162	個人蔵
19	あざみ	1952	油彩、キャンバス	100 ×65	個人蔵
20	花束	1952	油彩、キャンバス	100 ×65	個人蔵
21	食器棚	1953	油彩、キャンバス	199 ×194	個人蔵
22	仮装	1953	油彩、キャンバス	81×65	個人蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
23	静物;野菜	1954	油彩、キャンバス	97×195	個人蔵
24	ギャラリー・ヴィスコンティ	1954	油彩、キャンバス	81×54	個人蔵
25	道化師	1955	油彩、キャンバス	230 ×150	ジュネーヴ，プチ・パレ美術館
26	二人の道化師	1955	油彩、キャンバス	230 ×150	個人蔵
27	ラ・ロッシェル港	1955	油彩、キャンバス	89×146	個人蔵
28	教会	1955	油彩、キャンバス	89×146	個人蔵
29	静物;バックギャモン盤	1955	油彩、キャンバス	100 ×81	個人蔵
30	ひじを突く女	1956	油彩、キャンバス	130 ×195	個人蔵
31	水浴する人たち	1956	油彩、キャンバス	130 ×97	個人蔵
32	聖マドレーヌ	1957	油彩、キャンバス	130 ×97	個人蔵
33	ワシミミズク	1958	油彩、キャンバス	116 ×73	個人蔵
34	恋人たち	1958	油彩、キャンバス	130 ×97	個人蔵
35	闘牛士	1958	油彩、キャンバス	160 ×50	個人蔵
36	アルク城の前景	1959	油彩、キャンバス	97×130	個人蔵
37	Tシャツのアナベル	1960	油彩、キャンバス	130 ×81	個人蔵
38	ブルージーンズのアナベル	1960	油彩、キャンバス	130 ×97	個人蔵
39	ロンドン;船渠	1960	油彩、キャンバス	81×130	個人蔵
40	ヴェニス;ラ・ピアゼッタ	1962	油彩、キャンバス	97×130	個人蔵
41	レースのテーブル・クロス	1962	油彩、キャンバス	73×100	個人蔵
42	魚の骨	1963	油彩、キャンバス	97×130	個人蔵
43	虫	1963	油彩、キャンバス	97×130	個人蔵
44	ヒキガエル	1963	油彩、キャンバス	81×116	個人蔵
45	闘牛士の顔	1963	油彩、キャンバス	97×146	個人蔵
46	皮を剥いだ人体標本;顔	1964	油彩、キャンバス	162 ×130	個人蔵
47	皮を剥いだ人体標本;顔	1964	油彩、キャンバス	162 ×130	個人蔵
48	モンマルトルのラパン・アジル	1967	油彩、キャンバス	114 ×195	個人蔵
49	ブレーン教会	1968	油彩、キャンバス	130 ×81	ロワーズ美術館
50	クロアール・カルノー教会	1968	油彩、キャンバス	89×146	個人蔵
51	シャトウ・チエリのサン・クレパン教会	1968	油彩、キャンバス	130 ×81	個人蔵
52	レンブラントの解剖学講義	1968	油彩、キャンバス	200 ×300	個人蔵
53	鍋をかぶった道化師	1968	油彩、キャンバス	116 ×81	個人蔵
54	軍人の道化師	1968	油彩、キャンバス	116 ×81	個人蔵
55	狂った女たち;帽子の女たち	1970	油彩、キャンバス	97×130	個人蔵

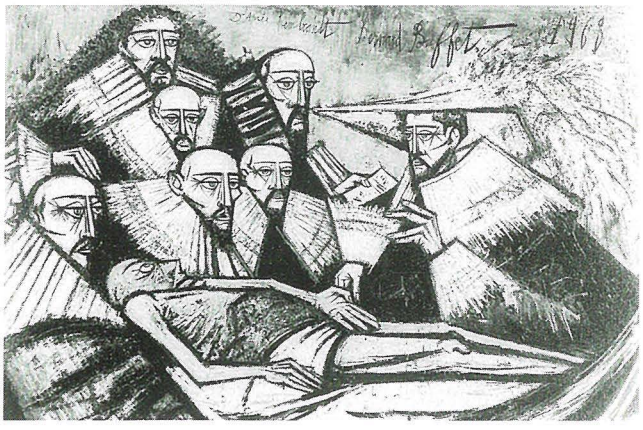


「自画像」


「二人の道化師」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
56	モン・サン・ミッシェル	1971	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
57	サン・セルヴァン港	1972	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
58	ラ・ロッシェル港、船と時計台	1972	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
59	ワティニ地方、沼地の家	1975	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
60	サシェにかかる橋	1975	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
61	ポントワーズ、サン・マクルー教会	1976	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
62	レ・メニュル、シェヴルーズの道	1976	油彩、キャンバス	89×130	個人蔵
63	自画像	1981	油彩、キャンバス	146 ×97	個人蔵
64	エル・グレコの異端審問官	1987	油彩、キャンバス	116 ×73	個人蔵
65	三羽の鳥	1988	油彩、キャンバス	146 ×114	個人蔵
66	静物;陶器	1988	油彩、キャンバス	114 ×146	個人蔵
67	パリ； エッフェル塔	1988	油彩、キャンバス	195 ×114	個人蔵
68	パリ； サン＝マルタン運河	1989	油彩、キャンバス	114 ×146	個人蔵
69	パリ； フルステンベルク広場	1989	油彩、キャンバス	114 ×146	個人蔵
70	ニューヨーク； ロックフェラーセンター	1989	油彩、キャンバス	195 ×114	個人蔵
71	ニューヨーク；レキシントン通り	1989	油彩、キャンバス	195 ×114	個人蔵
72	ニューヨーク； ブルックリン橋	1989	油彩、キャンバス	114 ×195	個人蔵
73	閉鎖された港、ブレア島	1990	油彩、キャンバス	130 ×195	個人蔵
74	ドゥアルヌネ	1990	油彩、キャンバス	130 ×195	個人蔵
75	鳴かせておけ	1990	油彩、キャンバス	114 ×146	個人蔵
76	ヴェルドン渓谷	1993	油彩、キャンバス	130 ×195	個人蔵
77	母と子供の私とサン・ラザール駅	1994	油彩、キャンバス	130 ×195	個人蔵

＊　寸法は縦×横。



「レンブラントの解剖学講義」



「ドゥアルヌネ」

今日のプリントアート展

会期＝平成7年12月2日(土)― 平成8年1月28日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

関連事業

特別展セミナー
「プリントアート―版画と写真と」
講師＝鎌田　享（当館学芸員）
日時＝12月２日(土)、12月16日(土)　午後２時～３時
会場＝当館講堂



ポスター



チラシ・出品目録

帯広美術館では開館以来「プリントアート」を活動方針の一つに掲げ、ヨーロッパのポスターやバルビゾン派の版画の収集、あるいは浮世絵や型染めの展覧会の開催といった、「版表現を用いた作品」の収集・展示活動を行ってきた。本展も、そうした一連の活動につながるものの一つである。

美術の分野では「版画」を意味するプリントという外来語は、もともと「印刷する」「(印などを) 押し付ける」「(写真を) 焼き付ける」など多彩な意味をもつ。ここに共通するのは、図像や色彩、形態を間接的な手法で別なものに定着させるという意味を含んでいることである。

美術作品としてのプリントは歴史的には1点のオリジナルの画像をコピーして複数化しようとしたところから発達し、木版画や銅版画、石版画など技法面で多彩な展開を遂げてきた。ところが1960年代に入って従来の版画の枠におさまらない大胆な作品の制作が試みられ、版画に対する考え方が広義化、多様化するとともに、版画という言葉に代わって「プリントアート」という造語が使われ始めた。ここでは「版」や「型」を用いて画像を別の素材上に転写したもの、あるいはある「媒体」を通じてイメージを伝達するものという包括的な意味合いが強くなってきた。「版画」から「プリントアート」への移行は現代美術の多様化と版表現の拡大という今日的な美術の動向を反映したものといえる。

この展覧会では、19作家の49点によって現代美術における版表現の多彩な世界を紹介するとともに、この領域における当館の作品収集状況と今後の方向性の一端を示した。



会場風景

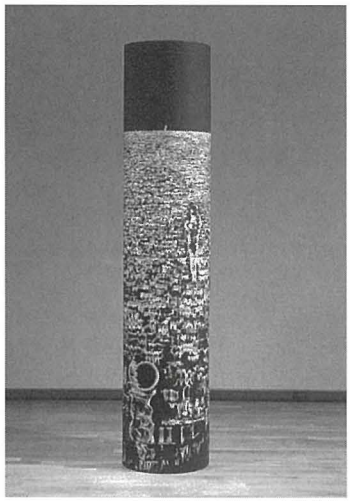


会場風景

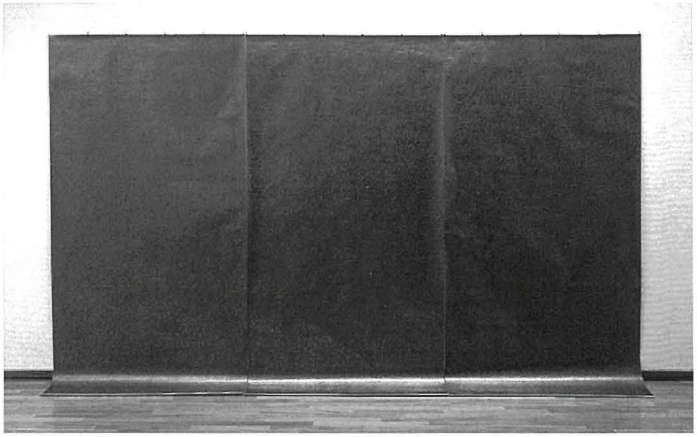
出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	靄　　嘔	オープニング或いは再び田園	1992	シルクスクリーン、紙	各105.0×157.0（2点組）
2	秋岡　美帆	ゆれるかげ	1992	スキャナグラフ（NECO）、紙	153.5×212.5
3	池田　良二	Deposition of memories（記憶の沈殿）	1988	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手すき雁皮	69.9×58.0
4	池田　良二	Window under the midnight sun（白夜の窓）	1988	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手すき雁皮	50.0×50.0
5	池田　良二	Architecture on the cape（岬の上の家）	1989	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手すき雁皮	37.0×53.0
6	池田　良二	Space of foggy ocean（海霧の空間）	1990	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手すき雁皮	113.5×179.7
7	池田　良二	Time of frozen ground（凍土の時）	1990	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手すき雁皮	114.0×180.0
8	磯辺　行久	江戸障壁	1965	ミクストメディア、紙	200.5×299.5
9	一原　有徳	SON 4 (b)	1983	モノタイプ、紙	径50.1×240.0
10	一原　有徳	A. mi. SON (a)	1986	アクリルミラー、インク	54.0×86.0
11	一原　有徳	A. mi. SON 2	1986	アクリルミラー、インク	63.4×100.5
12	一原　有徳	ZOM 88	1988	モノタイプ（アルミ版）、鳥の子紙	151.0×425.0（5点組）
13	一原　有徳	SY (A)	1989	アルミ版（塩化第二鉄）、紙	80.0×121.5
14	一原　有徳	RS 51	1989	鉄版（電気サンダー）、紙	74.3×91.0
15	一原　有徳	FH (3)	1989	鉄版（天然腐触）、紙	66.0×121.7
16	一原　有徳	AM	1990	アルミ版（水酸化ナトリウム、塩化第二鉄、電気サンダー、電気ドリル）、紙	66.0×98.5
17	一原　有徳	SU 90	1990	熱版、ステンレス、蛍光塗料	80.0×60.0
18	一原　有徳	SU (SON)	1990	熱版、ステンレス、蛍光塗料、インク	80.0×60.0
19	一原　有徳	ZOM 90 (1)	1990	モノタイプ（アルミ版）、紙、自動車部品	各121.0×80.0（13点組）
20	一原　有徳	タガネ9	——	鉛、インク、タガネ	77.6×47.8

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
21	大浦　一志	杉並区阿佐ケ谷南3丁目23-13…普賢岳(川は水を必要としていた)	1994	印画紙、ミクストメディア	169.0×225.0
22	太田　三郎	Stamp map of Hokkaido　"December29, 1993"	1993	切手、消印	300.0×300.0
23	太田　三郎	Seed Project	1992-95	種子、和紙	20.7×11.8他
	-1	マメグンバイナズナ・*Lepidium virginicum* L. 1992年8月6日香川県小豆島寒霞渓			
	-2	ナナカマド・*Sorbus commixta* Hedl. 1992年12月30日北海道小樽市幸			
	-3	クジャクソウ・*Tagestes* 1993年6月4日東京都中央区築地			
	-4	イヌムギ・*Bromus catharticus* Vahl 1993年6月12日東京都練馬区北町			
	-5	ヤマノイモ・*Dioscorea japonica* Thunb. 1993年11月3日東京都練馬区北町			
	-6	センダングサ・*Bidens biternata* Merr. et Sherff 1993年12月11日東京都練馬区高松			
	-7	シロバナタンポポ・*Taraxacum albidum* Dahlst. 1994年4月24日岡山県津山市北園町			
	-8	チカラシバ・*Pennisetum alopecuroides* Spreng. 1994年10月14日岡山県津山市山北			
	-9	ツワブキ・*Farfugium japonicum* Kitami. 1995年1月3日岡山県津山市北園町			
	-10	ヘリクリサム・*Helichrysum bracteatum* 1995年7月26日山形県山形市霞城公園			
24	太田　三郎	On the Beach	1987-89	カラーコピー、凸版、紙	25.0×16.0他
	-1	*Mytilus edulis* 1987年3月28日兵庫県須磨浦海岸			
	-2	Beach plastics 1987年7月20日山形県大岩川海岸			
	-3	Beach stone 1987年9月19日新潟県佐渡白瀬海岸			
	-4	Pine needles 1987年10月4日鳥取県鳥取砂丘			
	-5	Fragment of a broken china 1988年7月9日神奈川県鎌倉市由比ケ浜			
	-6	Driftwoods 1988年8月17日山形県大岩川海岸			
	-7	*Umbonium costatum* 1989年2月8日神奈川県大磯海岸			
	-8	Pine cone 1989年10月8日宮城県松島海岸			
	-9	Beach nails 1989年10月9日福島県釣師浜			
	-10	Sea urchins 1989年10月29日神奈川県三戸浜			
25	岡部　昌生	Stroke-on the road at Hiroshimacho in Sapporo,September7-November15,1987	1987	鉛筆、フロッタージュ、紙	各300.0×152.0（3点組）
26	岡部　昌生	フロッタージュ・ファックス・レター・プロジェクト「島から…」1991年7月22日-8月24日	1991	フロッタージュ、ファックス・レター、紙	35.3×25.0他（88点組）
27	岡部　昌生	オビヒロ・マトリックス1991の10ピース	1991	鉛筆、フロッタージュ、紙	各50.9×39.4（10点組）
28	國安　孝昌	Wind Field Project	1995	鉛筆、ミクストメディア、紙	各60.0×85.0（15点組）



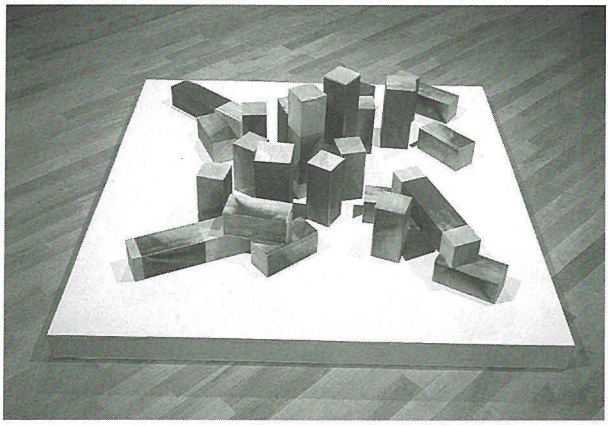
一原有徳「SON 4 (b)」



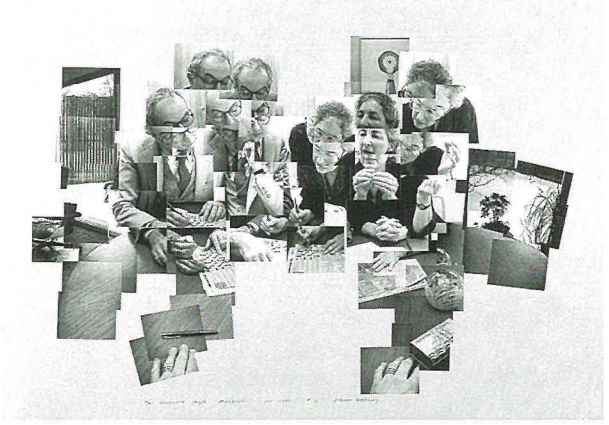
岡部昌生「Stroke-on the road at Hiroshimacho in Sapporo,September7-November15,1987」

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
29	島　州一	新聞紙に新聞紙	1974	シルクスクリーン、新聞紙	82.0×55.0
30	島　州一	新聞紙に泥のプリント	1976	シルクスクリーン、新聞紙	81.5×54.5
31	島　州一	指紋と木目	1976	シルクスクリーン、角材	11.0×11.0×26.0他（24点組）
32	島　州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、段ボール、和紙	99.0×69.0
33	島　州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、和紙	73.0×63.5
34	島　州一	CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS No.38	1982-85	フィンガープリント、シルクスクリーン、チョーク、スチレンボード	90.0×98.0×d11.3
35	中谷　有逸	碑（海・蠕動）	1995	凹凸併用版、コラージュ、紙	270.0×540.0
36	百瀬　寿	Square-Vertical Blue to Magenta	1981	スキャナグラフ（NECO）、キャンバス	180.0×180.2
37	百瀬　寿	Square-Metallic Green and Violet	1984	シルクスクーン、紙	90.0×90.0
38	百瀬　寿	Square-Metallic Yellow and Silver	1984	シルクスクーン、紙	90.0×90.0
39	森村　泰昌	寒雀寒鳩（御舟）	1990	カラー写真プリント	155.0×120.0
40	森村　泰昌	野菜涅槃（若沖）	1990	カラー写真プリント	208.0×120.0
41	横尾　忠則	ブルーワンダーランド	1973	シルクスクリーン、紙	各103.2×72.6（8点組）
42	横尾　忠則	葬列II	1969(1985年再制作)	シルクスクリーン、アクリルプレート	75.2×114.0×d9.5
43	デイヴィッド・ホックニー	クロスワード・パズル　1983年1月　ミネアポリス	1983	フォト・コラージュ	83.8×117.0
44	デイヴィッド・ホックニー	グランド・キャニオンの北側を見る　1982年9月　アリゾナ	1982	フォト・コラージュ	114.0×254.7
45	デイヴィッド・ホックニー	京都　1993年4月24日	1993	カラー・レーザープリント・フォト	61.0×183.5
46	マイク・スターン,ダグ・スターン	若い娘たち	1990-93	印画紙、透明フィルム、木	57.5×46.0×d5.5他（9点組）
47	フランク・ステラ	スワン・エングレイヴィング、ブルー、グリーン、グレー	1985	エッチング、ミクストメディア、紙	169.0×133.0
48	ロバート・ラウシェンバーグ	スリングーショッツ・リットNo.8	1985	シルクスクリーン、ミクストメディア	214.3×141.8×d32.2
49	ロイ・リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6×114.3

＊　No.8、22～24、28は作者蔵、No.39、40は双ギャラリー蔵、No.43～45は西村画廊蔵、No.49はプライベート・コレクション、他は北海道立帯広美術館蔵。
＊　寸法は立体作品は奥行×幅×高さ、または径×高さ。平面（レリーフ）作品は縦×横（×d奥行）。



島　州一「指紋と木目」



ホックニー「クロスワード・パズル　1983年1月　ミネアポリス」

イギリス木版画展　1890 — 1945

会期＝平成8年2月3日(土) — 3月27日(水)
主催＝北海道立帯広美術館、
　　ブリティッシュ・カウンシル

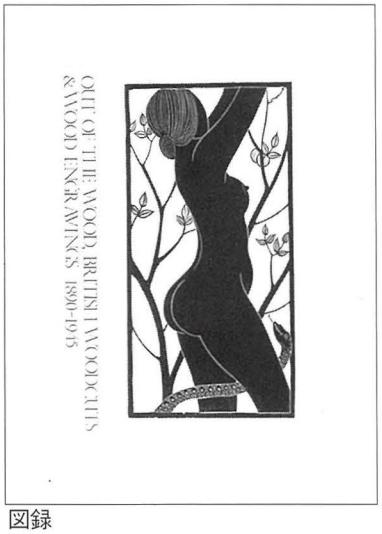
協力＝郡山市立美術館

関連事業

美術講演会
「木口木版 — 歴史と可能性」
講師＝水沢　勉氏（神奈川県立近代美術館主任学芸員）
日時＝3月16日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂



ポスター

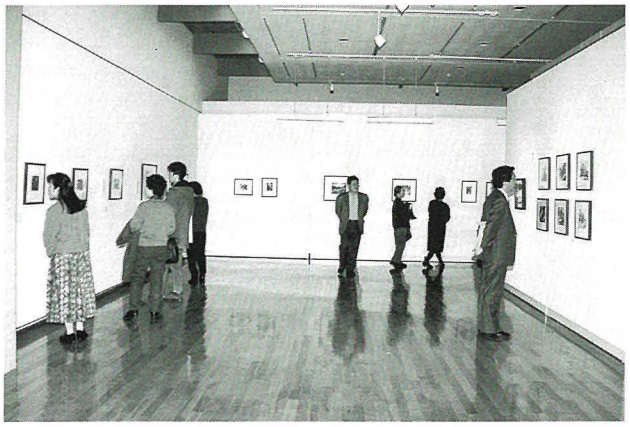


図録

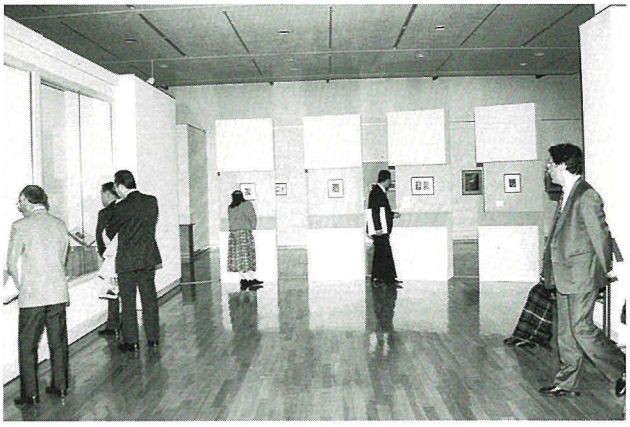
19世紀以降、イギリスでは木口木版を中心に版画が盛んに制作された。高度な技術によって精緻な図柄を生み出したそれらのイギリス木版画の多くは、もともと写実的な挿絵として書籍を飾るものだったが、しかし1880年代に写真をそのまま印刷する技法が開発されると、印刷技術の世界から離れ純粋な造形表現の手段として魅力的な作品を生むにいたった。本展は、独自の表現世界を見せ始めた19世紀から20世紀にかけてのイギリス木版画の動向を、ブリティッシュ・カウンシルが所蔵する61点の作品により概観したものである。

また、同時期のイギリスの版画芸術の状況をより広範に紹介するため、イギリス美術のすぐれた作品収集で知られる郡山市立美術館（福島県）のローダー・コレクションより木版画、リトグラフ、銅版画、計46点を借用し、本展にあわせて特別展示した。

展示構成は、主展示室１にブリティッシュ・カウンシル所蔵の木口水版画を、主展示室２に郡山市立美術館所蔵のローダー・コレクションをそれぞれ展示し、近代イギリス版画の展開を系統的にたどる展示構成とした。



会場風景



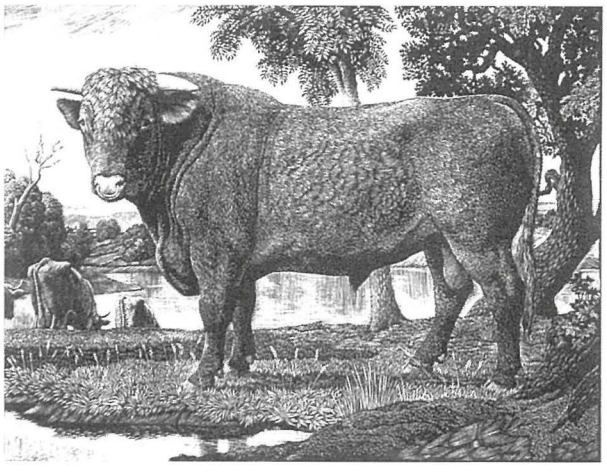
会場風景

出品目録

イギリス木版画展　1890-1945

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
1	ジョウン・ハッサル	ペンセスペロン	1938	木口木版	6.3×7.4
2	ジョウン・ハッサル	水紋	1937	木口木版	7.7×10.8
3	ジョン・ファーレイ	我が終焉に我が起源あり	1943	木口木版	46.9×31.1
4	チャールズ・シャノン	束ねる人々	不詳	木口木版	径13.6
5	チャールズ・シャノン	落葉	不詳	木口木版	径13.3
6	チャールズ・シャノン	冬	不詳	木口木版	径13.9
7	チャールズ・シャノン	囚われのペガサス	不詳	木口木版	径13.7
8	チャールズ・リケッツ	信仰	不詳（1897頃？）	木口木版	17.1×10.0
9	シドニー・リー	ポンテ・パラディーソ（楽園の橋）	1927	木口木版	33.0×38.0
10	トマス・スタージ・ムーア	島のすがたをした牧神	不詳	木口木版	19.4×13.0
11	トマス・スタージ・ムーア	岩壁のなかの牧神	不詳	木口木版	14.4×10.3
12	トマス・スタージ・ムーア	ドラゴンの死	不詳	木口木版	16.0×22.0
13	エドワード・ゴードン・クレイグ	リア王	1908	木口木版	径10.6
14	エドワード・ゴードン・クレイグ	リア王―舞台の第二場	1908	木口木版	12.5×8.4
15	エドワード・ゴードン・クレイグ	鳥の踊り―ハムレット	1927	板目木版	15.9×10.2
16	ジョージ・ソーパー	ウィルミントン	不詳	木口木版	13.0×19.0
17	エリック・フィッチ・ダグリッシュ	海洋生物	不詳	木版	14.0×11.4
18	チャールズ・F. タニクリフ	短角牛	1939頃	木口木版	22.8×30.5

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
19	チャールズ・F. タニクリフ	大鷹	不詳	木口木版	33.0×14.0
20	エリック・ギル	エヴァ	1926	木口木版、手彩色	23.7×11.8
21	エリック・ギル	自画像（最終ステート）	1927	木口木版	17.7×12.5
22	エリック・ギル	ヴィーナスとキューピッドと金鶏鳥に飾られたHの文字	1928	木口木版	16.5×12.6
23	エリック・ギル	十字架降下	1931	木口木版	20.2×16.5
24	ロバート・ギビングス	カモメ	1934	木口木版	21.7×15.3
25	ブレア・ヒューズ=スタントン	サブリーナ	1931	木口木版	18.2×8.3
26	ブレア・ヒューズ=スタントン	ふたりの兄弟	1931	木口木版	18.2×9.6
27	ブレア・ヒューズ=スタントン	コーマス	1931	木口木版	18.2×8.3
28	ブレア・ヒューズ=スタントン	驚異	1932	木口木版	20.9×12.4
29	ブレア・ヒューズ=スタントン	力強い天使	1932	木口木版	21.1×12.6
30	ブレア・ヒューズ=スタントン	四人の騎手	1932	木口木版	21.6×12.6
31	デイヴィッド・ジョーンズ	エヴリマン	1929	木口木版	14.2×16.7
32	ポール・ナッシュ	港	1922	木口木版	12.0×17.7
33	ヘンリー・ムーア	人物、彫刻	1931	木口木版	12.7×19.7
34	レオン・アンダーウッド	小麦の収穫	1943	板目木版（多色）、リノカット併用	45.0×62.0
35	ジョン・ナッシュ	風景	1922	木口木版	12.9×15.4
36	ジョン・ナッシュ	サボテン	1926	木口木版	16.0×12.8
37	イアン・マクナブ	春の風景、トッサ、スペイン	1935	木口木版	20.3×25.6
38	イアン・マクナブ	帆を干す人々、ガルダ湖	1938	木口木版	21.7×19.1
39	ノーマン・ジェインズ	カンバーランド州の岩山	1936	木口木版	22.3×30.0
40	アグネス・ミラー・パーカー	魚	1930	木口木版	15.2×10.5
41	アグネス・ミラー・パーカー	睡蓮と蜻蛉	1937	木口木版	10.5×12.2
42	ガイ・マレット	小さな橋	1946	木口木版	20.3×25.5
43	クレア・レイトン	枝を払う	1931	木口木版	21.7×30.5
44	クレア・レイトン	洗濯、コルシカ	1934	木口木版	21.6×25.6
45	クリフォード・ウェッブ	小さな池	不詳	木口木版	23.5×17.7
46	クロートン・ペリュー	グロースターの小道	1933	木口木版	25.3×20.3
47	バーバラ・グレッグ	森のはずれ	1938？	木口木版	18.7×15.2
48	バーナード・ライス	水車小屋（ウガール川の壊れた水車小屋）	1924	木口木版	24.4×22.0
49	ジョン・バックランド=ライト	踊り子カム・ルオンno.1	1935	木口木版	14.9×8.9
50	ジョン・バックランド=ライト	構図　no.9	1938	木口木版	18.6×11.0
51	ジョン・バックランド=ライト	ロンドン大火	1938	木口木版	17.6×25.2
52	ジョン・バックランド=ライト	森の池	不詳	木口木版	15.1×19.5
53	ジョン・プラット	二匹の猿	1935	板目木版（多色）	36.0×20.0



タニクリフ「短角牛」

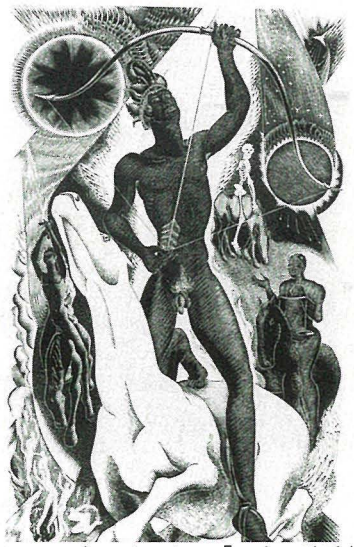


ギル「エヴァ」

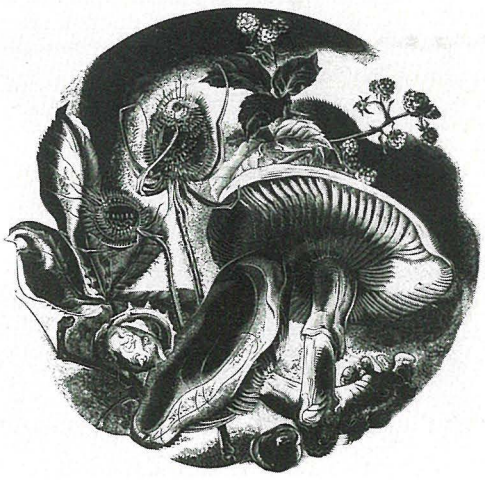
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
54	ジョン・ファーレイ	ドクニンジン	1929	木口木版	36.6×26.2
55	ジョン・ファーレイ	メランコリア	1935	木口木版	28.0×51.2
56	グウェン・ラヴェラ	水車小屋の池	1931	木口木版	10.2×15.2
57	グウェン・ラヴェラ	沼沢地	1935	木口木版	17.7×15.2
58	グウェン・ラヴェラ	グラントチェスターのマロニエ	1938	木口木版	7.3×10.2
59	ガートルード・ハーミーズ	秋の実り	1935	木口木版	径34.5
60	ガートルード・ハーミーズ	底流	1938	木口木版	40.6×30.7
61	ガートルード・ハーミーズ	戦士の墓標	1941	木口木版	径44.5

ローダーコレクション

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
62	ロバート・ベヴァン	馬商人（ウォードの倉庫　No.1）	1919	リトグラフ	27.6×38.0
63	ロバート・ベヴァン	馬市（バービカン　No.1）	1920	リトグラフ	26.6×36.7
64	ロバート・ベヴァン	ウォードの倉庫での競売（ウォード　No.2）	1921	リトグラフ	31.0×36.8
65	ロバート・ベヴァン	バービカンの馬商人（バービカン　No.2）	1921	リトグラフ	30.2×35.8
66	デイヴィッド・ボンバーク	ロシア・バレエ	1914-19	カラー・リトグラフ、本	21.9×14.3
67	エドワード・バラ	酒場	不詳	木版	15.4×10.2
68	ロバート・ギビングス	ペンキ屋	1921	木口木版	14.2×12.4
69	ロバート・ギビングス	チューリップ	1922	木口木版	17.6×17.8
70	ロバート・ギビングス	12の木口木版画	1921	木口木版、本	27.6×20.6
71	チャールズ・ジナー	ピット・ハウス	1931	木口木版	26.6×22.8
72	チャールズ・ジナー	イースト・ヒースにて	不詳	木口木版	21.2×26.3
73	チャールズ・ジナー	コーンウォールのコテージ	不詳	木版	19.2×13.0
74	ポール・ナッシュ	夜間行軍	1918	リトグラフ	50.8×42.9
75	ポール・ナッシュ	ドイツ製二重トーチカ、ゲルフェルト	1918	リトグラフ	45.8×35.9
76	ポール・ナッシュ	見知らぬ海岸	1920	リトグラフ	30.1×40.2
77	ポール・ナッシュ	石工職人、テシガー・クロウン	1921	木版	7.6×7.6
78	ポール・ナッシュ	冬	1921	木版	14.0×11.2



ヒューズ=スタントン「四人の騎手」



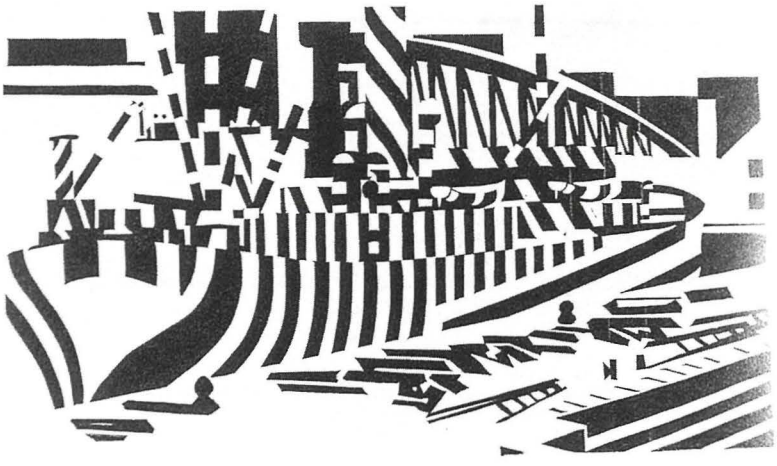
ハーミーズ「秋の実り」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
79	ポール・ナッシュ	森への小道	1921	木版	12.7×10.2
80	ポール・ナッシュ	冬の森	1922	木版	14.7×11.5
81	ポール・ナッシュ	庭の池	1922	木版	10.3×12.8
82	ポール・ナッシュ	場所	1922	木口木版、本	28.3×22.2
83	ポール・ナッシュ	フォード・マドックス・フォード（ヘファー）によるボスフォラス氏とミューズの神々	1923	木版、本	25.3×19.0
84	ポール・ナッシュ	創世紀	1924	木版、本	27.5×19.5
85	ポール・ナッシュ	闇から光が分かたれる	1924	木版	11.5×9.0
86	ポール・ナッシュ	天空創造	1924	木版	11.5×9.0
87	ポール・ナッシュ	乾いた地が現れる	1924	木版	11.5×9.0
88	ポール・ナッシュ	倦怠	1927	木版	14.2×9.6
89	ポール・ナッシュ	楽園	1927	木版	14.0×9.4
90	ポール・ナッシュ	イワン・ヴァジルイェヴィッチ皇帝と彼の若い護衛隊と勇敢なカラシュニコフ商人の歌	1929	木口木版、本	27.4×17.6
91	ポール・ナッシュ	イワン・ヴァジルイェヴィッチ皇帝の歌	1929	木版	10.2×3.9他（4点組）
92	ポール・ナッシュ	花束	不詳	木版	12.2×9.6
93	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	休息するフランス軍	1916	ドライポイント	18.0×23.8
94	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	アラスからバポームへの道	1918	リトグラフ	47.0×38.8
95	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	大攻撃の後	1918	リトグラフ	33.5×43.2
96	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — アセチレン溶接工	1917	リトグラフ	40.5×29.9
97	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — 部品組立	1917	リトグラフ	40.2×30.0
98	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — エンジン製作	1917	リトグラフ	40.4×30.4
99	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — 空中で	1917	リトグラフ	40.4×30.0
100	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — 4000フィートでの旋回飛行	1917	リトグラフ	40.2×31.6
101	クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面 — ドイツ戦闘機—タウブへの急襲	1917	リトグラフ	40.0×29.8
102	スタンリー・スペンサー	取り戻したボール（囲い）	1953	カラー・リトグラフ	40.0×53.2
103	スタンリー・スペンサー	カナでの結婚式：花婿と花嫁	不詳	リトグラフ	50.0×43.8
104	エドワード・ウォズワース	ストリート・シンガー	1914	木版	14.8×10.8
105	エドワード・ウォズワース	創造	1917	木版	10.5×8.2
106	エドワード・ウォズワース	乾ドック内の迷彩船	1918	木版	12.8×21.7
107	エドワード・ウォズワース	内部	不詳	木版	10.7×7.3

＊　寸法は縦×横、または径。
＊　No.1〜61はブリティッシュ・カウンシル蔵、No.62〜107は郡山市立美術館蔵。



ナッシュ「天空創造」



ウォズワース「乾ドック内の迷彩船」

風韻のカンヴァス　能勢眞美展　草木を愛で、詩趣を写す。

会期＝平成8年4月9日(火)―6月2日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社、
　　NHK帯広放送局



ポスター

関連事業

特別展セミナー
「能勢眞美―人と作品」
講師＝鎌田　享（当館学芸員）
日時＝４月13日(土)、４月27日(土)、５月11日(土)
　　午後２時～３時
会場＝当館講堂


図録

能勢眞美は、戦前戦後を通じて北海道画壇の中心的存在として活躍し、道内画壇の発展に努めた画家である。

1897（明治30）年白老町に生まれた能勢は、20代の頃より本格的に画家の道を志し、北海道美術協会（道展）創立に参加、また日展、一水会展などへの出品を重ね北海道を代表する画家として活躍した。1948（昭和23）年には帯広に移住し、以後1982年84歳で世を去るまでこの地で制作活動を続け、十勝地方の美術の発展に多大な影響を与えた。

緑豊かな樹林や庭の風景を写実的に描き出したその作品は今なお多くの人々に親しまれている。とりわけ、木々に映える光のうつろいや澄んだ大気の卓越した描写はこの画家独自の表現といえる。

この展覧会では、遺族のもとより近年新たに発見された初期作品を始め、道内各地に所蔵されている油彩58点、水彩・素描14点の合わせて72点を紹介した。池畔の景色や雪の街並みに取材した初期の作品から、微細な草木のすがたを深みのある色調でとらえた1950年代の作品、そして木々の連なりを透明感のある色彩で空間性豊かに描いた晩年の作品にいたるまで、能勢眞美の画業の全貌を振り返ることができた。

展示構成の面では、主展示室１に札幌時代の油彩画23点と水彩素描群を、主展示室２には帯広移転以後の油彩画35点を展示した。当館展示室の構造を生かしつつ、この風景画家の二つの制作地における作風の差異と共通性を、対比的に示すよう試みた。

地元ゆかりのこの画家の本格的な回顧展としては初の機会であったため来館者の関心も高く、会期中7,497名が訪れた。


会場風景


会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	自画像	1921（大正10）	油彩、キャンバス	32.8×23.7	北海道立近代美術館
2	婦人像	1925（大正14）	油彩、キャンバス	89.2×52.3	能勢雅子氏
3	青い鳥	1926（大正15）	油彩、キャンバス	116.3×72.0	北海道立近代美術館
4	〈緑庭（下絵）〉	1930（昭和5）	油彩、キャンバス	89.1×180.3	能勢雅子氏
5	緑庭	1930（昭和5）	油彩、キャンバス	95.5×160.1	北海道畜産会
6	冬の風景	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	88.3×102.0	能勢雅子氏
7	裏街	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	72.8×99.7	佐藤文雄氏
8	道	1931（昭和6）	油彩、キャンバス	60.4×50.1	黒澤悦子氏
9	〈風景〉	1932（昭和7）	油彩、キャンバス	152.1×162.7	根室市
10	池畔雪景	1933（昭和8）	油彩、キャンバス	130.5×162.3	北海道立帯広美術館
11	静日池畔	1934（昭和9）	油彩、キャンバス	111.8×193.8	長谷川信次氏
12	浅春	1936（昭和11）	油彩、キャンバス	60.6×91.0	澤登龍彦氏
13	坐婦	1937（昭和12）	油彩、キャンバス	128.5×79.3	北海道立帯広美術館
14	樹木と池	1938（昭和13）	油彩、キャンバス	53.0×72.8	長谷川信次氏
15	〈北大植物園〉	1938（昭和13）	油彩、キャンバス	52.9×80.2	札幌市立北九条小学校
16	アオミドロの池	1939（昭和14）	油彩、キャンバス	93.7×191.5	北海道旭川北高等学校
17	校庭閑日	1939（昭和14）	油彩、キャンバス	97.5×194.1	佐久間和子氏
18	春待つ校庭	1940（昭和15）	油彩、キャンバス	95.2×162.2	能勢雅子氏
19	橋畔柳崩	1940（昭和15）	油彩、キャンバス	50.0×60.6	長谷川信次氏
20	黄色い家	1942（昭和17）	油彩、キャンバス	86.1×89.3	能勢雅子氏
21	樹木と池	1942（昭和17）	油彩、キャンバス	86.4×89.2	能勢雅子氏
22	初秋池畔	1942（昭和17）	油彩、キャンバス	96.5×106.0	北海道立帯広美術館（帯広市寄託）

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
23	暁の襲撃	1943-45（昭和18-20）	油彩、キャンバス	71.5×116.1	能勢雅子氏
24	自画像	1948（昭和23）頃	油彩、キャンバス	41.4×32.2	北海道立帯広美術館
25	裏庭	1949（昭和24）	油彩、キャンバス	89.5×145.4	――
26	閑庭	1950（昭和25）	油彩、キャンバス	145×89.5	安達恵氏
27	草	1951（昭和26）	油彩、キャンバス	72.7×117.3	㈱帯広菱雄
28	草木	1951（昭和26）	油彩、キャンバス	162.3×97.5	北海道立近代美術館
29	うばゆり咲く	1952（昭和27）	油彩、キャンバス	117.0×73.0	北海道立近代美術館
30	樹間	1953（昭和28）	油彩、キャンバス	99.7×80.5	とかちプラザ
31	樹林	1953（昭和28）	油彩、キャンバス	97.1×162.4	帯広大谷高等学校
32	樹草茂る	1956（昭和31）	油彩、キャンバス	162.1×97.0	能勢雅子氏
33	緑樹	1956（昭和31）	油彩、キャンバス	161.8×96.8	能勢雅子氏
34	オペレヘルプの黒い路	1958（昭和33）	油彩、キャンバス	70.0×73.0	能勢雅子氏
35	木々	1958（昭和33）	油彩、キャンバス	162.1×130.0	北海道立帯広美術館
36	こかげ	1960（昭和35）	油彩、キャンバス	80.7×130.0	十勝毎日新聞社
37	校庭の夏	1960（昭和35）	油彩、キャンバス	130.5×97.1	帯広大谷高等学校
38	春近き日	1960（昭和35）	油彩、キャンバス	65.0×100.0	北海道立帯広美術館
39	樹庭	1961（昭和36）	油彩、キャンバス	148.0×91.0	北海道立帯広美術館
40	門のある風景	1962（昭和37）	油彩、キャンバス	116.5×91.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
41	繁り	1963（昭和38）	油彩、キャンバス	65.1×90.8	二階堂淳氏
42	樹下小径	1963（昭和38）	油彩、キャンバス	130.5×130.4	十勝川温泉第一ホテル
43	赤い花	1963（昭和38）	油彩、板	24.2×39.5	帯広大谷高等学校
44	樹庭隣秋	1965（昭和40）	油彩、キャンバス	145.6×112.2	帯広百年記念館（能勢雅子氏寄託）
45	静日	1966（昭和41）	油彩、キャンバス	91.2×91.0	法華寺
46	樹列	1966（昭和41）	油彩、キャンバス	145.5×89.5	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
47	初秋の庭	1966（昭和41）	油彩、キャンバス	98.0×227.5	北海道立近代美術館
48	木の庭	1967（昭和42）	油彩、キャンバス	72.7×130.3	北海道立近代美術館
49	疎林初秋	1967（昭和42）	油彩、キャンバス	97.0×162.0	北海道立帯広美術館
50	緑の季節	1969（昭和44）	油彩、キャンバス	38.1×71.3	小泉和子氏
51	秋日	1970（昭和45）	油彩、キャンバス	61.5×92.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
52	涼夏	1972（昭和47）	油彩、キャンバス	96.8×145.5	山崎伸一氏
53	秋の木々	1972（昭和47）	油彩、キャンバス	64.5×90.5	北海道立近代美術館
54	柿	1972（昭和47）	油彩、キャンバス	21.6×33.3	小林満枝氏
55	草木の径	1973（昭和48）	油彩、キャンバス	89.0×130.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)



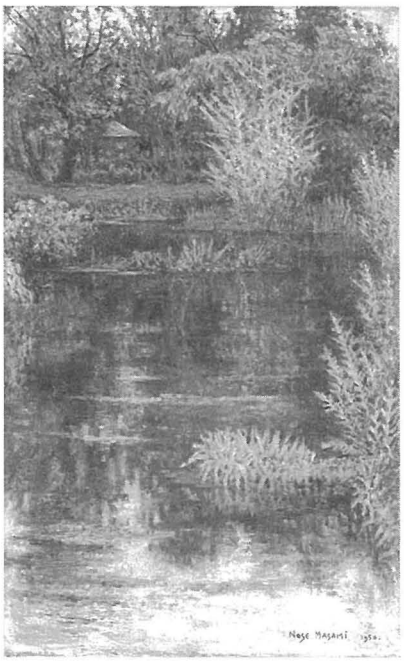
「緑庭」



「裏街」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
56	樹草	1973（昭和48）	油彩、キャンバス	97.0×145.5	北海道立帯広美術館
57	木々	1974（昭和49）	油彩、キャンバス	91.1×116.7	能勢雅子氏
58	春浅く	1977（昭和52）	油彩、キャンバス	53.1×65.2	小泉和子氏
59	国端岬を望む	1943（昭和18）	鉛筆、水彩、紙	24.3×29.2	能勢雅子氏
60	国端にて	1943（昭和18）	鉛筆、水彩、紙	24.3×29.2	能勢雅子氏
61	カムチャッカ遠望	1943（昭和18）	鉛筆、水彩、紙	24.3×28.9	能勢雅子氏
62	湿原小径	1943（昭和18）	鉛筆、水彩、紙	22.7×31.7	能勢雅子氏
63	〈少女像〉	1946（昭和21）	水彩、紙	72.0×42.5	能勢雅子氏
64	〈少女像〉	1949（昭和24）	水彩、紙	73.5×43.9	能勢雅子氏
65	はまなす	1953（昭和28）	水彩、紙	51.8×51.4（3点組）	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
66	はまなす	1953（昭和28）	水彩、紙	36.0×25.5	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
67	木々	1953（昭和28）	ペン、水彩、紙	32.2×16.1	能勢雅子氏
68	みどりが丘附近	1961（昭和36）	水彩、紙	19.5×36.3	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
69	大津にて	1961（昭和36）	水彩、紙	24.2×48.0	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
70	大津にて	1961（昭和36）	水彩、紙	24.3×51.9	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
71	春近き日	1961（昭和36）	水彩、紙	24.0×51.7	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
72	〈柿〉	1971（昭和46）	鉛筆、水彩、紙	19.2×36.6	能勢雅子氏

＊　作品名のうち〈 〉で囲まれたものは、本展のために便宜的につけたものである。
＊　寸法は縦×横。



「閑庭」


「涼夏」

マヤ古代文明の遺産　興亡の謎を探る

会期＝平成8年6月8日(土)―7月14日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社、
　　マヤ古代文明の遺産展実行委員会

後援＝外務省、グァテマラ政府文化スポーツ省、在グァテマラ日本大使館、在日グァテマラ大使館、グァテマラ国立考古学民族学博物館、グァテマラ・ポポル・ヴフ博物館
協力＝京都外国語大学、京都文化博物館、コンピュータ・システム㈱、㈱田中地質コンサルタント、たばこと塩の博物館、㈶資源・環境観測解析センター、東京家政大学生活資料館

関連事業

美術講演会
「マヤ遺跡の発掘をめぐって」
講師＝大井邦明氏（京都外国語大学教授）
日時＝6月8日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

特別展セミナー
「古代マヤの造形」
講師＝平　利弘（当館学芸員）
日時＝6月22日(土)、6月29日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

拓本体験コーナー
指導＝帯広美術館ボランティアしらかばの会
日時＝6月8日(土)、6月9日(日)、6月15日(土)、6月16日(日)
　　6月22日(土)、6月23日(日)、6月29日(土)、6月30日(日)
　　7月6日(土)、7月7日(日)、7月13日(土)、7月14日(日)
　　午後1時30分～4時
会場＝当館ロビー



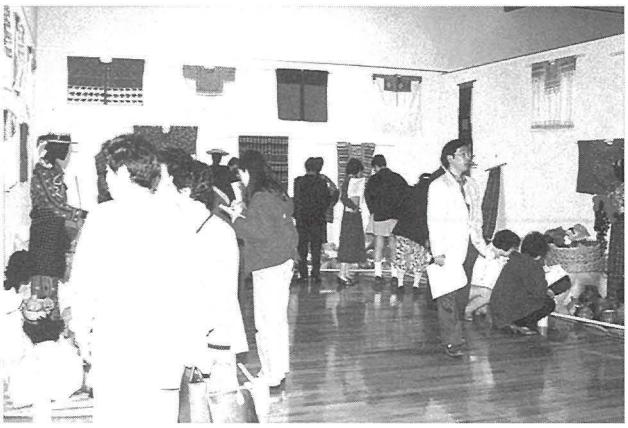
ポスター



図録

現在のメキシコとグァテマラに栄えたマヤ文明は、世界でも有数の古代文明を築き上げたことで知られている。いぜん未解読の分野が多いマヤ文字や高度の数学を駆使したマヤ歴をはじめ、彼らの残した建築・美術・工芸などの造形美術は、16世紀のスペイン侵入以来、今日までその謎の解明が続けられてきた。とりわけ、マヤ古代文明が現在もなお継承され脈々と生きている中米グァテマラに残された遺品は、これまで紹介される機会も少なく近年は世界のマヤ研究者の注目を浴びている。

本展では、グァテマラ国立考古学民族学博物館、ポポル・ヴフ博物館に所蔵されるこのグァテマラの遺品を中心に、紀元前1世紀から紀元後16世紀にいたるマヤ民族の彫刻、陶磁器など128点のほか、現代のマヤ系民族の生活文化を紹介する食糧品、染織などもあわせて展示した。これまでマヤ文明の紹介がメキシコに偏重していた経過もあって、興味と関心を集め12,749人の観覧者があった。

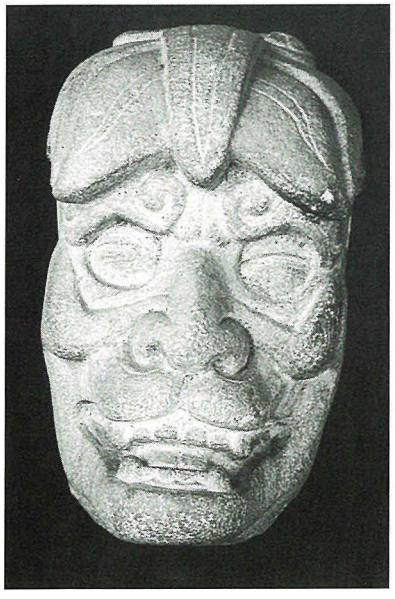

会場風景


会場風景

出品目録

No.	作品名	出土地	時代	寸法(cm)	所蔵
1	ヒゲのある人物石像頭部	アルタ・ベラパス県	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高27	グァテマラ国立考古学民族学博物館
2	壁面装飾用石製人物頭像	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高11.5	ポポル・ヴフ博物館
3	石製人物座像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高4.1	ポポル・ヴフ博物館
4	あぶみ型土器	出土地不明	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高16.5 最大幅15	グァテマラ国立考古学民族学博物館
5	人物装飾のついた土器	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高5.6 最大幅10	ポポル・ヴフ博物館
6	白色化粧土を施した土偶	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高20.3	ポポル・ヴフ博物館
7	白色化粧土を施した土偶	グァテマラ高地	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高27.1	ポポル・ヴフ博物館
8	白色化粧土を施した土偶	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高8.2	ポポル・ヴフ博物館
9	女性土偶	出土地不明	先古典期（カミナルフユⅠ期）	高16.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
10	ジャガーの頭部を背にかつぐ人物石像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高37.4	ポポル・ヴフ博物館
11	こしかけた石製人物像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高7.7	ポポル・ヴフ博物館
12	人・ジャガー石製頭像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高39.5	ポポル・ヴフ博物館
13	向かい合う動物をかたどった石像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高8.1	ポポル・ヴフ博物館
14	石製動物頭部像	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユII期）	高16.6	ポポル・ヴフ博物館
15	鹿の石製頭像	イサバル湖周辺	先古典期（カミナルフユII期）	高32	グァテマラ国立考古学民族学博物館
16	ジャガー形象柱状石製品	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユII期）	高82.3	ポポル・ヴフ博物館
17	建物装飾用石製頭像	出土地不明	先古典期（カミナルフユII期）	高20.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
18	透し彫り人物石像	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高50.5	ポポル・ヴフ博物館
19	動物形象きのこ石	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高37.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
20	動物をかたどった石製すり皿	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	幅3.4、奥行9.2、高1.2	ポポル・ヴフ博物館
21	動物の顔を表現した球形土器（テコマテ）	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高13 口径7.6	グァテマラ国立考古学民族学博物館
22	注口三脚壺形土器	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高14.7 口径10.2	グァテマラ国立考古学民族学博物館
23	刻線で猿を描いた球形土器（テコマテ）	出土地不明	先古典期（カミナルフユII期）	高11.2 口径9	グァテマラ国立考古学民族学博物館
24	人・ジャガー頭部形象土器	グァテマラ高地	先古典期（カミナルフユII期）	高16.5 口径18.2	ポポル・ヴフ博物館
25	人物頭部の装飾がついた土器部分	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユII期）	高24.5	ポポル・ヴフ博物館
26	水鳥形象石製容器	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユIII期）	高8 最大長21	グァテマラ国立考古学民族学博物館

No.	作品名	出土地	時代	寸法(cm)	所蔵
27	細刻線文様を施した三脚付石製容器	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユIII期）	高9.4 口径13.1	ポポル・ヴフ博物館
28	コウモリ形象土器	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユIII期）	高7.3 口径27	グァテマラ国立考古学民族学博物館
29	くつ形土器	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユIII期）	高15.6 最大幅14 最大長29.1	ポポル・ヴフ博物館
30	神面を貼りつけた細刻線文土器	エスクイントラ県プエルト・サン・ホセ	先古典期（カミナルフユIII期）	高32.7 口径35	グァテマラ国立考古学民族学博物館
31	ウスルタン式ネガティヴ文様人頭形象土器	エル・プログレソ県サン・アグスティン・アカサグアストラン	先古典期（カミナルフユIII期）	高17.5 口径14	グァテマラ国立考古学民族学博物館
32	ウスルタン式ネガティヴ文様人頭形象土器	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユIII期）	高28.5 最大幅7.2	グァテマラ国立考古学民族学博物館
33	オレンジ色四脚土器	出土地不明	先古典期（カミナルフユIII期）	高18 口径28.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
34	ウスルタン式ネガティヴ文三脚土器	太平洋岸斜面	先古典期（カミナルフユIII期）	高11.2 口径13.4	ポポル・ヴフ博物館
35	足形土器	サカパ県	先古典期（カミナルフユIII期）	高16.7 最大長14.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
36	死を表現した土製香炉	カミナルフユ遺跡	先古典期（カミナルフユIII期）	高39 最大幅33	グァテマラ国立考古学民族学博物館
37	耳付白彩文土器	出土地不明	先古典期（カミナルフユIII期）	高6.7 口径21.3	ポポル・ヴフ博物館
38	耳付白彩文土器	出土地不明	先古典期（カミナルフユIII期）	高6.7 口径21.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
39	テオティワカン風石製面	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高19.6 厚さ10	ポポル・ヴフ博物館
40	彩色しっくいが施された三脚円筒土器	ペテン県（低地）	古典期前期（カミナルフユIV期）	高15.9 口径13	ポポル・ヴフ博物館
41	蓋付三脚円筒土器	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高28 口径17.8	グァテマラ国立考古学民族学博物館
42	浮彫りが施された蓋付三脚円筒土器	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高27.2 最大幅15	ポポル・ヴフ博物館
43	ワシに乗った人物が浮彫りされた三脚円筒土器	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高14.7 口径12.9	ポポル・ヴフ博物館
44	浮彫りが施された三脚円筒土器	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高25.9 口径33.4	ポポル・ヴフ博物館
45	羽毛の蛇が刻まれた三脚円筒土器	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高25.2 口径26.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
46	注口と把手のついたコップ形土器	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高11.7 口径9.5	ポポル・ヴフ博物館
47	双胴壺形土器	カミナルフユ遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高15.3 最大長25	ポポル・ヴフ博物館
48	眠る犬をかたどった土器	モタグア川流域	古典期前期（カミナルフユIV期）	高10.2 最大長21.3	ポポル・ヴフ博物館
49	多彩文蓋付土器	ペテン県（低地）	古典期前期（カミナルフユIV期）	高22 口径23.2	ポポル・ヴフ博物館
50	多彩文土器	ティカル遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高9 口径33	グァテマラ国立考古学民族学博物館
51	多彩文四脚土器	ティカル遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高9 口径17	グァテマラ国立考古学民族学博物館
52	多彩文注口土器	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高11.8 口径11	グァテマラ国立考古学民族学博物館
53	動物が描かれた多彩文土器	ティカル遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高9 口径17	グァテマラ国立考古学民族学博物館
54	マヤ文字が描かれた多彩文土器	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高11.8 口径18	グァテマラ国立考古学民族学博物館
55	多彩文椀形土器	ラ・ラグニタ遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高11.3 口径12.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
56	蓋付円筒形土器	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高26.5 口径9.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
57	高台付刻線文土器	ワシャクトゥン遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高7.5 口径11.8	グァテマラ国立考古学民族学博物館
58	ハナグマ形象蓋付土器	ワシャクトゥン遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高20.5 最大幅14.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
59	人物形象蓋付土製香炉	アマティトラン湖	古典期前期（カミナルフユIV期）	高41.5 最大幅19.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
60	着飾った人物をかたどった土製香炉の蓋	太平洋岸斜面	古典期前期（カミナルフユIV期）	高28.2 最大幅29.5奥行22	ポポル・ヴフ博物館
61	人・コウモリをかたどった土製香炉	出土地不明	古典期前期（カミナルフユIV期）	高43.5 最大幅25	グァテマラ国立考古学民族学博物館

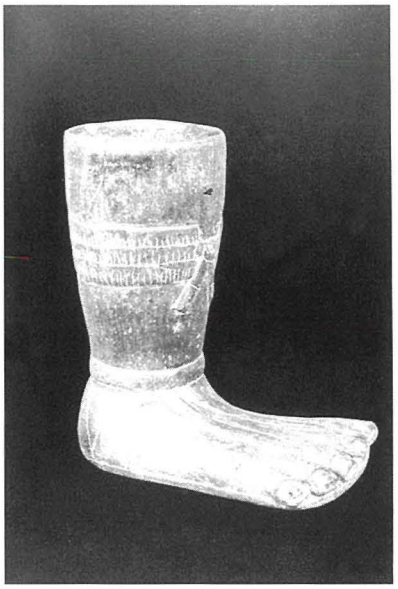


「人・ジャガー石製頭像」



「オレンジ色四脚土器」

No.	作品名	出土地	時代	寸法(cm)	所蔵
62	突起付土製香炉	アマティトラン湖	古典期前期（カミナルフユIV期）	高12.5 口径18.1	ポポル・ヴフ博物館
63	コウモリをかたどった土製香炉の一部	アマティトラン湖	古典期前期（カミナルフユIV期）	高23.7	ポポル・ヴフ博物館
64	人物形象土製香炉の蓋	アマティトラン湖	古典期前期（カミナルフユIV期）	高32.7 幅19.6	ポポル・ヴフ博物館
65	ワニ形象柄付土製香炉	ミ・シエロ遺跡	古典期前期（カミナルフユIV期）	高8 最大長32	グァテマラ国立考古学民族学博物館
66	ひすい製モザイク面	ティカル遺跡	古典期後期（カミナルフユV期）	高34.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
67	九つのマヤ文字が刻まれた石板	ピエドラス・ネグラス遺跡	古典期後期（カミナルフユV期）	高41 幅36.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
68	蛇を浮彫りにしたU字形石製品（ユーゴ）	太平洋岸斜面	古典期後期（カミナルフユV期）	最大長40.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
69	鳥と頭蓋骨が刻まれた祭祀用斧状石製品（アチャ）	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高30	グァテマラ国立考古学民族学博物館
70	把手付人物頭部（球技用具の石製模造品?）	太平洋岸斜面	古典期後期（カミナルフユV期）	高14.6	ポポル・ヴフ博物館
71	マヤ文字と人物を描いた多彩文円筒形土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高23 口径10	ポポル・ヴフ博物館
72	マヤ文字と擬人化された動物を描いた多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高18.1 口径11.3	ポポル・ヴフ博物館
73	マヤ文字と神像を描いた多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高17.4 口径15	ポポル・ヴフ博物館
74	マヤ文字と神像を描いた多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高10.3 口径21.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
75	多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高7.1 口径13	ポポル・ヴフ博物館
76	多彩文高台付土器	ティカル遺跡	古典期後期（カミナルフユV期）	高9 口径33	グァテマラ国立考古学民族学博物館
77	人物を描いた多彩文土器	グァテマラ高地	古典期後期（カミナルフユV期）	高16.4 口径15.5	ポポル・ヴフ博物館
78	擬人化された動物を描いた多彩文土器	グァテマラ高地	古典期後期（カミナルフユV期）	高14.5 口径16.9	ポポル・ヴフ博物館
79	人物を描いた多彩文土器	グァテマラ高地	古典期後期（カミナルフユV期）	高15.9 口径16.7	ポポル・ヴフ博物館
80	人物を描いた多彩文土器	グァテマラ高地	古典期後期（カミナルフユV期）	高12.9 口径19.1	ポポル・ヴフ博物館
81	擬人化された動物を描いた多彩文土器	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高10	グァテマラ国立考古学民族学博物館
82	多彩文円筒形土器	エル・プログレソ県サン・アグスティン・アカサグアストラン	古典期後期（カミナルフユV期）	高16 口径13.8	グァテマラ国立考古学民族学博物館
83	多彩文円筒形土器	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高18.5 口径15.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
84	擬人化された動物を描いた多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高18.4 口径11.8	ポポル・ヴフ博物館
85	神像を描いた多彩文土器	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高16.2 口径14.5	ポポル・ヴフ博物館
86	人物群像を描いた多彩文土器	グァテマラ高地	古典期後期（カミナルフユV期）	高18 口径18.2	ポポル・ヴフ博物館
87	彩色しっくい装飾が施された円筒形土器	モタグア川流域	古典期後期（カミナルフユV期）	高20.2 口径14.8	ポポル・ヴフ博物館
88	人物が浮彫りされた円筒形土器	モタグア川流域	古典期後期（カミナルフユV期）	高25.6 口径17.2	ポポル・ヴフ博物館
89	文字と人物が浮彫りされた円筒形土器	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高18 口径13.6	グァテマラ国立考古学民族学博物館
90	オレンジ色土器	パロ・ゴルド遺跡	古典期後期（カミナルフユV期）	高24 口径12.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
91	赤褐色三脚土器	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高13.4 口径35.7	グァテマラ国立考古学民族学博物館
92	神面形象土製香炉	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高20.5 口径24.8	グァテマラ国立考古学民族学博物館
93	神面形象土製香炉	ペテン県（低地）	古典期後期（カミナルフユV期）	高16.4 口径19.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
94	ジャガーをかたどったドーナツ形土器	エスクイントラ県シパカテ	古典期後期（カミナルフユV期）	高14 最大幅16	グァテマラ国立考古学民族学博物館
95	ジャガー形象土製香炉	出土地不明	古典期後期（カミナルフユV期）	高30 口径25.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
96	動物形象土器	モタグア川流域	古典期後期（カミナルフユV期）	高21.4 口径12.9	ポポル・ヴフ博物館

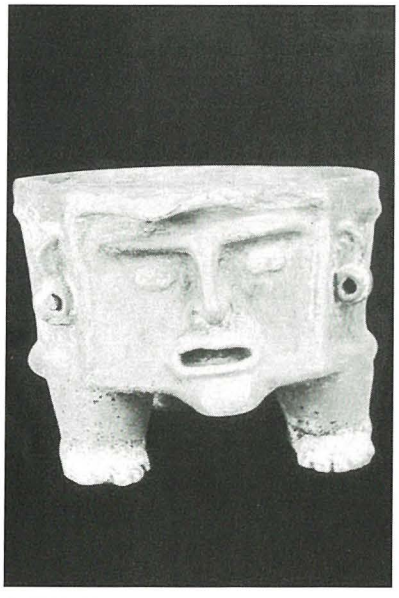


「足形土器」

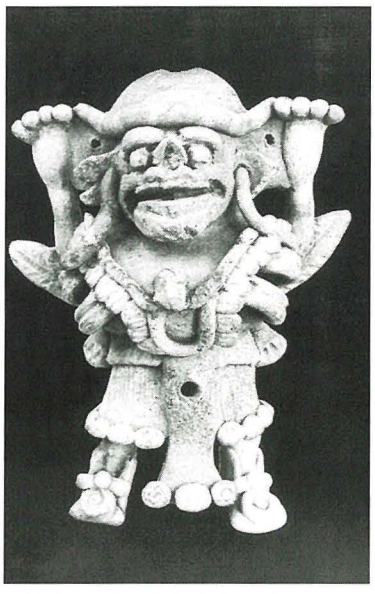


「人物を描いた多彩文土器」

No.	作品名	出土地	時代	寸法(cm)	所蔵
97	老人を表現した土偶頭部	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高26	ポポル・ヴフ博物館
98	老人形象土器	出土地不明	古典期後期(カミナルフユV期)	高17 最大幅11	グァテマラ国立考古学民族学博物館
99	オレンジ色人物形象土器	太平洋岸斜面	古典期後期(カミナルフユV期)	高16.2	グァテマラ国立考古学民族学博物館
100	人面形象三脚土器	出土地不明	古典期後期(カミナルフユV期)	高13 口径17.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
101	人物形象蓋付土製香炉	キチェ県ネバフ	古典期後期(カミナルフユV期)	高18 最大幅21	グァテマラ国立考古学民族学博物館
102	女性像部分（土製香炉の蓋？）	エスクイントラ県	古典期後期(カミナルフユV期)	高38 最大幅33.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
103	人物頭部をかたどった骨壺形土器の蓋の一部	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高25.5	ポポル・ヴフ博物館
104	子供を膝にのせた女性をかたどった土偶	太平洋岸斜面	古典期後期(カミナルフユV期)	高23.9	ポポル・ヴフ博物館
105	動物形象土製容器の蓋	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高19.8 最大幅15.3	ポポル・ヴフ博物館
106	彩色され胸に蛇の装飾をつけた人物形象土製香炉の蓋	モタグア川流域	古典期後期(カミナルフユV期)	高38.3 最大幅24.5	ポポル・ヴフ博物館
107	彩色され胸に蛇の装飾をつけた人物形象土製香炉の蓋	モタグア川流域	古典期後期(カミナルフユV期)	高38.6 最大幅22	ポポル・ヴフ博物館
108	着飾った人・動物形象土偶（笛）	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高18.6	ポポル・ヴフ博物館
109	着飾った人物をかたどった土製笛	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高21	ポポル・ヴフ博物館
110	土製仮面	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高29.5 最大幅22.6	ポポル・ヴフ博物館
111	動物にのった人物土偶	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高14.6	ポポル・ヴフ博物館
112	擬人化されたジャガーをかたどった土製笛	ペテン県（低地）	古典期後期(カミナルフユV期)	高8.8	ポポル・ヴフ博物館
113	フクロウをかたどった土製笛	ペテン県（低地）	古典期後期(カミナルフユV期)	高10	ポポル・ヴフ博物館
114	動物（犬?）をかたどった土製笛	グァテマラ高地	古典期後期(カミナルフユV期)	高7.8	ポポル・ヴフ博物館
115	多彩文片面土製太鼓	ペテン県（低地）	古典期後期(カミナルフユV期)	高52.2 口径23	グァテマラ国立考古学民族学博物館
116	片面土製太鼓	出土地不明	古典期後期(カミナルフユV期)	高17 口径9.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
117	双胴型片面土製太鼓	アルタル・デ・サクリフィシオ遺跡	古典期後期(カミナルフユV期)	高18.8 最大幅9	グァテマラ国立考古学民族学博物館
118	白色地赤彩文マサパ系土器	エスクイントラ県サンタ・ルシア・コツマルワパ地域	後古典期（カミナルフユVI期）	高12.8 口径22	グァテマラ国立考古学民族学博物館
119	白彩文壺形土器	出土地不明	後古典期（カミナルフユVI期）	高25.3	グァテマラ国立考古学民族学博物館
120	化粧しっくいが施された柄付土製香炉	グァテマラ高地	後古典期（カミナルフユVI期）	高4.6 長さ21.7	ポポル・ヴフ博物館
121	コヨーテをかたどったうわぐすりのかかった土器	出土地不明	後古典期（カミナルフユVI期）	高18 口径9.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
122	鳥をかたどったうわぐすりのかかった土器	フティアパ県アスンシオン・ミタ	後古典期（カミナルフユVI期）	高15.5 最大幅7.6	グァテマラ国立考古学民族学博物館
123	トラロック神を表現したうわぐすりのかかった土器	ラ・ラグニタ遺跡	後古典期（カミナルフユVI期）	高14.5 口径7.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
124	人物をかたどったうわぐすりのかかった土器	グァテマラ高地	後古典期（カミナルフユVI期）	高17.4 最大幅16.1	ポポル・ヴフ博物館
125	老神をかたどったうわぐすりのかかった土器	出土地不明	後古典期（カミナルフユVI期）	高15.5 最大幅10.5	グァテマラ国立考古学民族学博物館
126	老人をかたどったうわぐすりのかかった土器	グァテマラ高地	後古典期（カミナルフユVI期）	高8.8 最大幅7.5	ポポル・ヴフ博物館
127	人頭をかたどった土製オカリナ	出土地不明	後古典期（カミナルフユVI期）	高16	グァテマラ国立考古学民族学博物館
128	カカオを身につけた女性土偶	太平洋岸斜面	後古典期（カミナルフユVI期）	高29.1 幅16.1	ポポル・ヴフ博物館



「人面形象三脚土器」



「着飾った人・動物形象土偶（笛）」

プラハ国立美術館所蔵浮世絵展　歌麿、写楽、北斎、広重……

会期＝平成8年7月20日(土)―8月18日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

後援＝文化庁、チェコ文化省、チェコ共和国大使館

関連事業

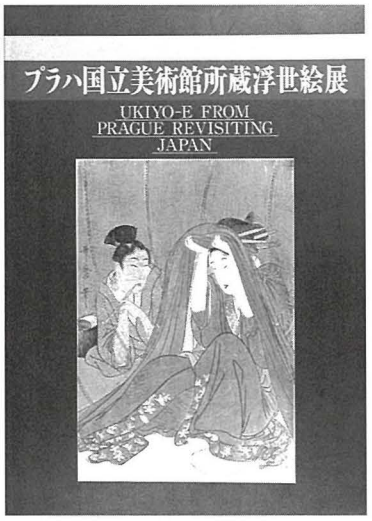
美術講演会
「浮世絵 ― その系譜と展開」
講師＝伊藤めぐみ氏（(仮称) 墨田区北斎館開設準備担当学芸員）
日時＝8月3日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

特別展セミナー
「浮世絵版画の黄金時代」
講師＝寺嶋弘道（当館学芸課長）
日時＝7月27日(土)、8月10日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

土曜映写室
「浮世絵の系譜と西洋への影響」
「プルシャンブルー ～世界を巡った謎の青」
日時＝7月20日(土)、8月17日(日)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



ポスター



図録

1796年に開館したプラハ国立美術館はヨーロッパで最も古い美術館のひとつである。その豊富な収蔵作品には12,000点にのぼる東洋美術コレクションが含まれ、そのうち3,000点が浮世絵作品。このたびの展覧会は、同館の開館200年を記念し、これまでまとまって紹介される機会のなかったその所蔵品の中から178点を精選して構成された初の浮世絵展である。

戦国の世から脱した江戸時代、武家にかわって台頭してきた庶民の間で最も親しまれた芸術が浮世絵である。美人、役者、名所風景など江戸庶民の嗜好が反映された浮世絵には、当時の社会風俗や人々の美意識を知る重要な手がかりが秘められている。本展では初期浮世絵版画から錦絵の黄金時代を経て末期に至る浮世絵の多様な展開が、歌麿、写楽、北斎、広重など51人の絵師たちの優品稀品により紹介された。

東欧諸国の浮世絵コレクションは、近年の調査によってようやくその実態が明らかにされつつある。公開が待望されていたプラハ国立美術館の所蔵作品を世界にさきがけて展覧した本展は、帯広美術館としても初めての総合的な浮世絵展となり、総数5,247人の観覧を得て好評のうちに終了した。



会場風景

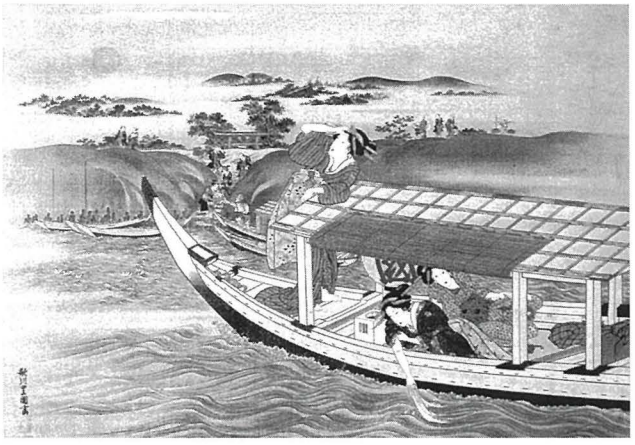


会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	版型
1	歌川豊春	見立反魂香	紙本1幅（101.8×27.7cm）
2	2代歌川豊国	隅田川遊船図	絹本1幅（43.1×62.4cm）
3	紫岳亭北洲	夜着の花魁	紙本1幅（112.0×28.0cm）
4	伝葛飾北斎	下絵集	20面
5	鳥居派	京下り津川かもんの宗清女房白妙	細判
6	2代鳥居清倍	初代袖崎いせのの喜瀬川	細判
7	2代鳥居清倍	2代藤村半十郎の源頼親と佐野川万菊のめのと惟成	細判
8	2代鳥居清倍	4代市村竹之丞の鳥帽子屋大太郎と初代姉川千代三の梶原女房辰姫	細判
9	2代鳥居清倍	初代澤村宗十郎の熊谷弥惣左衛門	細判
10	2代鳥居清倍	近江八景　六　石山秋月	細判
11	2代鳥居清倍	2代市川海老蔵のなるかみと初代中村助五郎の久米平内	細判
12	2代鳥居清信	2代澤村宗十郎のゆげ大助はる行と2代坂田半五郎の赤星太郎武者	細判
13	鳥居清重	2代澤村音右衛門の土佐坊	細判
14	鳥居清満	2代吾妻藤蔵のとら	細判
15	鳥居清満	2代瀬川菊之丞のあしがら山山うば	細判
16	鳥居清満	初代坂東三津五郎　本名くすのきまさのり	細判
17	鳥居清廣	初代中村富十郎	細判
18	無款（奥村政信）	かほる（『娼妓画牒』より）	27.5×19.0cm
19	奥村利信	初代瀬川菊之丞のおなつと初代澤村宗十郎の清十郎	細判
20	奥村利信	初代嵐和哥野の花売娘	細判
21	奥村利信	三幅対　中　吉原雪	細判3枚組のうち
22	西村重長	竹林の雀	細判
23	西村重長	布袋と唐子	細判
24	鈴木春信	2代坂東彦三郎のかさうり半七	細判
25	鈴木春信	七福神宝船図	大々判
26	鈴木春信	見立武蔵野	中判
27	鈴木春信	めだかすくい	中判
28	鈴木春信	紅葉狩	中判
29	鈴木春信	風流七小町やつし　しみづ	柱絵
30	鈴木春信	風俗六玉川　井手の玉川	柱絵
31	司馬江漢	御茶水景	27.0×39.0cm
32	益信	大黒と美人	柱絵
33	磯田湖龍斎	三の都里乃色　京	中判
34	磯田湖龍斎	風流七小町　卒都婆	中判
35	磯田湖龍斎	雛形若菜の初模様　大かなや内なをえ	大判
36	磯田湖龍斎	七福神宝船図	柱絵

No.	作家名	作品名	版型
37	磯田湖龍斎	木曽義仲と巴御前	柱絵
38	磯田湖龍斎	初夢	柱絵
39	磯田湖龍斎	家田屋此春	柱絵
40	磯田湖龍斎	四ツ目屋内かほる	柱絵
41	磯田湖龍斎	鷹狩り図	柱絵
42	磯田湖龍斎	忠臣蔵七段目	柱絵
43	鳥居清長	四季八景　晩冬暮雪	中判
44	鳥居清長	松葉屋内哥姫	大判3枚続のうち
45	鳥居清長	江ノ島潮干狩り	柱絵
46	鳥居清長	見立忠臣蔵七段目	柱絵
47	喜多川歌麿	青楼十二時続　巳ノ刻	大判
48	喜多川歌麿	難波屋きたと高しまひさの腕相撲	間判
49	喜多川歌麿	蚊帳の男女	大判
50	喜多川歌麿	音曲比翼の番組　小波　力弥	間判
51	喜多川歌麿	当世子供六哥仙　僧正遍照	大判
52	喜多川歌麿	二見ケ浦	大判3枚続
53	喜多川歌麿	牛車の美人	大判3枚続
54	喜多川歌麿	青楼美人名花合セ　大文字屋内　一もと	大判
55	喜多川歌麿	鶴図	16.5×37.7cm
56	2代喜多川歌麿	東都不忍弁財天巳待之図	大判
57	鳥文斎栄之	角町　松葉は　粧ひ	大判
58	鳥文斎栄之	風流三幅対　小野小町	大判
59	鳥文斎栄之	藤棚下由良之助遊興図	大判3枚続のうち
60	鳥文斎栄之	高嶌おひさ	柱絵
61	鳥高斎栄昌	見立忠臣蔵七段目	柱絵
62	栄松斎長喜	青楼仁和嘉全盛遊　草花売	小判
63	北尾政美	屋島の合戦	間判2枚続
64	勝川春章	初代中村仲蔵の白拍子誠ハ相夫官	細判
65	勝川春章	4代岩井半四郎の扇折ぎおんのお梶妹おつぎ	細判
66	勝川春章	5代市川団十郎の三浦荒次郎義澄と初代中村仲蔵の平少納言時忠	大判
67	勝川春好	楽屋の澤村宗十郎	細判
68	勝川春英	3代瀬川菊之丞の米屋丁稚長吉	細判
69	勝川春潮	2代小佐川常世の月小夜	細判
70	東洲斎写楽	3代瀬川菊之丞の田辺文蔵妻おしづ	大判
71	東洲斎写楽	2代瀬川富三郎の傾城遠山と市川栗蔵の東山義若丸	細判
72	窪俊満	浅草側つれつれ艸	21.0×18.6cm
73	歌川豊国	弓を引く男女	大判
74	歌川豊国	千鳥の玉河	中判
75	歌川豊国	調布の玉川	中判
76	歌川豊国	3代市川高麗蔵の武智光秀と初代坂東みの助の森らん丸	大判2枚続
77	歌川豊国	市川白猿他　役者雨宿り	大判3枚続
78	歌川豊国	3代澤村宗十郎の稲野谷三左衛門	大判
79	歌川豊国	5代岩井半四郎の五平次妹おみつ	大判
80	歌川豊国	4代瀬川路考の恋のやつこの小まん	大判
81	歌川豊国	初代尾上松助の白拍子花子実ハ班女の霊魂	大判
82	歌川豊国	3代中村歌右衛門	大判



2代歌川豊国「墨田川遊船図」



喜多川歌麿「蚊帳の男女」

No.	作家名	作品名	版型
83	歌川豊広	豊国豊広両画十二候　六月	大判3枚続
84	歌川国政	散策中の岩井粂三郎と芸妓	大判
85	歌川国丸	い勢古市　牛車楼　画	大判
86	葛飾北斎	楠多門丸正重と八尾の別当常久	大判
87	葛飾北斎	福助と美人	14.0×18.2cm
88	葛飾北斎	五歌仙　月	20.9×18.6cm
89	葛飾北斎	五歌仙　梅	21.3×18.8cm
90	葛飾北斎	馬尽　相馬焼	20.6×18.8cm
91	柳々居辰斎	琴曲之内	13.2×18.0cm
92	柳々居辰斎	扇谷六番之内　地紙折り	14.3×19.1cm
93	柳々居辰斎	五色之内　赤前垂	21.3×18.9cm
94	岳亭春信	芸妓と猫	21.2×18.9cm
95	昇亭北寿	東都両国之風景	大判
96	菊川英山	源氏八景　朝顔暮雪　鶴屋内大淀	大判
97	菊川英山	夏風俗美人姿　鏡	大判
98	菊川英山	扇屋内瀧橋　梯立　花染　田みの　花人	大判5枚続
99	溪斎英泉	五節句幼遊　やよゐ	大判
100	溪斎英泉	初雪	大判
101	溪斎英泉	時世美女競　抱けいしゃ	大判
102	溪斎英泉	東都愛宕山之景	大判
103	溪斎英泉	江戸上野寛永寺之花盛	大判
104	勝川春扇	反物を持つ娘	大判
105	勝川春扇	身づくろいをする芸者	掛物絵
106	勝川春亭	近江八景　堅田落雁	中判
107	2代歌川豊国	2代坂東簑助の屋し尾	団扇絵
108	2代歌川豊国	真乳山渡しの景	大判3枚続
109	歌川国貞	3代市川団之助の団扇うり　おさわ	大判
110	歌川国貞	さかい町中村座楽屋之図	大判3枚
111	歌川国貞	2代澤村田之助の梅の由兵衛	大判
112	歌川国貞	3代中村歌右衛門の雨乞小町	大判
113	歌川国貞	2代岩井粂三郎の玉本小三	団扇絵
114	歌川国貞	5代瀬川菊之丞の権太・お里二役早かわり	団扇絵
115	歌川国貞	大当狂言尽　2代中村芝翫・5代瀬川菊之丞・7代市川団十郎	大判3枚続
116	歌川国貞	中万字や内八ッ橋	大判
117	歌川国貞	松葉屋内粧ひ	大判
118	歌川国貞	扇屋内花扇	大判
119	歌川国貞	5代瀬川菊之丞の吉田松若丸	団扇絵
120	歌川国貞	7代市川団十郎の局岩藤	団扇絵
121	歌川国貞	2代市川海老蔵の由良ノ助ヲ伊豆屋の二郎と6代岩井半四郎の斧九太夫ヲ仲町かづさの悪七	大判竪2枚続
122	3代歌川豊国（国貞）	相撲人形花の取組	大判
123	3代歌川豊国（国貞）	相撲人形花の取組	大判
124	3代歌川豊国（国貞）	相撲人形花の取組	大判
125	3代歌川豊国（国貞）	相撲人形花の取組	大判
126	3代歌川豊国（国貞）	夜の桜姿の花競	大判3枚続
127	3代歌川豊国（国貞）	春色花の魁	大判3枚続
128	3代歌川豊国（国貞）	当辰顔与勢	大判3枚続
129	3代歌川豊国（国貞）	東海道　原	大判
130	無款	初代市川八百蔵の村上彦四郎義照	大判
131	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　黒施風李逵一名李鉄牛	大判
132	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　鬼瞼児杜興	大判
133	歌川国芳	2代中村芝翫の鬼ヶ嶽	大判
134	歌川国芳	当せ三福対　7代岩井半四郎のお千代	大判
135	歌川国芳	御慰子供助六狂言之図	3枚続
136	歌川国芳	文覚上人（校合摺）	大判
137	歌川国芳	猫の百面相	団扇絵
138	歌川広重	東都八景　衣紋坂渡雁	中判



2代歌川豊国「真乳山渡しの景」



3代歌川豊国（国貞）「夜の桜姿の花競」

No.	作家名	作品名	版型
139	歌川広重	東海道五拾三次之内　掛川	大判
140	歌川広重	東海道五拾三次之内　浜松	大判
141	歌川広重	東海道五拾三次之内　舞坂	大判
142	歌川広重	東海道五拾三次之内　庄野	大判
143	歌川広重	東海道五拾三次之内　亀山	大判
144	歌川広重	東海道五拾三次大尾　京師	大判
145	歌川広重	江都名所　両国橋納涼	大判
146	歌川広重	近江八景　比良暮雪	中判
147	歌川広重	近江八景　粟津晴嵐	中判
148	歌川広重	近江八景　矢橋帰帆	中判
149	歌川広重	近江八景　三井晩鐘	中判
150	歌川広重	近江八景　堅田落雁	中判
151	歌川広重	近江八景　瀬田夕照	中判
152	歌川広重	近江八景　石山秋月	中判
153	歌川広重	江戸むらさき名所源氏　見立あかし　高輪の月	大判
154	歌川広重	江戸むらさき名所源氏　見立梅かえ　亀戸梅屋舗	大判
155	歌川広重	江戸むらさき名所源氏　見立浮ふね　隅田川の渡	大判
156	歌川広重	江戸名所五性　両国の花火	大判
157	歌川広重	六十余州名所図会　大和	大判
158	歌川広重	五十三次名所図会　十四　原	大判
159	歌川広重	五十三次名所図会　十八　蒲原	大判
160	歌川広重	名所江戸百景　虎の門外あふひ坂	大判
161	2代歌川広重	建久六年源頼朝卿上京之図	大判3枚続
162	玉蘭斎貞秀	東都花くらべ　上野	大判
163	玉蘭斎貞秀	東都花くらべ　御殿山	大判
164	玉蘭斎貞秀	東都花くらべ　隅田川	大判
165	玉蘭斎貞秀	東海道勝景　従白須賀京都迄一覧	大判3枚続
166	河鍋暁斎	狂歌合	大判
167	無款	絵本太閤記（合羽摺）	細判
168	有楽斎長秀	妻鹿孫三郎長宗（合羽摺）	細判
169	無款	すたすた坊主・中村歌右衛門	大判
170	春好斎北洲	団扇当世競　七九郎兵衛・中村歌右衛門	大判
171	春江斎北英	団七九郎兵衛・嵐璃寛	大判
172	春江斎北英	里見八犬子内一個犬坂毛野胤智と犬田小文吾安悌	大判2枚続
173	春江斎北英	里見八犬子内一個犬川荘助義任と犬山道節忠興	大判2枚続
174	春梅斎北英	朝比奈藤兵衛　嵐璃寛	大判
175	春梅斎北英	奴の小まん　嵐璃寛	大判
176	丸丈斎国広	雁金五人女	大判3枚続
177	一養亭芳瀧	東海道四ッ谷怪談	中判3枚続
178	一養亭芳瀧	本朝二十四孝	中判3枚続

＊　作品はすべてプラハ国立美術館蔵
＊　出品作品のうちNo.5、20、25、52、62、78、83、110は前期のみ展示（7月20日～8月4日）
　　No.10、13、28、53、63、71、77、115は後期のみ展示（8月6日～8月18日）



歌川広重「江戸むらさき名所源氏　見立あかし　高輪の月」

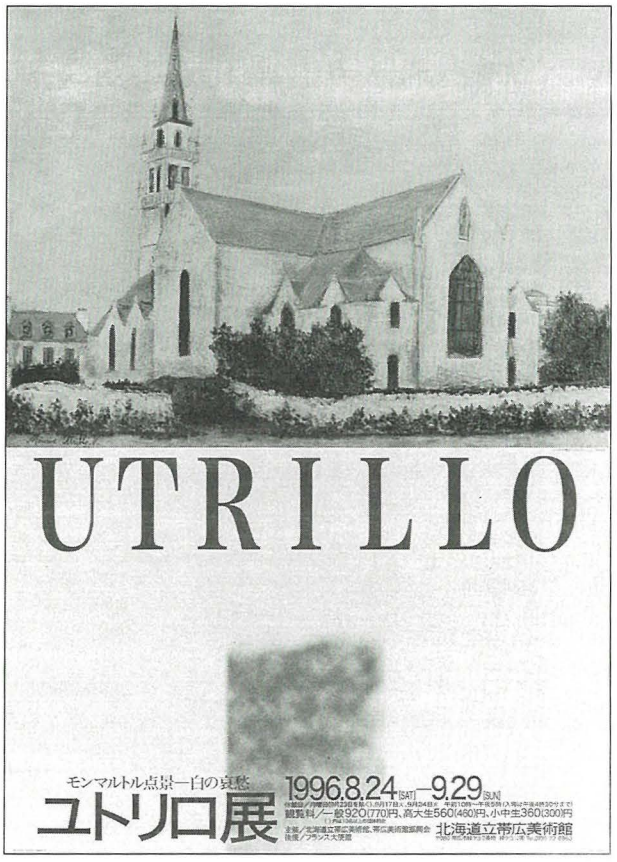


春梅斎北英「奴の小まん　嵐璃寛」

モンマルトル点景 — 白の哀愁　ユトリロ展

会期＝平成8年8月24日(土) — 9月29日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

後援＝フランス大使館

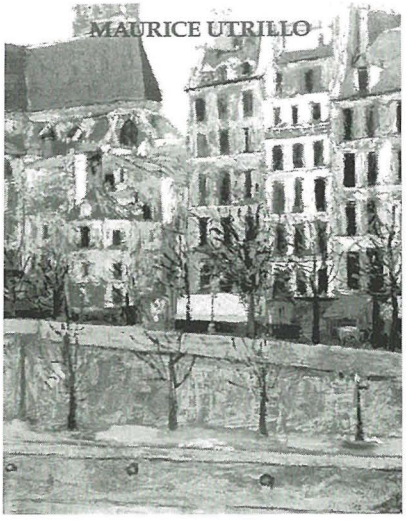


ポスター

関連事業

美術講演会
「ユトリロ—人と芸術」
講師＝大森達次氏（女子美術大学教授）
日時＝8月24日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

特別展セミナー
「ユトリロの絵画世界」
講師＝平　利弘（当館学芸員）
日時＝8月31日(土)、9月28日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



図録

モーリス・ユトリロは、ルノワールやロートレックなど多くの画家たちのモデルをつとめ、自身も女流画家として活躍したシュザンヌ・ヴァラドンの息子として、1883年パリに生まれた。アルコール中毒への対症療法として母の手ほどきで絵を描き始めた彼は、1955年南フランスのダックス滞在中に71歳で亡くなるまで、終生パリの風景を描き続け、白を基調とした哀愁漂う作風によって今なお世界中の人々に親しまれている。

本展は、モーリス・ユトリロ協会の会長であり、遺産継承者でもあるジャン・ファブリス氏の監修により、フランスの個人コレクションを中心として、初期から晩年に至る生涯の画業を紹介するものとなった。パリの街並みを繊細にして重厚な筆触で詩情豊かに描き出したユトリロの作品は、多くの人々の関心を呼び、9,339人の観覧者があった。



会場風景

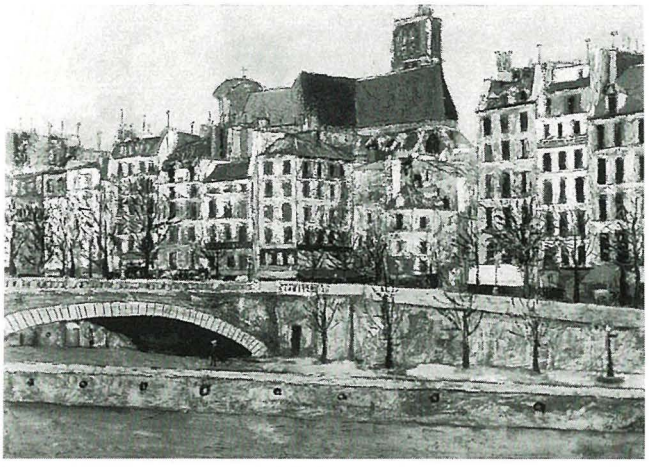


会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	モンマニーの風景	1908頃	油彩、厚紙	35×38	個人
2	キュスティーヌ通り	1909頃	油彩、キャンバス	54×60	ギャラリー・ペトリデス
3	ヴィリエ＝ル＝ベルの教会	1909頃	油彩、キャンバス	60×73	ギャラリー・ペトリデス
4	ラパン・アジル	1910頃	鉛筆、紙	16.5×22.5	個人
5	パリのサン＝ジェルヴェ教会	1910頃	油彩、板に貼られた厚紙	54×73	ギャラリー・ペトリデス
6	ピガール広場	1910頃	油彩、キャンバス	69×87	ギャラリー・フェリックス
7	モンマルトルのコルトー通り	1912	油彩、キャンバス	81×65	個人
8	ベル・ガブリエル酒場	1912	油彩、板に貼られた厚紙	69×51	個人
9	コミュニオン（聖体拝領）の少女	1912頃	油彩、板に貼られた厚紙	52×69	ギャラリー・ペトリデス
10	サンノワ通り	1912-13頃	油彩、キャンバス	60×81	個人
11	村の教会	1912	油彩、キャンバス	61.5×82	個人
12	コンケの教会（ブルターニュ）	1913	油彩、キャンバス	60×81	ギャラリー・ペトリデス
13	ベルリオーズの家	1914	油彩、板	76×106	個人
14	モンマルトル、ミミ＝パンソンの家	1915	油彩、厚紙	53×64	ユトリロ美術館
15	ショーコナンの火災にあった農家、モー付近	1916頃	油彩、板	55×77	個人
16	教会と村の墓地	1917	油彩、板に貼られた厚紙	37.08×41.04	個人
17	ショーコナンの小聖堂	1917	油彩、板に貼られたキャンバス	48×74	個人
18	クレテイルのパリ通り	1917頃	油彩、厚紙	52×68.5	個人
19	ヴァンセンヌ、マリニーの並木道	1918	油彩、厚紙	36.5×51	個人
20	モンマルトルの風車	1919	油彩、板に貼られた厚紙	31×33	個人
21	ムーラン・ド・ラ・ギャレット	1919頃	油彩、厚紙	40×51	個人
22	クリメ通り	1920	グァッシュ、紙	21×31	個人

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
23	教会	1920頃	油彩、キャンバスに貼られた厚紙	69.05×55	個人
24	ボーリュー＝シュル＝メールの教会	1922	油彩、キャンバス	54×65	個人
25	花束と詩	1928	油彩、グァッシュ、紙	64×48	個人
26	ノートル＝ダム・ド・パリ	1929	油彩、キャンバス	101×81	ギャラリー・ペトリデス
27	モンマニーの風景	1930	油彩、キャンバス	34×50	ギャラリー・ペトリデス
28	教会	1930頃	油彩、キャンバス	61×46	個人
29	雪のラパン・アジル	1931	油彩、キャンバス	65×100	ギャラリー・ペトリデス
30	モンマルトルのノルヴァン通り	1931	油彩、キャンバス	125×175	ギャラリー・ペトリデス
31	サン＝ベルナールの城	1932	油彩、キャンバス	61×51	個人
32	森の城館	1932	油彩、キャンバス	81×100	ギャラリー・ペトリデス
33	パリの城塞	1933	油彩、キャンバス	81×100	ギャラリー・ペトリデス
34	パルミール通りの十字路	1933	油彩、キャンバス	98×146	ギャラリー・ペトリデス
35	モンルージュのサレット通り	1933頃	油彩、キャンバス	65×100	ギャラリー・ペトリデス
36	ノートル＝ダム・ド・ロワイヤン	1933	油彩、キャンバス	100×81	ギャラリー・ペトリデス
37	ポワソニエ通り	1933	油彩、キャンバス	65×81	ギャラリー・ペトリデス
38	ヴォー＝シュル＝メールのロマネスク教会	1936	油彩、キャンバス	65×81	個人
39	花束	1936	油彩、キャンバス	45.5×38	個人
40	パフォス（キプロス島）の教会	1937	油彩、キャンバス	46×55	ギャラリー・ペトリデス
41	ノートル＝ダム・ド・パリとセーヌ河	1937	油彩、キャンバス	65×81	ギャラリー・ペトリデス
42	ポワシー通り	1939頃	油彩、キャンバス	46×55	個人
43	クリスマスの花	1940	油彩、板	24×16.2	個人
44	コルシカ島の風景	1940頃	油彩、キャンバス	74×95	ユトリロ美術館
45	雪のモン＝スニ通り	1940頃	油彩、キャンバス	46×61	個人
46	サクレ＝クール寺院とムーラン・ド・ラ・ギャレット	1945頃	油彩、厚紙	6×9.5	個人
47	“モンマルトル” ヴァンサン・オリオールに	1950	油彩、キャンバス	16×22	個人
48	雪のモン＝スニ通り	1950頃	油彩、キャンバス	46×55	個人
49	モンマルトル,ミミ＝パンソンの家	1950頃	油彩、キャンバス	46.5×55	個人
50	冬のモン＝スニ通り	1950頃	油彩、キャンバス	46×55	個人
51	サクレ＝クールのカトリック聖心会館	1950頃	油彩、キャンバス	46×55	個人
52	冬のモンマルトル	1950頃	油彩、キャンバス	46×55	個人
53-62	版画集『モーリス・ユトリロの伝説と人生』	1927	石版、紙	各31.8×23.8（10点組）	個人
	53　アンリ4世の田舎家				
	54　ヴィルジュイフの精神病院の中庭				
	55　郊外の通り				
	56　居酒屋ラパン・アジル				
	57　ベルリオーズの家				
	58　サン＝ヴァンサン通り				
	59　サンノワの風車				
	60　イーゼルの前に立つ画家				
	61　水飲み場の通り				



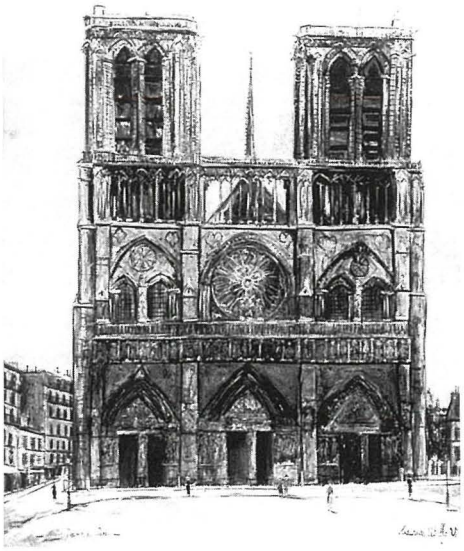
「パリのサン＝ジェルヴェ教会」



「コミュニオン（聖体拝領）の少女」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
	62　ムーラン・ド・ラ・ギャレット				
63-72	版画集『首都パリ』	1955	石版、紙	各40×32（10点組）	個人
	63　ムーラン・ド・ラ・ギャレット				
	64　サン＝ピエール広場				
	65　シャン＝ゼリゼ通り				
	66　エッフェル塔				
	67　ロワイヤル通り				
	68　ルーヴル美術館				
	69　サン＝ジャック塔				
	70　ノートル＝ダム寺院にて				
	71　サン＝ジェルマン＝デ＝プレ教会				
	72　ポン＝ヌフ				
73-83	版画集『モーリス・ユトリロV』	1956	石版、紙	各32×41（11点組）	個人
	73　モーリス・ユトリロV-1				
	74　モーリス・ユトリロV-2				
	75　モーリス・ユトリロV-3				
	76　モーリス・ユトリロV-4				
	77　モーリス・ユトリロV-5				
	78　モーリス・ユトリロV-6				
	79　モーリス・ユトリロV-7				
	80　モーリス・ユトリロV-8（未完）				
	81　モーリス・ユトリロV-9				
	82　モーリス・ユトリロV-10				
	83　モーリス・ユトリロV-11				
84-95	版画集『霊感の村』	1950	石版、紙	各38×28（12点組）	個人
	84　ラパン・アジル				
	85　ムーラン・ド・ラ・ギャレット				
	86　バスティーユの洗濯屋				
	87　村の町かど				
	88　古びた中学校				
	89　モンマルトルの小路				
	90　モンマルトル,〈モチーフ〉				
	91　古きサン＝ヴァンサン通り				
	92　サン＝ピエール教会				
	93　サン＝ベルナールの城				
	94　サン＝リュスティック通り				
	95　ル〈ラパン〉				

＊　寸法は縦×横。



「ノートル＝ダム・ド・パリ」



「モンマルトルのノルヴァン通り」

日本の美〈雅〉と〈彩〉　富士美術館名品展

会期＝平成8年10月8日(火)―11月17日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、富士美術館、帯広市、十勝毎日新聞社、富士美術館名品展実行委員会

後援＝十勝町村会、帯広市教育委員会、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中校長会、帯広市小中学校長会連合会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広青年会議所、帯広市町内会連絡協議会、帯広市婦人団体連絡協議会、帯広市老人クラブ連合会、帯広市民劇場運営協議会、帯広市文化スポーツ振興財団、日専連帯広会、帯広デザイナーズ協会、とかちカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA
協賛＝NCおびひろ、NTT帯広支店、帯広日産自動車株式会社、東洋印刷株式会社



ポスター

関連事業

美術講演会
「日本美の世界 ― 歴史と伝統」
講師＝白根敏昭氏（富士美術館学芸課長）
日時＝10月19日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

特別展セミナー
「琳派 ― 日本の装飾美」
講師＝鎌田　享（当館学芸員）
日時＝10月26日(土)、11月9日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

土曜映写室
「水墨画・庭園・城・障壁画」「南蛮美術」「江戸時代の絵画」
日時＝10月12日(土)、11月2日(土)、11月16日(土)
午後2時～3時
会場＝当館講堂

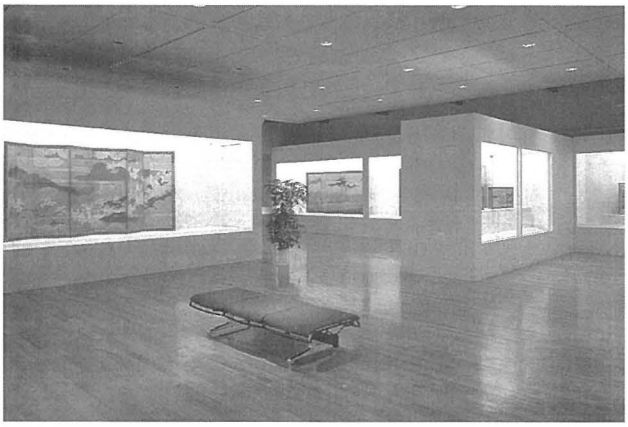
明治の洋風楽器「紙腔琴」の調べ
解説・復元演奏＝白根敏昭氏（富士美術館学芸課長）
日時＝10月20日(日)　午前11時～、午後1時～、午後3時～
会場＝当館講堂


図録

静岡県富士宮市にある富士美術館は、1973（昭和48）年の開館以来、日本美術、東洋美術のすぐれた作品の収集によって知られている。この展覧会では同館のコレクションの中から近世、近代の日本美術の名品を選りすぐり、〈雅〉と〈彩〉をテーマに豊かな装飾性と季節感の表現に着目しつつわが国の伝統的な美の世界を紹介した。

本展には、鎌倉時代から江戸時代にかけての書蹟、桃山時代から明治期にいたる絵画、江戸時代の陶磁器や漆芸品など、重要文化財、重要美術品を含む計75点が出品された。なかでも総金箔貼りの地に濃彩で四季の草花を描き出した豪奢な金碧障屏画や蒔絵技法を駆使して流麗な装飾文様を施した漆芸品、あるいは華やかな色彩と図案を備えた色絵磁器などは本展の中心をなし、日本人独自の美意識とそこから生み出された優美な世界を象徴するものであった。

会期中は、出品作品の一つ「紙腔琴」の復元演奏をはじめ、美術講演会、特別展セミナーなど多彩な事業を併せて実施。日頃目にする機会の少ない日本近世の美術の展覧会ということから来館者の関心も高く、19,536名の入館者があった。



会場風景



会場風景

出品目録

絵　画

No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
1	源氏物語図(桐壺・夕霧)		桃山時代	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦156.0横356.0
2	白菊図	長谷川派	桃山時代	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦161.0横350.0
3	○猛虎図	狩野尚信	江戸時代前期	紙本墨画　掛幅装　1幅	縦140.0横232.5
4	東下り図	狩野益信	江戸時代前期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦123.0横51.3
5	想夫恋図	狩野益信	江戸時代前期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦123.0横51.3
6	草花図下絵和歌	本阿弥光悦書・宗達派下絵	江戸時代前期	紙本金地着色・墨書　額装　1面	縦91.5横51.0
7	春秋草花図	伝俵屋宗達	江戸時代	紙本金地着色　屏風装　2曲1隻	縦157.3横172.0
8	四季草花図	伝俵屋宗雪	江戸時代	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦72.0横217.0
9	武蔵野図		江戸時代	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦140.0横330.0
10	吉野山図		江戸時代	紙本金地着色　屏風装　6曲1隻	縦170.2横379.6
11	農事四季之図	土佐派	江戸時代	紙本着色　屏風装　8曲1双	各縦101.0横396.0
12	鶴図	曾我蕭白	江戸時代中期	紙本墨画淡彩　屏風装　6曲1隻	縦173.8横396.2
13	渓上高隠図	池大雅	江戸時代中期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦128.5横54.5
14	辺渓閑遊図	池玉瀾	江戸時代中期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦128.5横54.5
15	大内絵	住吉廣行	江戸時代後期	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦48.0横142.0
16	源氏物語図	住吉派	江戸時代	紙本着色　押絵貼屏風装　6曲1隻	縦75.8横242.2
17	猛虎図	岸駒	江戸時代後期	紙本墨画　掛幅装　1幅	縦130.0横67.2
18	蘭亭之図	高久靄厓	江戸時代後期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦127.0横148.0
19	花鳥図	高久靄厓	江戸時代後期	紙本着色　掛幅装　1幅	縦127.0横148.0
20	青緑山水図	谷文晁	文政5（1822）	絹本着色　掛幅装　1幅	縦169.5横110.5
21	四季花鳥図	山本梅逸	嘉永3（1850）	絹本着色　掛幅装　1幅	縦148.0横84.0
22	山水図	橋本雅邦	明治31（1898）頃	紙本墨画　屏風装　6曲1双	各縦153.1横348.4

No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
23	三保松原	橋本雅邦	明治35（1902）頃	紙本墨画淡彩　掛幅装　1幅	縦143.5横68.8
24	桜花紅葉山水	橋本雅邦	明治時代	絹本着色　掛幅装　2幅	各縦135.0横55.0
25	山水図	橋本雅邦	明治時代	紙本墨画淡彩　折本装　1冊（24面）	各縦28.5横28.5
26	藤下小禽図	瀧和亭	明治33（1900）	絹本着色　掛幅装　1幅	縦186.4横84.2
27	糸桜に双雉図	渡辺省亭	明治時代	絹本着色　掛幅装　1幅	縦129.0横50.0
28	獅子	竹内栖鳳	明治34（1901）	紙本金地着色　屏風装　6曲1双	各縦169.0横361.2
29	帰漁図	菱田春草	明治34（1901）	絹本着色　掛幅装　1幅	縦114.0横49.0
30	春秋の滝	菱田春草	明治42（1909）	絹本着色　掛幅装　2幅	各縦109.5横40.0
31	春秋	横山大観	明治42（1909）	紙本着色　屏風装　6曲1双	各縦130.0横280.0

書　蹟

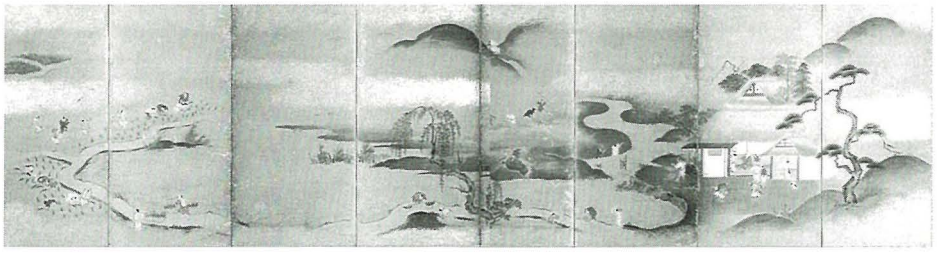
No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
32	◎相模集	藤原定家奥書	嘉禄3（1227）	紙本墨書　冊子装　1帖（82面）	各縦16.4横15.8
33	○宸翰　秋三首［広沢切］	伏見天皇	鎌倉時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦29.0横15.0
34	○宸翰　筑後切	伏見天皇	鎌倉時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦27.1横20.7
35	○宸翰　和歌断簡	後土御門天皇	室町時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦30.2横12.1
36	○宸翰　朗詠断簡	後柏原天皇	室町時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦31.3横46.8
37	○宸翰　詩懐紙	後奈良天皇	室町時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦33.1横51.0
38	○宸翰　詠草	正親町天皇	永禄4（1561）	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦28.8横45.4
39	○宸翰　色紙	後陽成天皇	桃山時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦22.0横18.2
40	○宸翰　古歌色紙	後陽成天皇	桃山時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦21.8横18.2
41	○宸翰　賀礼	後水尾天皇	江戸時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦37.2横104.3
42	○宸翰　懐紙	霊元天皇	江戸時代	紙本墨書　掛幅装　1幅	縦31.0横43.2

漆芸品

No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
43	○鹿秋草蒔絵硯箱		室町時代	木製漆塗　1合	縦36.5横30.0高5.8
44	亀甲桜松蒔絵書机		江戸時代	木製漆塗　1基	縦41.0横108.0高22.0
45	源氏蒔絵提重		江戸時代	木製漆塗　1具	縦20.6横34.7高30.2
46	蒔絵印籠		江戸時代	木製漆塗　10個	
47	牡丹蒔絵煙草盆		江戸時代	木製漆塗　1具	縦14.5横23.5高19.7
48	花菱源氏車蒔絵書机		江戸時代	木製漆塗　1基	縦38.5横94.0高11.8
49	忍蒔絵螺鈿花形菓子器		江戸時代	木製漆塗　1合	縦10.5横10.5　高5.0
50	牡丹蒔絵鞍・鐙		江戸時代	木製漆塗　1具	鞍/前輪高27.5後輪高26.2 居木長36.3 鐙/縦41.5横27.5高36.0
51	松竹梅蒔絵見台		江戸時代	木製漆塗　1基	縦23.0横43.5高60.0
52	布引滝蒔絵文箱		江戸時代	木製漆塗　1合	縦29.0横9.8高7.0
53	秋草蒔絵伽羅箱		江戸時代	木製漆塗　1具	中箱/縦7.3横4.4高2.2 盆/縦9.7横8.1高0.7 外箱/縦10.5横8.8高8.2



伝俵屋宗達「春秋草花図」



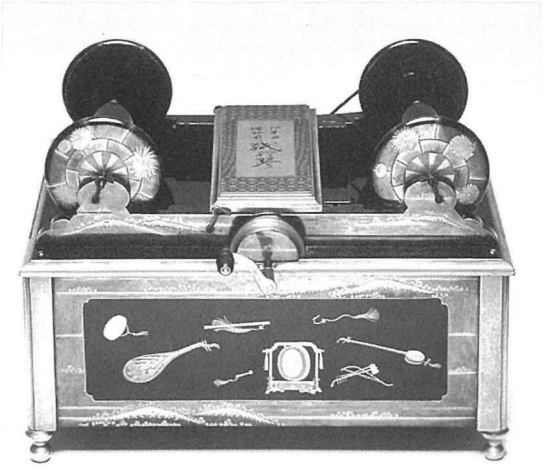
土佐派「農事四季之図」右隻

No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
54	布引滝蒔絵印籠筆筒		江戸時代	木製漆塗　1基	縦23.0横35.0高31.5
55	紙腔琴	赤塚自得	明治23（1890）頃	木製漆塗　1基	縦40.0横39.5高27.5
56	菊蒔絵文台・硯箱		明治33（1900）	木製漆塗　1具	文台/縦37.0横62.0高11.0 硯箱/縦25.0横23.0高5.0
57	柳橋蒔絵文台・硯箱	富田幸七	明治時代	木製漆塗　1具	文台/縦37.0横66.0高12.7 硯箱/縦26.5横24.0高5.5
58	唐獅子牡丹蒔絵料紙文庫・硯箱	富田幸七	明治時代	木製漆塗　1具	文庫/縦44.5横36.0高16.0 硯箱/縦26.5横24.5高5.3
59	雪月花蒔絵二階棚		明治時代	木製漆塗　1具	縦35.0横65.5高38.5

陶磁器

No.	作品名	作者名など	時代	材質・装丁・員数	法量(cm)
60	志野菓子器		江戸時代	1口	径19.0高7.2
61	朝鮮唐津水指	高取・内ケ磯窯	江戸時代	1口	径17.5高22.0
62	鉄絵向付角皿	尾形乾山	江戸時代	5口	各縦11.0横18.0高2.4
63	色絵牡丹青海波文皿	鍋島	江戸時代	5口	各径20高5.3
64	色絵草花文瓢形徳利	伊万里	江戸時代	1口	径17.0高26.8
65	色絵沢瀉文徳利	伊万里	江戸時代	1口	径13.5高25.5
66	色絵草花文徳利	伊万里	江戸時代	1口	径16.0高31.0
67	色絵寿字文鉢	伊万里	江戸時代	1口	径21.8高6.5
68	色絵人物牡丹文大壺	伊万里	江戸時代	1口	径41.5高59.0
69	色絵瓢箪形水注	伊万里　柿右衛門様式	江戸時代	1口	縦16.5横11.5高19.4
70	色絵人鶴文六角壺	伊万里　柿右衛門様式	江戸時代	1合	蓋径11.5身径18.5高30.0
71	色絵草花に鶴徳利	古九谷様式	江戸時代	1口	径14.5高23.6
72	色絵牡丹文鉢	古九谷様式	江戸時代	1口	径34.5高6.8
73	色絵山水鳥文大皿	古九谷様式	江戸時代	1口	径39.0高6.6
74	色絵双魚文大皿	古九谷様式	江戸時代	1口	径35.0高10.0
75	色絵松山水文大皿	古九谷様式	江戸時代	1口	径36.0高6.6

＊　作品名頭初の◎は重要文化財、○は重要美術品を示す。
＊　出品作品のうちNo.2、18は前期のみ展示（10月8日～10月27日）、
No.1、19は後期のみ展示（10月29日～11月17日）。



「紙腔琴」

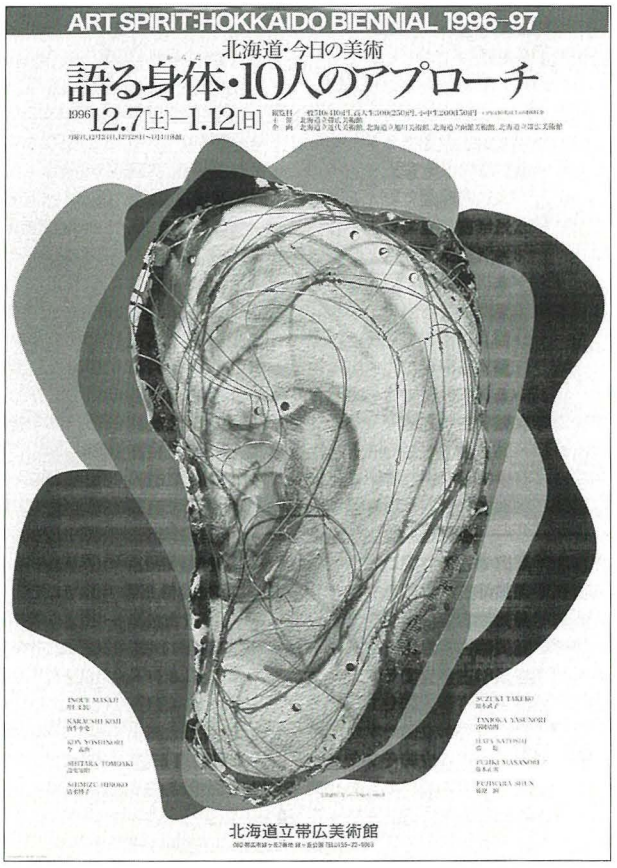


「色絵人物牡丹文大壺」

北海道・今日の美術　語る身体・10人のアプローチ

会期＝平成8年12月7日(土)―平成9年1月12日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

企画＝北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館、北海道立函館美術館、
　　北海道立帯広美術館



ポスター

関連事業

美術講演会
「身体と表現 ― エゴン・シーレを考察しつつ」
講師＝柴橋伴夫氏（美術評論家）
日時＝12月14日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

本展は、今日の北海道の美術状況の一端を紹介する「北海道・今日の美術」展のシリーズ第５回目に当たる。道立美術館４館の共同企画展として企画立案され、それぞれの館で巡回開催された。今回は、〈身体〉をテーマに作品を制作している北海道ゆかりの作家10名による作品40点が展示された。

これら10作家の作品の形式や制作方法はさまざまであるが、身体、あるいは身体性を巡る彼らの問題意識には微妙に重なり合う部分も見出せる。この展覧会ではそうした問題意識のありように基づいて、10作家を以下の３つのグループに分類して紹介した。

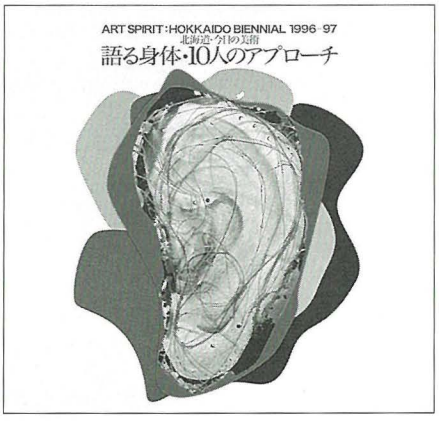
1「身体のイメージ」
　立体の鈴木武子、谷岡靖則、写真を基盤とした端聡、今義典の４人は、身体をモチーフにしながら性やコミュニケーションといった現代的な問題を提示している。

2「身体の痕跡」
　主に絵画的な表現手段を用いる井上まさじ、設楽知昭、清水博子、唐牛幸史の４人は、描いたり彫ったりといった手の軌跡の中に作者自身の身体のありようを浮かび上がらせようとする。

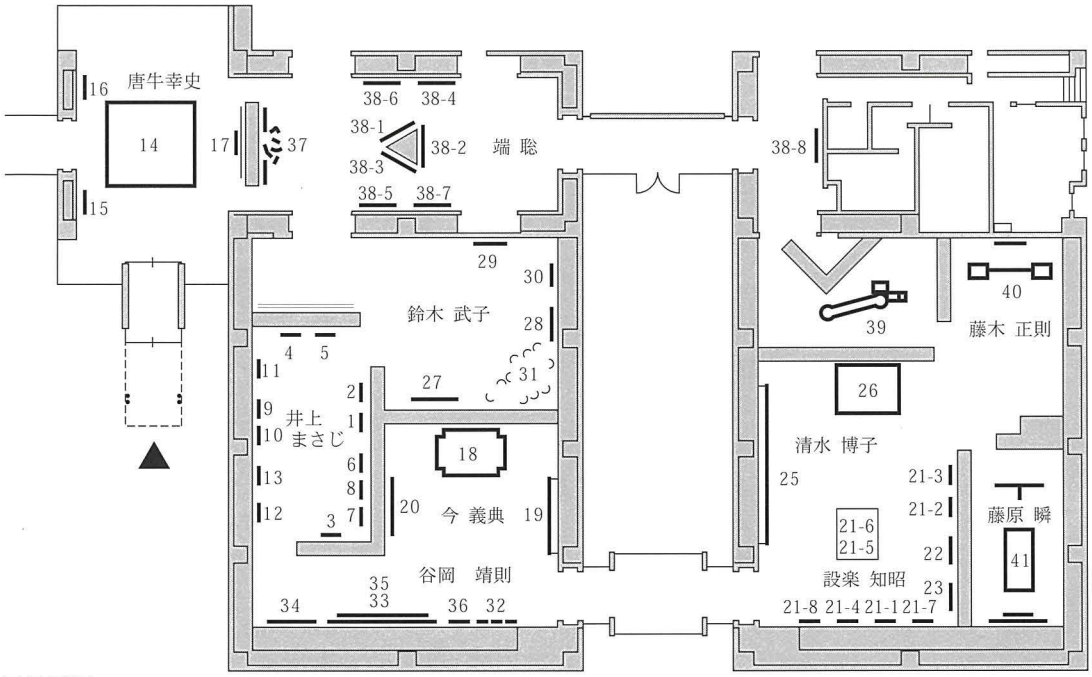
3「生きられる身体」
　藤木正則と藤原瞬の２人は、自らの身体を表現の媒体とするパフォーマンスを主要な表現形式としている。

このように彼らのアプローチは多様ではあるが、いずれにおいても身体を人間という存在の重要なよりどころとして見つめようとする姿勢が認められる。

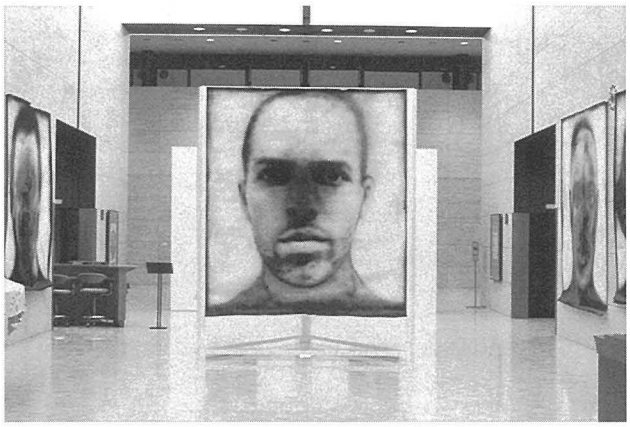
会場では可能な限り個々の作家ごとに展示空間を区切り、彼ら独自の造形世界の提示に努めた。それぞれの作家の多彩な表現には入館者の強い関心が寄せられ、北海道美術の現況をうかがう格好の機会となった。



図録



展示図面



会場風景　端聡作品



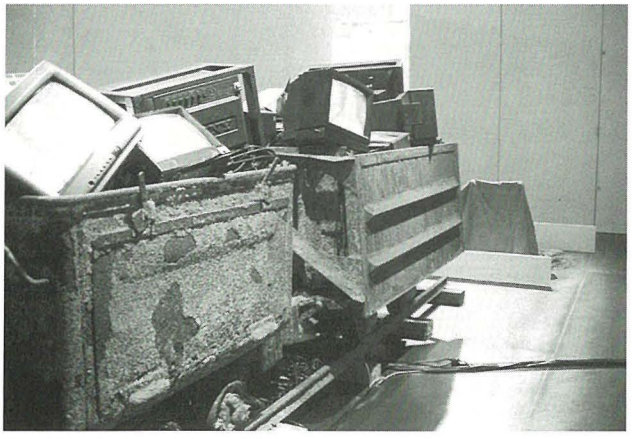
会場風景　右壁は谷岡靖則作品

出品目録

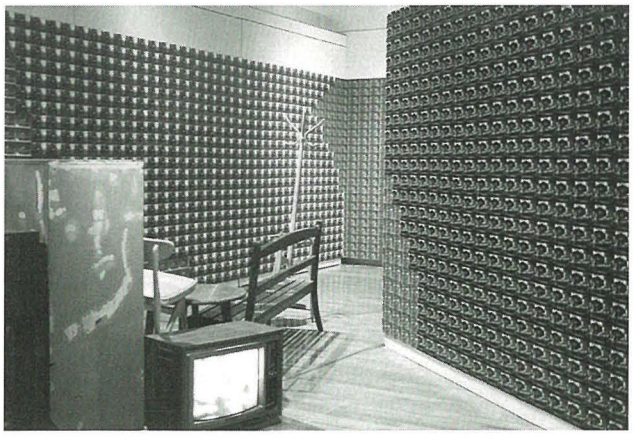
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	井上まさじ	Untitled	1991（平成3）	インク、紙	22.2×92.5	個人
2	井上まさじ	Untitled	1991（平成3）	インク、紙	20.2×92.5	個人
3	井上まさじ	Untitled	1992（平成4）	インク、紙	88.0×46.5	個人
4	井上まさじ	Untitled	1992（平成4）	インク、紙	35.3×20.8	ギャラリーミヤシタ
5	井上まさじ	Untitled	1992（平成4）	インク、紙	35.5×20.8	ギャラリーミヤシタ
6	井上まさじ	Untitled	1995（平成7）	インク、紙	42.5×42.5	ギャラリーミヤシタ
7	井上まさじ	Untitled	1995（平成7）	インク、紙	55.3×55.3	個人
8	井上まさじ	Untitled	1995（平成7）	インク、紙	42.5×42.5	ギャラリーミヤシタ
9	井上まさじ	Untitled	1996（平成8）	アクリリック、板	71.8×36.6	個人
10	井上まさじ	Untitled	1996（平成8）	アクリリック、板	71.9×36.9	個人
11	井上まさじ	Untitled	1996（平成8）	アクリリック、板	71.7×50.2	ギャラリーミヤシタ
12	井上まさじ	Untitled	1996（平成8）	アクリリック、板	101.7×71.5	ギャラリーミヤシタ
13	井上まさじ	Untitled	1996（平成8）	アクリリック、板	98.9×53.8	ギャラリーミヤシタ
14	唐牛　幸史	響心 — echo	1990（平成2）	木、アクリル、ペンキ、顔料、ワックス、胡粉	400.0×384.0×4.0	作者
15	唐牛　幸史	呼吸　冬—夏	1995-96（平成7-8）	水彩、紙	132.3×101.8	作者
16	唐牛　幸史	呼吸　冬—春	1996（平成8）	水彩、紙	132.0×101.8	作者
17	唐牛　幸史	呼吸　冬—夏	1996（平成8）	水彩、紙	131.9×101.8	作者

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
18	今　義典	NATIVE FEAR #3	1993（平成5）	カラープリント、鉄	252.0×376.0×250.0	作者
19	今　義典	A RETURN OF THE MONSTER MEAT	1993（平成5）	カラープリント、鉄	20.0×402.0×242.0	作者
20	今　義典	UNTITLED #1～28k	1993（平成5）	カラープリント	178.0×386.0	作者
21	設楽　知昭	鏡よりモノタイプ	1989（平成元）	モノタイプ、紙	162.5×86.0他	作者
22	設楽　知昭	目の服／View －Suit	1995（平成7）	テンペラ、綿布	161.5×143.0	作者
23	設楽　知昭	目の服／View －Suit	1996（平成8）	テンペラ、綿布	161.5×144.0	作者
24	清水　博子	No.1992 A-14～A-20 BREATH-It was vague sound like a voice from faraway それはまるで声のように聞こえる	1992（平成4）	油彩、板	240.0×840.0（7点組）	作者
25	清水　博子	No.1996 CU-142～CU-171	1996（平成8）	アクリル、ジェッソ、焼き石膏、緑青、銅板	363.6×365.0	作者
26	鈴木　武子	歩む女	1987（昭和62）	ミクストメディア	156.5×90.3×d22.5 181.2×92.2×d38.5 156.3×64.7×d28.0	作者
27	鈴木　武子	WOMAN	1989（平成元）	ミクストメディア	186.5×118.5×d58.0	作者
28	鈴木　武子	WOMAN	1989（平成元）	ミクストメディア	155.5×110.0×d43.0	作者
29	鈴木　武子	WOMAN	1990（平成2）	ミクストメディア	85.5×55.0×d28.5	作者
30	鈴木　武子	ゾロゾロゾロっと	1993（平成5）	ミクストメディア	30.0他	作者
31	谷岡　靖則	耳シリーズNo.1、3、4	1990（平成2）	合板、和紙、樹脂、オイルペイント、ステンレス、真鍮	55.0×32.0×17.0、60.0×38.0×16.0、55.0×40.0×20.0	作者
32	谷岡　靖則	耳の内部鑑賞シリーズ	1994（平成6）	ワックス、ブロンズ、真鍮、大理石	147.0×1156.0×d8.0（展示面積）	作者
33	谷岡　靖則	耳の内部蝸牛管鑑賞シリーズvol.1～24	1996（平成8）	ブロンズ、ステンレス、金箔、顔料	8.5×4.7×d4.3他	作者
34	谷岡　靖則	耳の内部蝸牛管鑑賞シリーズvol.25～40	1996（平成8）	ステンレス、ブロンズ、油、水	10.0×8.3×d8.3他	作者
35	谷岡　靖則	耳の内部蝸牛管鑑賞シリーズvol.45、47～54	1996（平成8）	ワックス、砂糖、鏡	17.0×17.0×d5.2他	作者
36	端　聡	NEW AGE	1991（平成3）	ミクストメディア (乳剤、エナメル、アクリル、ワニス、木)	200.0×500.0×d10.0	作者
37	端　聡	楽観的でありながら常に目覚めている	1996（平成8）	ラッカー、エナメル、合成接着剤、アクリル、シリコン、印画紙	257.0×220.0他（8点組）	作者
38	藤木　正則	TAPE STROKE IN SAPPORO CITY 9210	1992/96（平成4/8）	家具、ビデオ、モニター、絵ハガキによるインスタレーション	約44㎡（展示面積）	作者
39	藤木　正則	CONVERSATION	1995-96（平成7-8）	絵ハガキ、木、小型自動販売機、平面によるインスタレーション	約23㎡（展示面積）	作者
40	藤原　瞬	光苔一我々という実寸	1996（平成8）	ミクストメディア（ビデオ・モニター25台の画像、グランビー、トロッコ、3枚の平面、鉄板) 平面:黒鉛、酸化鉄、金箔、和紙、パネル	46㎡（展示面積） 平面:（各）204.0×144.0	個人

＊　寸法は、立体作品は奥行×幅×高さ、平面（レリーフ）作品は縦×横（×d奥行)。



会場風景　藤原瞬作品

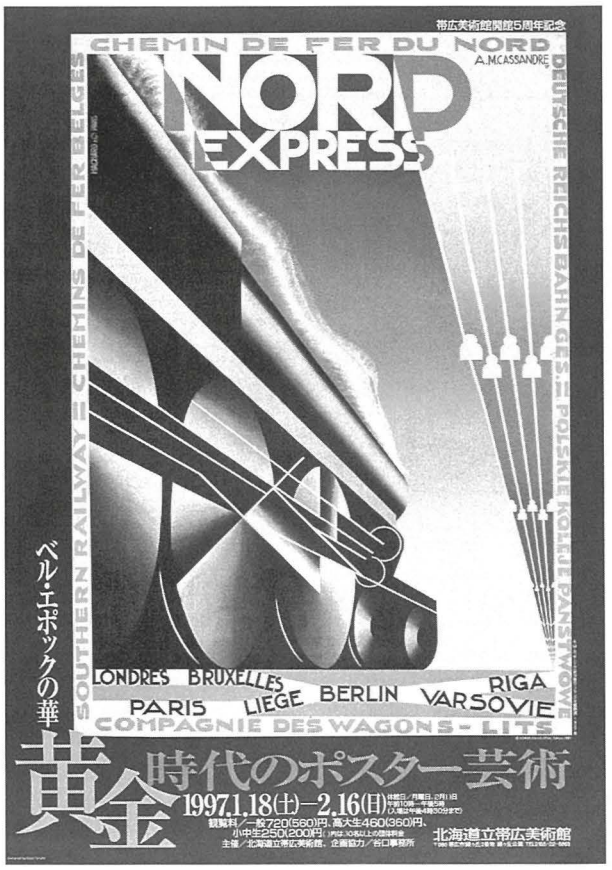


会場風景　藤木正則作品

帯広美術館開館5周年記念　ベル・エポックの華　黄金時代のポスター芸術

会期＝平成9年1月18日(土)―2月16日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

企画協力＝谷口事務所



ポスター

19世紀から20世紀にかけては、近代的な資本主義経済の発展と市民を主役とする大衆社会の確立にともない、商品や観光などの宣伝を目的とする大型のポスターがさかんに制作されるようになった。

とりわけ近代美術の中心地パリでは、フランス社会の経済的繁栄もあってポスター美術が大きく開花した。装飾美術家のみならず、ポスター専門の作家が数多く現れ、優れた芸術性を有するポスターが街頭を華やかに彩った。これらのポスターは、「時代の証言者」としての歴史的価値を有するとともに、その優れた造形的価値が今日改めて見直されている。

平成3年9月に開館した北海道立帯広美術館は、19世紀末から今世紀の前半にいたるカラー・リトグラフによるポスター作品を収集のテーマとし、これまで195点の収集を進め、まとまったコレクションを形成している。

当館の開館5周年記念展として開催された本展では、今日のデザイン分野の源流とも言えるこの時期の73作家100点のポスター作品を所蔵品の中から精選し展示した。20世紀のデザイン分野の礎ともなったこれらの作品に対する関心は根強いものがあり、冬季にもかかわらず、1,986人の観覧者を集めた。また、本展は当館に引き続き全国8会場を巡回することとなり、版画の概念にとらわれない「プリント・アート」の収集を続ける当館の活動の一端を紹介する好機となった。



図録

「黄金時代のポスター芸術」展巡回日程

ナビオ美術館
　1997年３月20日(木)――４月15日(火)
石川県七尾美術館
　1997年４月26日(土)――６月１日(日)
高崎市美術館
　1997年10月４日(土)――11月３日(月)
岡崎市美術館
　1998年３月４日(水)――３月22日(日)
田辺市立美術館
　1998年４月７日(火)――５月17日(日)
新潟市美術館
　1998年６月９日(火)――７月26日(日)
徳島県立近代美術館
　1998年８月１日(土)――９月27日(日)
静岡アートギャラリー
　1998年12月11日(金)――1999年１月15日(金)



会場風景


会場風景

出品目録

産業－INDUSTRIE

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	ウジェーヌ・グラッセ	あんず酒「アブリコティーヌ」	1895頃	紙、リトグラフ	109.5×149.5
2	レオネット・カピエッロ	食前酒「モーラン・キナ」	1906	紙、リトグラフ	150.3×110.5
3	レオネット・カピエッロ	熟成の酒「マリー・ブリザール&ロジェ」	1912	紙、リトグラフ	191.8×119.5
4	ジョルジュ・ファーヴル	ビール「ティタン」	1933	紙、リトグラフ	150.0×113.5
5	カッサンドル	ジャンシアーヌ＝キナ酒「ボナル」	1933	紙、リトグラフ	154.2×114.5
6	カッサンドル（原画）	キナ酒「デュボネ」	1935	紙、リトグラフ	39.6×31.1
7	ロジェ・ド・ヴァレリオ	シェリー酒「モーリス・シュヴァリエ」	1935	紙、リトグラフ	160.0×120.0
8	クロード・ガドゥー	ワイン「ローマ軍」―赤・ロゼ・白	1935	紙、リトグラフ	159.0×119.0
9	ジュール・ドランシー（原画）	細い瓶の高級酒「ニコラ」	1935	紙、リトグラフ	231.0×154.0
10	レイモン・デュカテ	南仏のアニス酒「フェリ45」	1938	紙、リトグラフ	150.0×111.8
11	レイモン・サヴィニャック	アルマニャック（ブランデー）「リスト」	1943	紙、リトグラフ	151.8×109.3
12	アルフォンス・ミュシャ	タバコ巻紙「ジョブ」	1898	紙、リトグラフ	141.5×94.0
13	ステファーノ	タバコ「サファイア」	1921	紙、リトグラフ	114.5×74.0
14	ジュール・ドランシー	東洋のタバコ「ナジャ」	1937頃	紙、リトグラフ	149.3×98.0
15	フィルマン・ブイセ	「プーラン・チョコレート」	1898	紙、リトグラフ	180.0×115.5
16	レオネット・カピエッロ	甘草入りドロップ「カシュー・ラジョーニー」	1920	紙、リトグラフ	144.0×92.0
17	不詳	「ムニエ・チョコレート」	1929	紙、リトグラフ	112.4×72.5
18	レオネット・カピエッロ	フォワグラ・クリームの女王「金の鶯鳥」	1937	紙、リトグラフ	109.0×154.5
19	シャルル・ティション	自転車「メトロポール」	1890頃	紙、リトグラフ	139.0×99.0
20	オガロ	自転車タイヤ「ミシュラン」	1920頃	紙、リトグラフ	100.0×76.0
21	ミシュ	自転車「ロワイヤル＝ファブリク」	1920頃	紙、リトグラフ	150.2×113.5
22	フリュジエ＝ファン	最新型人間のオートバイ「モネ＝ゴワイヨン」	1920	紙、リトグラフ	75.0×113.0
23	ジョルジュ・ファーヴル	自転車「ディレクタ」	1930	紙、リトグラフ	110.5×74.2
24	ラウール・マルトン	自転車「オートモト」	1930	紙、リトグラフ	77.0×116.9
25	マックス・ポンティ	オートバイ「プジョー」	1930	紙、リトグラフ	115.9×75.5

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
26	W.エルマン	フランス製ガソリン「アンタール」	1922	紙、リトグラフ	154.0×111.0
27	ピエール・ルイス	自動車「シトロエン」	1924	紙、リトグラフ	159.0×117.0
28	ルネ・ヴァンサン	自動車「モトブロック」	1927	紙、リトグラフ	154.3×113.2
29	ルネ・ヴァンサン	自動車「ビュイック」	1929	紙、リトグラフ	155.7×113.7
30	ジュール・シェレ	ルーヴル百貨店 — 1897年新春大売出し	1896	紙、リトグラフ	119.5×82.0
31	ジャン＝ガブリエル・ドメルグ	ギャルリー・ラファイエット百貨店—国債募集	1920	紙、リトグラフ	154.6×115.5
32	オルスキー	モッサン帽子	1928頃	紙、リトグラフ	159.0×117.0
33	ロジェ・ペロー	コルセット「フェレット」	1933	紙、リトグラフ	130.0×90.0
34	ロベール・ファルキュッチ	服地「ベリー」	1936	紙、リトグラフ	156.2×116.5
35	ラチャ	体育教室	1885頃	紙、リトグラフ	123.5×90.5
36	ルイ・リュシアン・フォール	ザンドウ筋肉増強器	1899	紙、リトグラフ	139.5×99.5
37	レオネット・カピエッロ	湿布綿「テルモジェーヌ」	1907	紙、リトグラフ	151.1×112.5
38	シャルル・ルポー、ジャン・カルリュ	石鹸「モンサヴォン」	1936	紙、リトグラフ	64.8×46.0
39	フィリップ・シャペリエ	真の円形シャワー	1890頃	紙、リトグラフ	119.0×79.5
40	レイモン・トゥルノン	理想の浴室	1895頃	紙、リトグラフ	121.0×80.5
41	リュシアン・ルフェーヴル	白熱灯「エレクトリシーヌ」—赤と白	1894	紙、リトグラフ	245.0×86.0
42	ジュール・シェレ	安全灯油「サクソレーヌ」	1896	紙、リトグラフ	243.5×85.0
43	レオネット・カピエッロ	速乾ペンキ「ニトロリアン」	1929	紙、リトグラフ	152.4×112.8
44	ジャン・リュック	ラジオ「ミロマ」	1935	紙、リトグラフ	112.0×68.2
45	L.ビュジェット	ラジオ「グラモン」	1935	紙、リトグラフ	101.5×75.5
46	ルネ・ラヴォ	映画による最速言語学習法「ミメフォン」	1935	紙、リトグラフ	145.2×95.9

観光ーTOURISME

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
47	アルフレッド・シューブラク	カジノ・ド・ビアリッツ	1885頃	紙、リトグラフ	130.5×93.5
48	フレデリック・ユゴー・ダレジ	ラ・テュルビー —— P .L. M. 鉄道会社	1890-95頃	紙、リトグラフ	105.0×75.0
49	ポール・ベルトン	ノルマンディ、ブルターニュ—西部鉄道	1895頃	紙、リトグラフ	106.1×78.8
50	ファリア	カシャ＝マジェスティック—シャモニーのウィンター・スポーツ	1905	紙、リトグラフ	109.8×151.7
51	アルベール・ベルジュヴァン	アヴランシュ —— モン・サン・ミシェル湾	1910頃	紙、リトグラフ	111.5×75.0
52	ルネ・ルーセル	パリに行こう—フランス大鉄道網	1920	紙、リトグラフ	98.5×60.5
53	カッサンドル	北方急行 — フランス北部鉄道	1927	紙、リトグラフ	105.8×75.0
54	カッサンドル	フランス北部鉄道	1929	紙、リトグラフ	100.0×62.3



カッサンドル（原画）「キナ酒『デュボネ』」



ミュシャ「タバコ巻紙『ジョブ』」

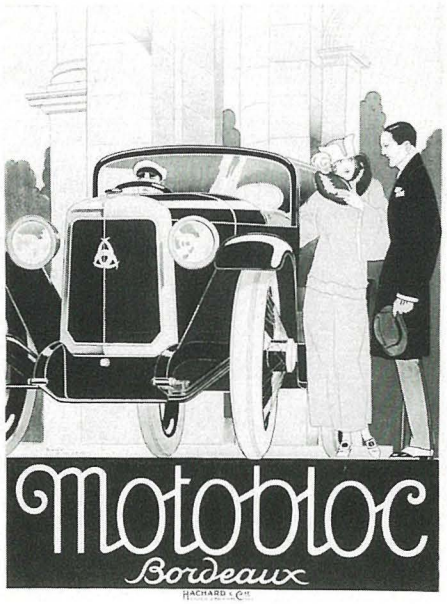
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
55	マックス・ポンティ	パケ船舶旅行会社	1929	紙、リトグラフ	99.9×72.0
56	ジャン・ドン	ドーヴィル	1930	紙、リトグラフ	154.0×111.8
57	アルベール・ソロン	ファルマン航空	1930	紙、リトグラフ	97.0×58.0
58	里見　宗次	コート・ダジュール	1934	紙、リトグラフ	98.7×62.4
59	カッサンドル	パリ	1935	紙、リトグラフ	104.0×62.4
60	バディア・ヴィラト	最高の保養地ヴィシー	1935	紙、リトグラフ	98.0×61.0
61	ロベール・ボンフィス	アルプス ― フランス国有鉄道	1939	紙、リトグラフ	97.0×122.0

出版ーPUBLICATIONS

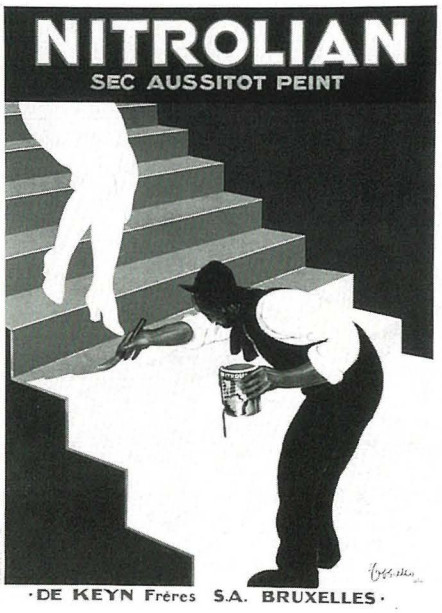
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
62	アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	ヴィクトル・ジョゼ著「ドイツのバビロン」	1894	紙、リトグラフ	122.0×86.7
63	ジョルジュ・ド・フール	書籍「パリの暦」	1894	紙、リトグラフ	79.5×62.0
64	パル	雑誌「自由」	1895頃	紙、リトグラフ	158.0×114.0
65	ピエール・ボナール	美術雑誌「版画とポスター」	1897	紙、リトグラフ	83.0×61.0
66	ジュール・アレクサンドル・グリュン	雑誌「微笑み」	1900	紙、リトグラフ	123.5×88.0
67	ジョブ	雑誌「ル・ポンポン」	1901	紙、リトグラフ	114.0×158.0
68	レオネット・カピエッロ	新聞「ル・プティ・ドーフィノワ」	1933	紙、リトグラフ	109.6×152.9
69	ロベール・ファルキュッチ	日刊紙「山」	1939	紙、リトグラフ	116.8×76.4

公共ーVIE PUBLIQUE

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
70	ルネ・ペアン	パノラマとジオラマ「革命と帝国」	1899-90頃	紙、リトグラフ	129.0×91.5
71	ピエール・ボナール	「創作版画家展」ヴォラール画廊	1896	紙、リトグラフ	64.5×47.0
72	ジョルジュ・ボワスリエ	「住宅展示会」グラン・パレ	1900頃	紙、リトグラフ	158.0×310.0
73	ルネ・ペアン	「1400年のパリ」― 奇蹟の巣窟の再現	1900	紙、リトグラフ	123.5×88.0
74	V.ギイエ	ギョーム人形劇場 ― 1900年パリ万国博覧会	1900	紙、リトグラフ	103.0×148.0
75	シム	スイス村 ― 1900年パリ万国博覧会	1900	紙、リトグラフ	149.0×109.0
76	ポール・アルベール・ロラーンス	万国博エジプト劇場「ラムセス」	1900	紙、リトグラフ	87.0×153.0
77	ジョルジュ・ルルー	万国博覧会「光学館」― 1900年の大望遠鏡	1900	紙、リトグラフ	78.5×60.0



ヴァンサン「自動車『モトブロック』」



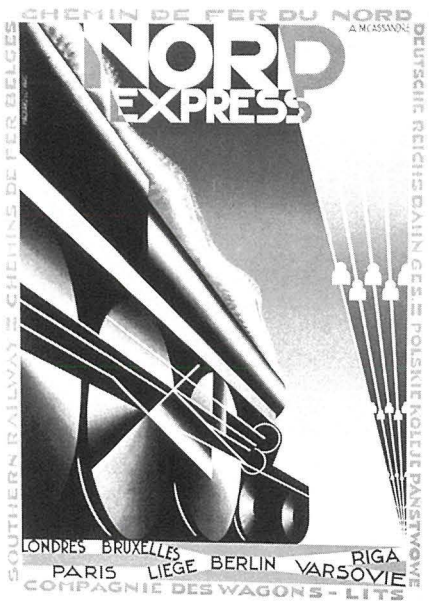
カピエッロ「速乾ペンキ『ニトロリアン』」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
78	ジョルジュ・ロシュグロス	国際自動車・自転車・スポーツ見本市―グラン・パレ	1901	紙、リトグラフ	129.0×93.5
79	クレマンティーヌ＝エレーヌ・デュフォー	児童画展「時を超える子ども」プティ・パレ	1901	紙、リトグラフ	139.0×100.0
80	A.マンシオン	「肖像画・デッサン・宝石展」サル・デ・ザール	1910-20頃	紙、リトグラフ	88.5×125.0
81	J.ルーシュ	公共事業省「橋の舞踏会」	1921	紙、リトグラフ	70.2×49.7
82	ジャン＝ガブリエル・ドメルグ	「グラン・プリ舞踏会」オペラ座	1922	紙、リトグラフ	60.4×38.6
83	フランソワ＝モーリス・ロガノー	国立高等美術学校舞踏会	1927	紙、リトグラフ	144.5×94.5
84	レオネット・カピエッロ	「全国子ども週間」厚生省	1939	紙、リトグラフ	39.0×26.5
85	ジャック・ナタン	ル・アーヴル港復興公債募集	1945以後	紙、リトグラフ	78.0×58.5

興行―SPECTACLES

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
86	アルフレッド・シューブラク	フォリー＝ベルジェール「真珠のバレエ」	1885頃	紙、リトグラフ	74.0×49.3
87	アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	ディヴァン・ジャポネ	1892	紙、リトグラフ	80.4×60.0
88	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	高名な「黒猫」一座近日来演	1896	紙、リトグラフ	61.2×38.1
89	アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	エグランティーヌ嬢一座	1896	紙、リトグラフ	59.5×79.0
90	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	演劇「居酒屋」ポルト＝サン＝マルタン劇場	1900	紙、リトグラフ	192.0×139.0
91	ジュール・アレクサンドル・グリュン	コンセール・ウロペアン ― 乗ってみない?	1901	紙、リトグラフ	57.7×37.6
92	ルイ・リュシアン・フォール	喜歌劇「パリのクローディーヌ」ブッフ＝パリジアン劇場	1902	紙、リトグラフ	140.0×99.5
93	マニュエル・オラジ	曲馬場、クリシィ大通り	1900	紙、リトグラフ	216.0×159.0
94	ルイ・ガリス	アルハンブラ―ヌイイの祭	1905頃	紙、リトグラフ	158.5×119.0
95	ド・ロスク	ミスタンゲット	1910頃	紙、リトグラフ	181.0×97.7
96	マルセル・ヴェルテス	「ラ・マリブラン」のシモーヌ・フレヴァレス	1923	紙、リトグラフ	120.0×80.0
97	ドンガ	ジェルメーヌ・ケルジャン	1934	紙、リトグラフ	158.0×116.6
98	ルイ・イカール（原画）	オペレッタ「ムシュー・ラムール」	1935	紙、リトグラフ	153.1×113.2
99	ジャン=アドリアン・メルシエ	モーリス・シュヴァリエ主演「微笑む人生」	1936	紙、リトグラフ	80.0×60.0
100	C.ララーンド	フィリップ・ブラン ― デュクルテ＝トムソン・レコード	1940	紙、リトグラフ	76.0×57.5

＊　寸法は縦×横。
＊　作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



カッサンドル「北方急行 ― フランス北部鉄道」

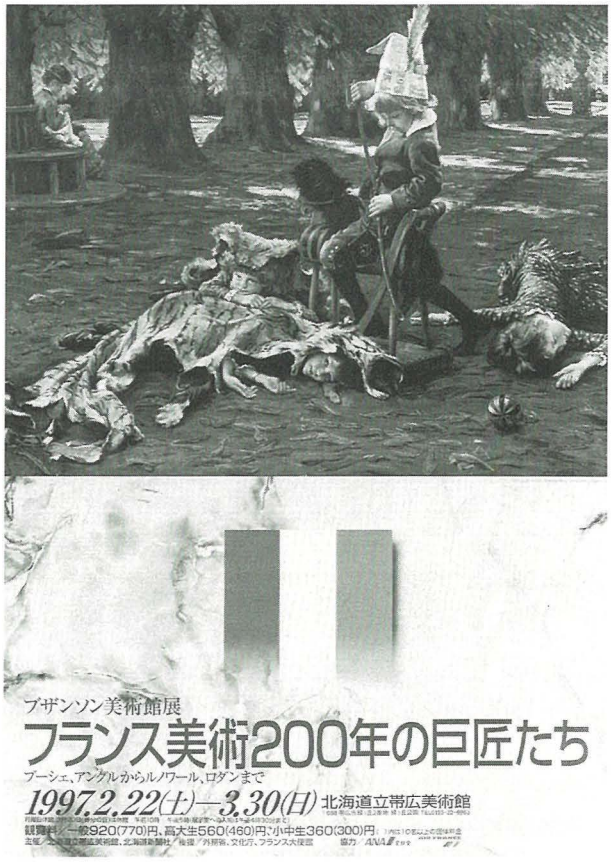


ロートレック「ディヴァン・ジャポネ」

ブザンソン美術館展　フランス美術200年の巨匠たち　ブーシェ、アングルからルノワール、ロダンまで

会期＝平成9年2月22日(土)―3月30日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社

後援＝外務省、文化庁、フランス大使館
協力＝エールフランス、全日空



ポスター

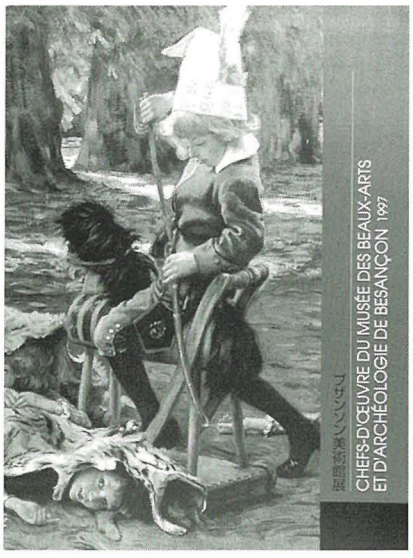
関連事業

美術講演会
「フランス近代絵画の流れ」
講師＝島田紀夫氏（実践女子大学教授）
日時＝3月15日(土)　午後2時～3時30分
会場＝当館講堂

土曜映写室
「魅惑のロココ」「ロマン派宣言」
日時＝3月1日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

「リアリズムの道」「印象派の誕生」
日時＝3月22日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂

「光と色彩の讃歌」「都市の自画像」
日時＝3月29日(土)　午後2時～3時
会場＝当館講堂



図録

パリの南東約300km、スイス国境に隣接するドゥー県の中心都市ブザンソン市にあるブザンソン美術館は、フランス最古の美術博物館であり、古代から現代にいたる多彩で豊富な収蔵作品によって知られている。

この展覧会では同館のコレクションより、近代フランス美術に焦点をあてて作品を紹介した。ロココ時代のブーシェ、新古典主義のダヴィッド、アングル、ロマン派のジェリコー、バルビゾン派のテオドール・ルソー、写実主義のクールベから、印象派、ナビ派、フォーヴィスムの作家たちまで、出品された作品には日本でも著名な作家のものが数多く含まれていた。

フランス美術の黄金時代ともいえる18世紀から20世紀初頭にかけての美術の流れを、この時代を代表する61作家の油彩、水彩・素描、彫刻、計78作品により通観した本展には、会期中5,029名の来館者があった。



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
1	フランソワ・ブーシェ	中国風の庭園	1742頃	油彩、キャンバス	40.5×48.0
2	フランソワ・ブーシェ	中国の定期市	1742頃	油彩、キャンバス	41.4×64.4
3	ガスパール・グレスリィ	学校に送られる少女	1750	油彩、キャンバス	72.0×60.0
4	ジャン・バルボー	スイス人の教皇護衛隊	1750	油彩、キャンバス	41.0×30.0
5	ルイ＝ジャン＝フランソワ・ラグルネ（レネ）	ジョゼフィーヌ・ベルジュレ・ド・グランクールと推定される肖像	1780頃	油彩、キャンバス	52.0×63.0
6	ジャン＝バティスト＝アンリ・デエ・ド・コルヴィル	戯れる小犬たち	1750頃	油彩、キャンバス	46.0×63.0
7	ジャック＝フランソワ・アマン	ヨセフとその兄弟たち	制作年不詳	油彩、キャンバス	113.5×145.0
8	ジャン＝メルシオール・ヴィルシュ	ニコラ・ニコルの肖像	1782頃	油彩、キャンバス	57.0×46.0
9	ユベール・ロベール	フラスカティ:ヴィラ・コンティの大噴水	1761頃	油彩、キャンバス	62.0×47.0
10	ジャン＝ルイ・ド・マルヌ	羊飼いと群の風景	1784以降	油彩、キャンバス	100.0×80.0
11	フランソワ＝アンドレ・ヴァンサン	読書する老人	1771-75頃	油彩、キャンバス	71.0×55.0
12	ジャック＝ルイ・ダヴィッド	グレゴワール修道院長の肖像	1792	油彩、キャンバス	56.0×46.5
13	ジャン＝ピエール・ペキニョ	ナポリ近郊の風景	1803	油彩、キャンバス	57.5×78.5
14	ジャン＝オーギュスト・ドミニック・アングル	建築家デスデバンの肖像	1810頃	油彩、キャンバス	63.5×49.0
15	テオドール・ジェリコー	遭難者の頭部像	1817-19頃	油彩、キャンバス	46.5×37.3
16	ジョゼフ＝フェルディナン・ランクルノン	父親の視力を取り戻すトビア	1819頃	油彩、キャンバス	150.0×192.0
17	イポリット（ポール）・ドラローシュ	水盤上の若い娘	1845頃	油彩、キャンバス	154.0×192.0
18	ルイ＝ガブリエル＝ウジェーヌ・イザベイ	サン＝ヴォンドリル修道院の回廊	1825-30頃	油彩、キャンバス	42.5×60.0
19	ジャン・ジグー	ヴェルサイユのサン＝ランベールとドゥドゥト夫人	1834	油彩、キャンバス	82.0×65.8
20	テオドール（ピエール＝エティエンヌ）・ルソー	森のはずれ	制作年不詳	油彩、キャンバス	29.0×40.5
21	ジャン＝アシル・ベヌヴィル	地上の楽園を追われるアダムとイヴ	1841	油彩、キャンバス	114.5×146.5
22	ジャン＝ピエール＝アレクサンドル・アンティーニャ	羊飼いの女	1863頃	油彩、キャンバス	181.0×107.0

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
23	ギュスタヴ・クールベ	自画像	1850頃	油彩、キャンバス	51.0×41.5
24	ギュスタヴ・クールベ	泉のある風景	1871	油彩、キャンバス	65.5×81.0
25	ギュスタヴ・クールベ	サン＝シュルピス橋	1873	油彩、キャンバス	66.0×81.5
26	テオドール・シャセリオー	哀願する婦人	1854頃	油彩、キャンバス	53.0×46.5
27	アンリ＝ジョゼフ・アルピニー	魚釣り禁止	1865	油彩、キャンバス	32.4×40.6
28	ジャン＝レオン・ジェローム	若い女性の肖像	1850頃	油彩、キャンバス	82.0×65.0
29	アントナン・ファナール	草原の西洋ヤナギ	制作年不詳	油彩、キャンバスで裏打ちされた紙	44.0×69.0
30	ジェームズ・ティソ	かわいい狩人（ニムロデ）	1882頃	油彩、キャンバス	109.5×140.0
31	オーギュスト・エマニュエル・ポワントラン	風景	制作年不詳	油彩、キャンバス	36.3×52.2
32	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	アデル・ベッソンの肖像	1918	油彩、キャンバス	41.0×37.0
33	フェルナン・コルモン	ハーレムの嫉妬	1874	油彩、キャンバス	171.0×225.0
34	ルイ＝ロベール・カリエ＝ベルーズ	チェスをさす人	1879	油彩、キャンバス	59.0×73.0
35	テオバルト・シャルトラン	女性像:シャルトラン夫人	制作年不詳	油彩、キャンバス	115.1×63.8
36	ジュール・マリー・アレクシス・ムエニエ	教理問答（カテキスム）の授業	1890	油彩、キャンバス	71.0×91.0
37	ピエール・ボナール	水浴びをするマルト	1919	油彩、キャンバス	63.0×46.0
38	エドゥワール・ヴュイヤール	ブーローニュの森のカフェ	1897-98頃	油彩、カルトンに裏打ちされた紙	48.0×51.0
39	アルベール・アンドレ	ムーラン・ルージュの酒場	1900	油彩、カルトン	49.5×53.5
40	アルベール・マルケ	二人の女友達	1912	油彩、キャンバス	60.0×92.0
41	フランシス・ジュルダン	辻馬車の駅	1908	油彩、カルトン	61.5×85.0
42	ジャン＝バティスト・グルーズ	右手の習作	制作年不詳	赤チョーク、紙	23.1×33.9
43	シャルル＝フランソワ・ド・ラ・トラヴェルス	木の根元の発掘（古代戦士の目前での財宝の発見）	1755頃	黒鉛、ペン、淡彩、紙	43.7×33.2
44	ジャン＝オノレ・フラゴナール	ティヴォリの大きな滝	制作年不詳	赤チョーク、紙	48.8×36.1
45	ジャン＝オノレ・フラゴナール	古代衣装の踊り子	制作年不詳	赤チョーク、白墨によるハイライト、紙	46.2×27.5
46	ユベール・ロベール	ローマのサン・ピエトロ広場	1760頃	墨、淡彩、紙	16.0×19.0
47	ピエール＝アドリアン・パリス	シテール島の庭園	1775頃	ペン、インク、水彩、紙	32.0×40.8
48	ジャック＝ルイ・ダヴィッド	教皇ピウス7世の肖像	制作年不詳	鉛筆、紙	14.2×18.9
49	ジャック＝ルイ・ダヴィッド	横たわる女性の頭部習作	制作年不詳	鉛筆、紙	22.8×19.0
50	ピエール＝ジョゼフ・ルドゥテ	バクヤギクの習作	制作年不詳	黒鉛、水彩、ベラム紙	30.6×22.0
51	ピエール＝ジャン＝フランソワ・トゥルパン	植物習作:ゴマノハグサ	18世紀末	筆、墨、紙	42.1×30.7
52	フランソワ＝マリウス・グラネ	良き司祭	1847	インク、淡彩、紙	23.5×19.0
53	ピエール＝ジャン・ダヴィッド（ダヴィッド・ダンジェ）	アングルとグロの肖像	制作年不詳	ヨシのペン、インク、紙	23.5×16.7
54	テオドール・ジェリコー	背中を向ける半裸の男（「メデューズ号の筏」の習作）	1818-19	黒鉛筆、擦筆、紙	27.6×20.4



ブーシェ「中国の定期市」



ジグー「ヴェルサイユのサン＝ランベールとドゥドゥト夫人」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（cm）
55	ウジェーヌ・ドラクロワ	習作:「失楽園」を娘たちに話して聞かせるミルトン	1824-27頃	黒鉛筆、紙	23.7×18.7
56	アルフレッド・ジョアノ	フランソワ1世とエタンプの公爵夫人	1835頃	鉛筆、水彩、グワッシュ、ニス、紙	38.9×33.6
57	ジャン・ジグー	先行き	1833	鉛筆、水彩、紙	15.4×23.3
58	イポリット・フランドラン	「バラームの犠牲」の観客	制作年不詳	鉛筆、紙	26.9×20.8
59	プロスペール・マリラ	エジプトの風景:モスクとヤシの木	制作年不詳	黒および赤鉛筆、紙	15.2×25.5
60	テオドール（ピエール＝エティエンヌ）・ルソー	「クロワシー島の伐採」のための習作	1847	鉛筆、紙	18.5×26.4
61	ジェームズ・ティソ	カルカッタ号の甲板（船上ダンスパーティーの思い出）	1876	ドライポイント、紙	26.0×35.8
62	ジェームズ・ティソ	夏の宵（または「夢見る女性」「まどろむ女性」）	1881	エッチング、ドライポイント、紙	23.0×39.8
63	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	メダイヨン:女性の肖像	1918頃	木炭、紙	26.3×21.2
64	テオバルト・シャルトラン	聖サテュルヌスの習作	1877頃	ペン、インク、紙	18.2×13.7
65	アンリ＝エドモン・ドラクロワ（クロス）	パルディゴン	1907	鉛筆、水彩、紙	24.5×16.7
66	アリスティード・マイヨール	裸婦像	1896頃	赤チョーク、紙	36.2×22.1
67	ポール・シニャック	オーフェルスキー河	1906	鉛筆、水彩、紙	17.0×24.6
68	アルベール・マルケ	オリエントの絨毯に横たわる裸婦	1912頃	墨、ヨシのペン、紙	19.8×29.3
69	ラウル・デュフィ	かごのある静物	1913-15頃	ペン、墨、紙	65.0×51.5
70	ピエール＝ジャン・ダヴィッド（ダヴィッド・ダンジェ）	ジョン・ボーリングの肖像	1832	ブロンズのメダル	直径15.0
71	ピエール＝ジャン・ダヴィッド（ダヴィッド・ダンジェ）	ジャン・ジグー	1844	ブロンズのメダル	直径17.0
72	カミーユ・デュメスメ	若いサテュロス	1858	白大理石	27.0×46.0×44.0
73	マックス・クローデ	イタリアの女	1870頃	白大理石	19.0×23.0×36.0
74	オーギュスト・ロダン	ヴィクトル・ユーゴーの胸像	1884	ブロンズ、緑青、着色	17.0×16.0×38.5
75	オーギュスト・ロダン	永遠の春	1894頃	ブロンズ、着色	39.0×50.0×64.0
76	アルフレッド・ブーシェ	刈り草を干す女	1890頃	ブロンズ	19.0×20.0×56.0
77	ジュール・デボワ	レダと白鳥	1891頃	ブロンズ	57.0×40.0×34.0
78	ジョルジュ・バロー	歴史	1900頃	ブロンズ、着色、金メッキ	19.0×44.0×51.0

＊　寸法は立体作品は奥行×幅×高さ、平面作品は縦×横。
＊　作品はすべてブザンソン美術館蔵。



ティソ「かわいい狩人（ニムロデ）」



ロダン「永遠の春」

教育普及事業

美術講演会

各分野の専門家を招いて、それぞれの展覧会に関連した内容の講演会を開催した。

時間＝午後2時～3時30分
場所＝当館講堂(聴講無料)



フランス近代絵画の流れ

平成7年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
6月24日	芸術家たちを支えた美の擁護者 ーマーグ・コレクションをめぐって	村田　宏氏	横浜美術館学芸係長	20世紀美術への眼差し	30
9月16日	ルオー芸術の魅力	中村隆夫氏	美術評論家	ルオー版画展	40
10月21日	ベルナール・ビュッフェの世界	阿部信雄氏	美術評論家	ビュッフェ展	77
3月16日	木口木版ー歴史と可能性	水沢　勉氏	神奈川県立近代美術館主任学芸員	イギリス木版画展	38

平成8年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
6月8日	マヤ遺跡の発掘をめぐって	大井邦明氏	京都外国語大学教授	マヤ古代文明の遺産	138
8月3日	浮世絵ーその系譜と展開	伊藤めぐみ氏	(仮称) 墨田区北斎館開設準備担当学芸員	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展	34
8月24日	ユトリローー人と芸術	大森達次氏	女子美術大学教授	ユトリロ展	108
10月19日	日本美の世界ー歴史と伝統	白根敏昭氏	富士美術館学芸課長	富士美術館名品展	83
12月14日	身体と表現 ーエゴン・シーレを考察しつつ	柴橋伴夫氏	美術評論家	北海道・今日の美術	28
3月15日	フランス近代絵画の流れ	島田紀夫氏	実践女子大学教授	フランス美術200年の巨匠たち	86

特別展セミナー

各展覧会に関係したテーマで当館の学芸員が解説を行った。

時間＝午後2時～3時
場所＝当館講堂(聴講無料)

平成7年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
4月29日、5月6日	線乱の幕末浮世絵師・国貞	佐藤幸宏	当館学芸員	特別展＝歌川国貞	61
5月27日、6月10日	居串佳一―北方のロマンとその精神風土	寺嶋弘道	当館学芸課長	居串佳一展	32
7月1日、7月29日	20世紀美術への誘い	鎌田　享	当館学芸員	20世紀美術への眼差し	15
8月19日、9月2日	アンドレ・フランソワ ―ユーモリストの造形世界	寺嶋弘道	当館学芸課長	アンドレ・フランソワ展	21
11月4日、11月18日	ベルナール・ビュッフェ―人と芸術	佐藤幸宏	当館学芸員	ビュッフェ展	56
12月2日、12月16日	プリントアート―版画と写真と	鎌田　享	当館学芸員	今日のプリントアート展	18

平成8年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
4月13日、4月27日、 5月11日	能勢眞美―人と作品	鎌田　享	当館学芸員	能勢眞美展	123
6月22日、6月29日	古代マヤの造形	平　利弘	当館学芸員	マヤ古代文明の遺産	45
7月27日、8月10日	浮世絵版画の黄金時代	寺嶋弘道	当館学芸課長	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展	27
8月31日、9月28日	ユトリロの絵画世界	平　利弘	当館学芸員	ユトリロ展	58
10月26日、11月9日	琳派―日本の装飾美	鎌田　享	当館学芸員	富士美術館名品展	74

美術鑑賞講座

美術についての基礎的な知識を学ぶことを目的に、ひとつのテーマにもとづいた鑑賞講座を4週シリーズで開催した。

時間＝午後2時～3時30分
場所＝当館講堂(聴講無料)、応募制



ファン・アイクと北方ルネサンス

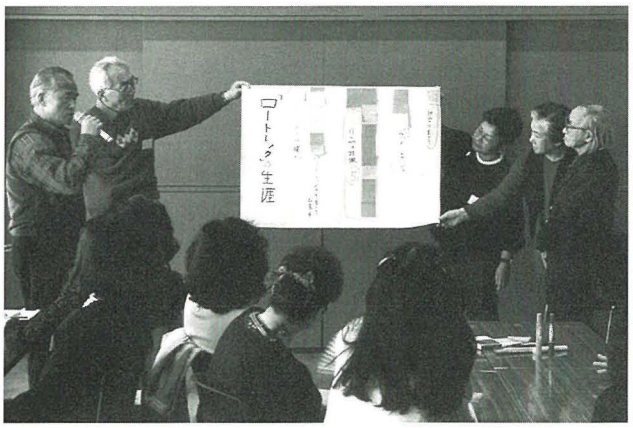
平成7年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	聴講人員
2月17日	鑑賞入門・ヨーロッパ美術の精華―ルネサンスからバロックへ：ファン・アイクと北方ルネサンス	佐藤幸宏	当館学芸員	59
2月24日	鑑賞入門・ヨーロッパ美術の精華―ルネサンスからバロックへ：ミケランジェロとイタリア・ルネサンス	寺嶋弘道	当館学芸課長	61
3月2日	鑑賞入門・ヨーロッパ美術の精華―ルネサンスからバロックへ：プッサンとフランス古典主義	古川俊英氏	北海道教育大学教授	55
3月9日	鑑賞入門・ヨーロッパ美術の精華―ルネサンスからバロックへ：ベラスケスとスペイン・バロック	鎌田　亨	当館学芸員	43

ミュージアム・カレッジ

美術についての基礎的な知識を学ぶことを目的に、ひとつのテーマにもとづいた鑑賞講座のほか、ビデオ・プログラムやワークショップも盛り込んだ6週連続の講座として実施した。

時間＝午後2時～3時30分
場所＝当館講堂(聴講無料)、応募制



ワークショップ

平成8年度

開催期日	演題／内容	講師	講師所属（職業等）	聴講人員
1月18日	アール・ヌーヴォーの世界：ビデオ・プログラム「広がるアール・ヌーヴォー」「ロートレック」			36
1月25日	アール・ヌーヴォーの世界：ガウディと世紀末の建築	寺嶋弘道	当館学芸課長	35
2月1日	アール・ヌーヴォーの世界：ガレとアール・ヌーヴォーのガラス	水田順子氏	北海道立近代美術館主任学芸員	32
2月8日	アール・ヌーヴォーの世界：クリムトとウィーン分離派	鎌田　亨	当館学芸員	31
2月15日	アール・ヌーヴォーの世界：ロートレックと世紀末のポスター	平　利弘	当館学芸員	30
2月22日	アール・ヌーヴォーの世界：ワークショップ			27

土曜映写室

主として各展覧会に関係のある内容の映画、ビデオ、ＬＤ等を上映した。

時間＝午後2時～
場所＝当館講堂(入場無料)

平成7年度

開催期日	上映作品	関連展覧会	入場人員
4月15日、4月22日	「浮世絵と歌川広重」「東海道五十三次」	特別展＝歌川国貞	50
5月20日、6月3日	「オホーツクわが魂―居串佳一の世界」「北海道の美術 絵画編」	居串佳一展	26
7月8日、7月15日	「ボナール―視覚的冒険」	20世紀美術への眼差し	18
9月9日、10月7日	「楽園への夢」「20世紀へのかけ橋」	ルオー版画展	20
10月28日、11月11日、11月25日	「社会を写す鏡」「肖像画の系譜」	ビュッフェ展	59
1月13日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅳ」①		46
1月20日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅳ」②		19
1月27日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅳ」③		21

平成8年度

開催期日	上映作品	関連展覧会	入場人員
5月18日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅴ」①		22
5月25日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅴ」②		14
6月1日	土曜映写室スペシャル「ＣＧの冒険Ⅴ」③		20
7月20日、8月17日	「浮世絵の系譜と西洋への影響」 「プルシャンブルー～世界を巡った謎の青」	プラハ国立美術館所蔵浮世絵展	25
10月12日、11月2日、11月16日	「水墨画・庭園・城・障壁画」「南蛮美術」「江戸時代の絵画」	富士美術館名品展	81
3月1日	「魅惑のロココ」「ロマン派宣言」	フランス美術200年の巨匠たち	14
3月22日	「リアリズムの道」「印象派の誕生」	フランス美術200年の巨匠たち	13
3月29日	「光と色彩の讃歌」「都市の自画像」	フランス美術200年の巨匠たち	7

アートウォッチング

現代美術に対する理解を深めるため、作家と市民が共同で作品制作を実施。作者の造形精神とその手法を公開制作により紹介した。





アートウォッチング95／美の現場=中谷有逸

平成7年度

開催期日	事業名	内容	作者	関連展覧会	制作作品名
7月21日、7月22日、7月23日	アートウォッチング95 美の現場＝中谷有逸 大地とのダイアローグ	美術館ロビーにおいて平面造形作品を制作。	中谷有逸（美術家）	中谷有逸展	風の大地 雪の大地 稔りの大地 雪溶けの大地

トークショー

アートウォッチングおよび現代作家のワンマンショーに関連して、対談形式のトークショーを開催した。

時間＝午後2時～3時30分
場所＝当館講堂(入場無料)



記憶の碑／記録の版

平成7年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	参加人員
8月5日	記憶の碑／記録の版	中谷有逸氏 吉田豪介氏	美術家 美術評論家	中谷有逸展	40

キッズ・ミュージアム

親子連れの家族を対象とした事業。子供たちのための造形教室を実施することにより、その間保護者に展覧会鑑賞の機会を提供した。当館ボランティアの協力により実施。

時間＝午後2時～3時
場所＝当館講堂、応募制



キッズ・ミュージアム95



キッズ・ミュージアム96

平成7年度

開催期日	事業名	内容	関連展覧会	参加人員
9月23日、9月30日	キッズ・ミュージアム95 美の託児室＝スチロールはんがにチャレンジ！	子ども：造形教室 保護者：展覧会の鑑賞	ルオー版画展 中谷有逸展	67

平成8年度

開催期日	事業名	内容	関連展覧会	参加人員
9月14日、9月21日	キッズ・ミュージアム96 美の託児室＝アートで作るジグソーパズル	子ども：造形教室 保護者：展覧会の鑑賞	ユトリロ展 道東の作家たち展	79

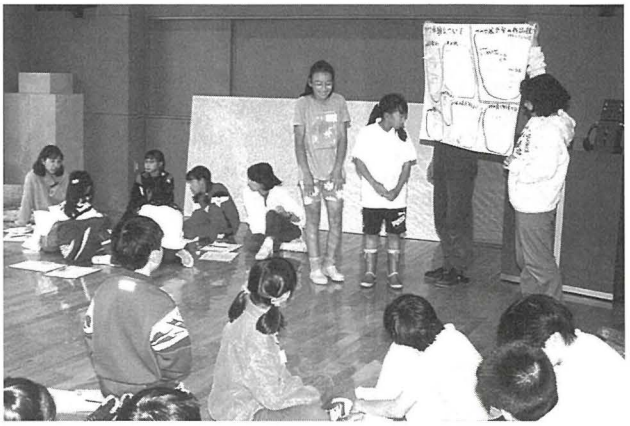
ミュージアム・ミステリー

小学校高学年、中学生を対象とした事業。展覧会の内容に関連し、ワークショップを中心にした鑑賞プログラムとして実施した。

時間＝午後2時～5時
場所＝当館講堂及び展示室、応募制



作品鑑賞・マヤ展マップ作り



ワークショップ2・マヤ古代文明大解剖

平成8年度

開催期日	事業名	内容	関連展覧会	参加人員
7月6日、7月13日	ミュージアム・ミステリー96 古代マヤの謎に挑戦	作品鑑賞・マヤ展マップ作り ワークショップ1・ふしぎ体験！マヤの謎 ワークショップ2・マヤ古代文明大解剖	マヤ古代文明の遺産展	61

ミュージアム・コンサート

室内楽の名曲を楽しむコンサートを実施した。

時間＝午後2時～
場所＝コレクション・ギャラリー、応募制



冬のセレナード～ソプラノとギターの調べ



名曲アルバム～フルートとハープの調べ

平成7年度

開催期日	事業名	演奏者	演奏者所属（職業等）	参加人員
2月10日	冬のセレナード～ソプラノとギターの調べ	松崎千枝子氏 田中光俊氏	声楽家、音楽教室講師 ギター奏者、音楽教室講師	200

平成8年度

開催期日	事業名	演奏者	演奏者所属（職業等）	参加人員
3月8日	名曲アルバム～フルートとハープの調べ	山崎　衆氏 柳田奈穂子氏	札幌交響楽団フルート奏者 ハープ奏者	144

団体オリエンテーション

当館の概要と開催中の展覧会の内容を紹介するオリエンテーションを希望の団体に実施。

時間＝随時
場所＝当館講堂(無料)、申込制

平成7年度

事業名	内容	関連展覧会	実施回数	人数	備考
オリエンテーション	館概要と展覧会の紹介（スライド使用）	特別展＝歌川国貞	6回	191人	団体観覧者の希望に応じ随時、実施。
		居串佳一展	13回	392人	
		20世紀美術への眼差し	61回	2,738人	
		アンドレ・フランソワ展	12回	555人	
		ルオー版画展	20回	785人	
		ビュッフェ展	13回	413人	
		今日のプリント・アート展	5回	176人	
		イギリス木版画展	0回	0人	

平成8年度

事業名	内容	関連展覧会	実施回数	人数	備考
オリエンテーション	館概要と展覧会の紹介（スライド使用）	能勢眞美展	4回	143人	団体観覧者の希望に応じ随時、実施。
		マヤ古代文明の遺産	21回	790人	
		プラハ国立美術館所蔵浮世絵展	11回	510人	
		ユトリロ展	38回	1,865人	
		富士美術館名品展	18回	551人	
		北海道・今日の美術	2回	60人	
		黄金時代のポスター芸術	5回	288人	
		フランス美術200年の巨匠たち	7回	394人	

博物館実習

関係各大学の依頼により、学芸員資格取得希望者の学生を受け入れ実施した。

受け入れ条件として、地元出身者で美術（美学・美術史、美術教育、美術実技）を専攻し、なおかつ卒業後に博物館勤務を現に希望する学生であることを原則とした。

平成7年度

受入期間＝9月12日(火)～21日(木)（休館日を除く9日間）
受入人数＝1名（聖心女子大学）

実習日程

	午前10:00～12:00	午後13:00～16:30
9月12日(火)	○ガイダンス ○講義「生涯学習と美術館」	○講義「道立美術館概要」 ○施設、展覧会見学
9月13日(水)	○講義「文化行政と美術館」 ○団体オリエンテーション見学	○展示室監視実習
9月14日(木)	○講義「展覧会の企画運営」 ○講義「印刷物の編集作成」	○展示記録実習（記録写真、展示図面作成）
9月15日(金)	○講義「教育普及活動の概要」 ○視聴覚機器の取り扱い実習	○ビデオ学習「美術作品の保存・取扱」
9月16日(土)	○広報活動実習	○教育普及事業実習（講演会準備、聴講）
9月17日(日)	○博物館施設見学（鹿追町立神田日勝記念館）	
9月18日(月)	休館日	
9月19日(火)	○講義「美術館資料の収集保存」 ○資料整理実習	○資料整理実習
9月20日(水)	○資料整理実習	○資料整理実習
9月21日(木)	○博物館施設見学（帯広百年記念館）	

平成8年度

受入期間＝9月11日(水)～21日(土)（休館日を除く9日間）
受入人数＝1名（金沢美術工芸大学）

実習日程

	午前10:00～12:00	午後13:00～16:30
9月11日(水)	○ガイダンス ○施設、展覧会見学	○広報活動実習 ○講義「道立美術館概要」 ○講義「印刷物の編集作成」
9月12日(木)	○講義「文化行政と美術館」 ○作品写真撮影実習	○展示室監視実習
9月13日(金)	○講義「生涯学習と美術館」	○作品写真撮影実習
9月14日(土)	○展示記録実習（記録写真、展示図面作成） ○講義「美術館資料の収集保存」	○教育普及事業実習（子供向け事業の補助）
9月15日(日)	○博物館施設見学（鹿追町立神田日勝記念館）	
9月16日(月)	休館日	
9月17日(火)	休館日	
9月18日(水)	○講義「展覧会の企画運営」 ○資料整理実習	○美術作品搬出作業見学
9月19日(木)	○資料整理実習	○団体オリエンテーション見学 ○展覧会の企画運営実習（図録編集）
9月20日(金)	○資料整理実習	○展覧会の企画運営実習（プラン作成）
9月21日(土)	○博物館施設見学（帯広百年記念館）	○ビデオ学習「美術作品の保存・取扱」 ○教育普及事業実習（子供向け事業の補助）

その他

拓本体験コーナー

「マヤ古代文明の遺産」展に関連して、マヤ彫刻の複製から文様を写し取る拓本作りの体験コーナーを設置。当館ボランティアの協力により実施した。

日時＝平成8年6月 8 日(土)、6月 9 日(日)、6月15日(土)、
6月16日(日)、6月22日(土)、6月23日(日)、
6月29日(土)、6月30日(日)、7月 6 日(土)、
7月 7 日(日)、7月13日(土)、7月14日(日)
午後1時30分～4時
場所＝当館ロビー





事業名	関連展覧会	参加人員
拓本体験コーナー	マヤ古代文明の遺産	537

明治の洋風楽器「紙腔琴」の調べ

「富士美術館名品展」に関連し、洋風楽器「紙腔琴」の解説と復元演奏を実施した。

日時＝平成8年10月20日(日)
　　午前11時～、午後1時～、午後3時～
場所＝当館講堂





事業名	講師氏名	講師所属（職業等）	関連展覧会	参加人員
明治の洋風楽器「紙腔琴」の調べ	白根敏昭氏	富士美術館学芸課長	富士美術館名品展	198

美術作品の収集

平成7年度　作品収集状況

区　分	前年度末作品収蔵数	平成7年度収集数				作品総数	受託作品		
		購　入	受　贈	委託制作	計		前年度末	平成7年度	計
油　彩	44(10.1%)	1	3	0	4	48 (10.4%)	29	0	29
日　本　画	5(1.1%)	0	0	0	0	5(1.1%)	1	0	1
水彩・素描	8(1.8%)	0	12	0	12	20(4.3%)	10	0	10
版　画	163(37.3%)	2	5	1	8	171(36.9%)	1	0	1
彫　塑	6(1.4%)	0	0	0	0	6(1.3%)	1	0	1
工　芸	0(0 %)	0	0	0	0	0(0 %)	0	0	0
デザイン	211(48.3%)	0	0	0	0	211(45.6%)	0	0	0
写　真	0(0 %)	2	0	0	2	2(0.4%)	0	0	0
合　計	437(100 %)	5	20	1	26	463(100 %)	42	0	42



ドゥフォー「農家の中庭」



ラウシェンバーグ「スリングーショッツ・リットNo.8」

購　入

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質・形状	寸法（cm）
95002	油彩	A.ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩、キャンバス	40.0×68.0
95003	版画	横尾忠則	ブルー・ワンダーランド	1973(昭和48)	シルクスクリーン、紙	各103.2×72.6(8点組)
95004	版画	R.ラウシェンバーグ	スリングーショッツ・リットNo.8	1985	シルクスクリーン、ミクストメディア	214.3×141.8×d32.2
95005	写真	大浦一志	杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13 一普賢岳(川は水を必要としていた)	1994(平成6)	ミクストメディア、印画紙	169.0×225.0
95006	写真	M.スターン、D.スターン	若い娘たち	1990-93	印画紙、透明フィルム、木	57.5×46.0×d5.5他(9点組)

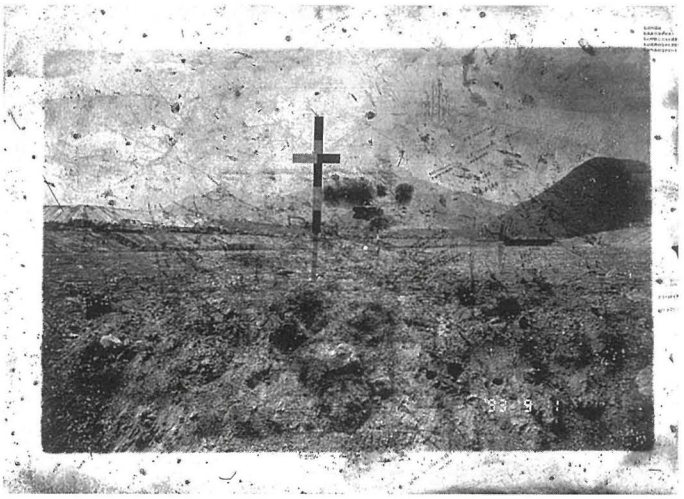
受　贈

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質・形状	寸法（cm）	寄贈者
95007	油彩	能勢眞美	池畔雪景	1933(昭和8)	油彩、キャンバス	130.5×162.3	能勢美智子氏
95008	油彩	能勢眞美	坐婦	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	128.5×79.3	能勢美智子氏
95009	油彩	能勢眞美	自画像	1948(昭和23)頃	油彩、キャンバス	41.4×32.2	能勢美智子氏
95011	水彩・素描	居串佳一	千島スケッチ	1944(昭和19)頃	水彩、インク、紙	17.9×25.6	黒澤悦子氏
95012	水彩・素描	居串佳一	千島スケッチ	1944(昭和19)頃	インク、紙	25.6×18.1	黒澤悦子氏
95013	水彩・素描	居串佳一	千島スケッチ	1944(昭和19)頃	水彩、インク、紙	18.1×25.6	黒澤悦子氏
95014	水彩・素描	居串佳一	千島スケッチ	1944(昭和19)頃	インク、紙	18.2×25.7	黒澤悦子氏
95018	水彩・素描	繁野三郎	千島の花束	1944(昭和19)頃	インク、紙	19.2×27.0	黒澤悦子氏
95019	水彩・素描	繁野三郎	千島風物	1944(昭和19)頃	インク、紙	19.2×27.0	黒澤悦子氏
95020	水彩・素描	繁野三郎	千島風物	1944(昭和19)頃	水彩、インク、紙	18.7×26.9	黒澤悦子氏
95017	水彩・素描	田中忠雄	陣地に冬来たる　北千島	1943(昭和18)頃	水彩、インク、紙	18.0×26.0	黒澤悦子氏
95026	水彩・素描	田中忠雄	寒風ふきさらす監視所	1943(昭和18)頃	水彩、インク、紙	18.2×26.0	黒澤悦子氏
95015	水彩・素描	田辺三重松	千島スケッチ	1943(昭和18)頃	水彩、インク、紙	18.2×25.8	黒澤悦子氏
95016	水彩・素描	田辺三重松	千島スケッチ	1943(昭和18)頃	水彩、インク、紙	18.1×25.2	黒澤悦子氏
95010	水彩・素描	能勢眞美	千島スケッチ	1943-45(昭和18-20)頃	インク、紙	18.0×25.7	黒澤悦子氏
95021	版画	中谷有逸	鳥の碑（白）	1963(昭和38)	木版、紙	79.2×54.7	中谷有逸氏
95022	版画	中谷有逸	鳥の碑（土）	1963(昭和38)	木版、紙	79.0×54.7	中谷有逸氏
95023	版画	中谷有逸	鳥の碑（線）	1964(昭和39)	木版、紙	79.1×54.8	中谷有逸氏
95024	版画	中谷有逸	鳥の碑（弧）	1964(昭和39)	木版、紙	78.8×55.0	中谷有逸氏
95025	版画	中谷有逸	鳥の碑（二）	1964(昭和39)	木版、紙	79.0×54.7	中谷有逸氏

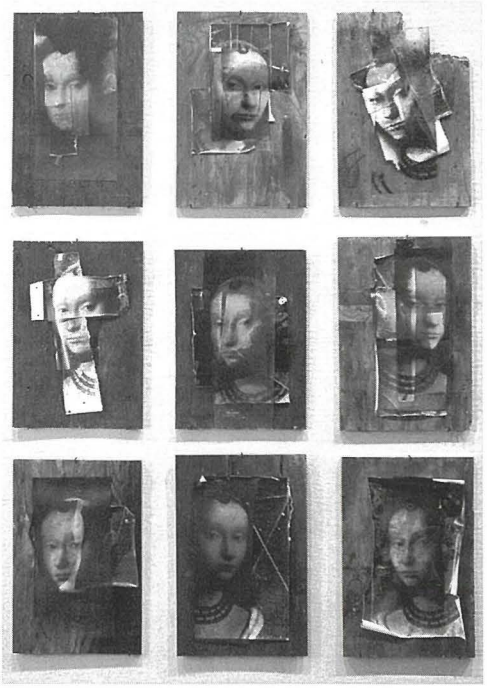
委託制作

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質・形状	寸法（cm）
95001	版画	中谷有逸	碑（海・蠕動）	1995(平成7)	凹凸併用版、コラージュ、紙	270.0×540.0

＊寸法は、縦×横(×d奥行)。



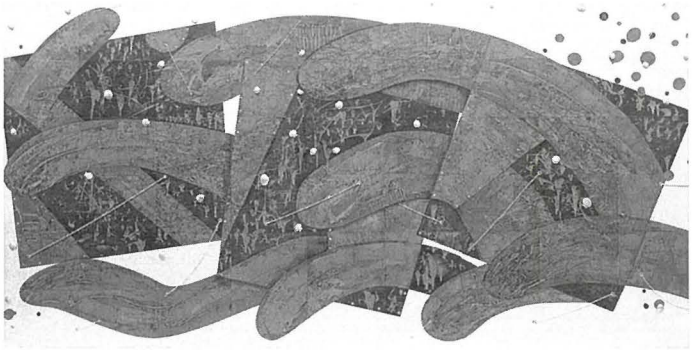
大浦一志「杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13←普賢岳(川は水を必要としていた)」



M.スターン、D.スターン「若い娘たち」



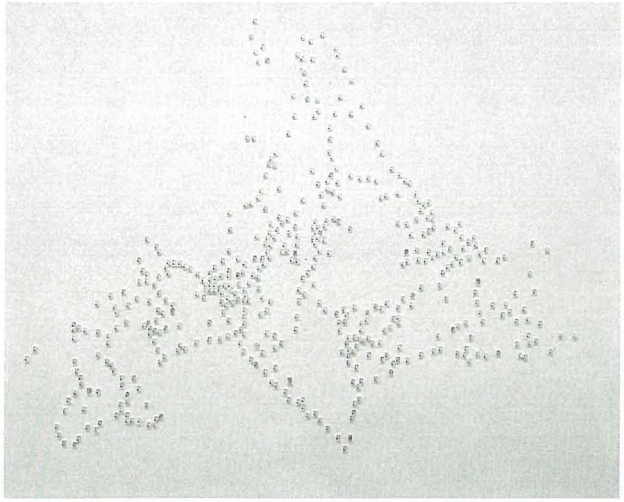
能勢眞美「池畔雪景」



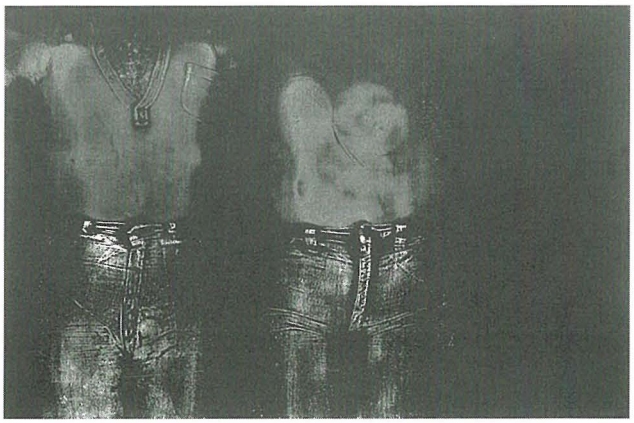
中谷有逸「碑（海・蠕動）」

平成8年度　作品収集状況

区　分	前年度末作品収蔵数	平成8年度収集数				作品総数	受託作品		
		購　入	受　贈	委託制作	計		前年度末	平成8年度	計
油　彩	48(10.4%)	0	0	0	0	48 (10.2%)	29	0	29
日　本　画	5(1.1%)	0	0	0	0	5(1.1%)	1	0	1
水彩・素描	20(4.3%)	0	0	0	0	20(4.3%)	10	0	10
版　画	171(36.9%)	3	0	0	3	174(37.2%)	1	0	1
彫　塑	6(1.3%)	0	0	0	0	6(1.3%)	1	0	1
工　芸	0(0 %)	0	0	0	0	0(0 %)	0	0	0
デザイン	211(45.6%)	1	0	0	1	212(45.3%)	0	0	0
写　真	2(0.4%)	1	0	0	1	3(0.6%)	0	0	0
合　計	463(100 %)	5	0	0	5	468(100 %)	42	0	42



太田三郎「Stamp map of Hokkaido “December29,1993”」

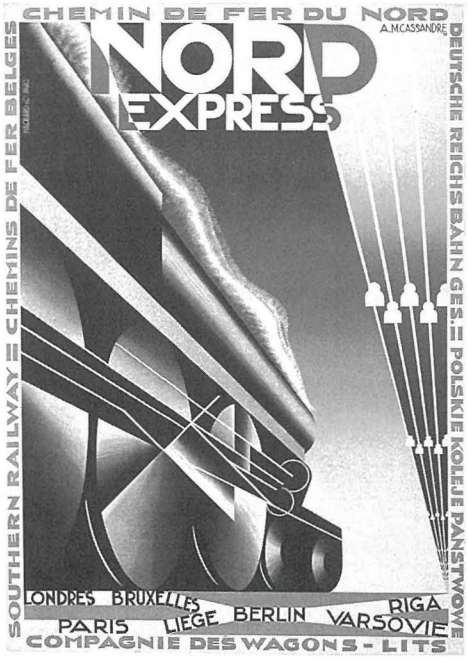


シーガル「前向きの二人の人物」

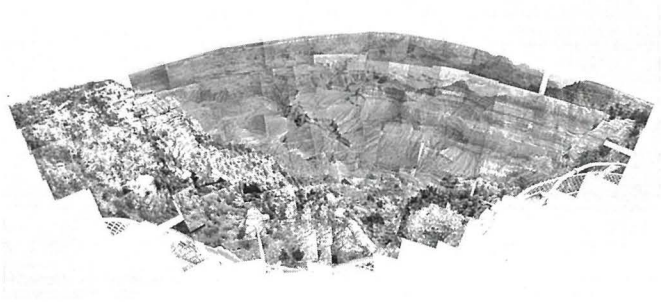
購　入

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質・形状	寸法（cm）
96001	版画	太田三郎	Stamp map of Hokkaido "December29,1993"	1993(平成5)	切手、消印	290.0×360.0×d5.8
96002	版画	國安孝昌	Wind Field Project	1994(平成6)	コピー、鉛筆、紙	各35.2×52.2（15点組）
96003	版画	G.シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0×126.5
96004	デザイン	A.M.カッサンドル	北方急行	1927	リトグラフ、紙	105.9×75.0
96005	写真	D.ホックニー	グランド・キャニオンの北側を見る 1982年9月 アリゾナ	1982	フォト・コラージュ	114.0×252.7

＊寸法は、縦×横(×d奥行)。



カッサンドル「北方急行」


ホックニー「グランド・キャニオンの北側を見る　1982年9月　アリゾナ」

美術作品の貸出

平成7年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
油彩	福井正治	サーカスの祭り 北方村落A 没陽　ー野ー 野の鳥	福井路可氏	平成7年9月29日 〜 平成7年10月8日	「福井正治遺作展」出品 （札幌時計台ギャラリー）
デザイン	A.M.カッサンドル V.ギイエ Th.A.スタンラン	パリ ギョーム人形座(1900年万国博覧会) 黒猫	北海道立近代美術館、 北海道立旭川美術館	平成7年12月6日 〜 平成8年3月31日	「A★MUSE★LAND'96」展出品 （北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館）
版画	レンブラント・ファン・レイン	羊飼いに現われた天使			

平成8年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
デザイン	A.M.カッサンドル R.ファルクッチ G.フォール P.ルイス J.ナタン=ガラモン オルスキー R.ペロー M.ポンティ A.ソロン K.ファン・デル・ラーン R.ヴァンサン R.ヴァンサン 不詳 不詳	北鉄道（羅針盤） ラ・モンターニュ ディレクタ自動車 シトロエン ル・アーヴル港再建公債 モサン帽子 コルセット「フェレット」 プジョー ファルマン航空 国立飛行学校 モトブロク ビュイック ビュイーズ自動車 あなたの列車CFF	北海道立近代美術館	平成8年5月9日 〜 平成8年8月10日	「モダンアート・タイムス」展出品 （北海道立近代美術館）
油彩	寺島春雄	柵と人 吃り勲章陳情 無題	神田日勝記念館	平成9年2月13日 〜 平成9年3月4日	「寺島春雄」展出品 （神田日勝記念館）
デザイン	E.グラッセ 他	あんず酒「アブリコティーヌ」 他　99点＊	株式会社谷口事務所	平成9年3月16日 〜 平成9年3月31日	「黄金時代のポスター芸術」展出品 （ナビオ美術館）

＊作品は「黄金時代のポスター芸術」展（平成9年1月18日〜平成9年2月16日、当館にて開催、P81〜85参照）出品作品に同じ。

特別観覧

平成7年度

内訳	撮影					複写	熟覧	原版使用	その他	合計
	研究	展示	出版	放送	上映					
件数	0	0	1	2	1	0	0	10	0	14

平成8年度

内訳	撮影					複写	熟覧	原版使用	その他	合計
	研究	展示	出版	放送	上映					
件数	0	0	1	0	2	0	1	10	0	14

建築概要

●位　　置　帯広市緑ケ丘2番地1
●構想設計　アトリエアク(公開設計競技最優秀)
●基本設計　アトリエアク・太洋共同企業体
●実施設計　アク・日本設計・谷津共同企業体
●工事施工者
　建　　築　宮坂・萩原・曽根・市川・大道共同企業体(1、2期)
　電気設備　相互電業㈱(1期)
　空気調和衛生設備　森設備工業㈱(1期)
　電力設備　相互・柴野・誠和・テーエス・長島共同企業体(2期)
　通信設備　北口・アサヒ・振興・扶桑・樋口共同企業体(2期)
　衛生設備　フジ・梶山・中林共同企業体(2期)
　空気調和設備　森・三洋・勝平・道東・浅岡共同企業体(2期)
●総工事費　約13億4千700万円
●工　　期　起工　平成元年10月9日
　竣工　平成3年3月25日
●敷地面積　7,000㎡
●建物面積　建面積　2,499.99㎡
　延面積　3,521.60㎡
●構造概要　鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
●仕　　上
〔外　装〕
　外　　壁　大理石(ライムストーン)
　コンクリート打放し小叩仕上
　アルミパネル
　屋　　根　アルミ亜鉛メッキ鋼板葺
　屋　　上　露出アスファルト防水トップコート仕上
〔内　装〕
　ロビーホール床　テラゾーブロック
　主展示室床　フローリング
　常設展示室床　タイルカーペット
　ロビーホール壁　大理石(ライムストーン)
　合成樹脂系軽量骨材吹付
　展示室壁　石膏ボード　一部ラワンベニア下地クロスEP仕上
　ロビーホール天井　合成樹脂系軽量骨材吹付
　展示室天井　岩綿吸音板EP仕上

設備概要

●電気設備
　受変電設備　受電電圧　6.6KV
　変圧器容量　450KVA
　非常電源設備　ディーゼル機関123PS　3,000RPH
　発電機　98KVA　3相　200V
　動力設備　防災用動力　排煙機　11KW×3
　消火ポンプ5.5KW×1
　電灯設備　展示室　壁面照明　退色防止蛍光灯(調光式)
　ロビー　間接照明　蛍光灯
　講　堂　ワイヤーメッシュ天井内埋込蛍光灯
　電話設備　電子ボタン電話
　放送設備　防災一般兼用アンプ160W
　テレビ共聴設備　OCTV(帯広ケーブルTV)による共聴
　火災報知設備　P1級受信機
　視聴覚設備　上降式ビデオプロジェクター　1式
　音声・映像ラック　1式
　映写設備(16mmフィルム、35mmスライド)1式

●機械設備
　空気調和設備
　設定温湿度
　常設展示室、主展示室
　夏　24℃(21～25℃)55%(50～60%)
　冬　23℃(21～24℃)50%(45～55%)
　収蔵庫、展示ケース
　年間22℃(20～24℃)55%(40～60%)
　＊(　)内は可変調整範囲、設定精度は温度±1℃　湿度±3%
　熱源機器
　空冷チリングユニット　冷却能力　240,000Kcal/H
　吸収式冷温水発生機　冷却能力　100USRT
　暖房能力　253,000kcal/H
　温水機　暖房能力　500,000kcal/H
　空気調和機
　主展示室　2系統
　常設展示室、荷解室　1系統
　展示ケース　1系統
　収蔵庫　1系統
　ロビー、ホール　1系統
　管理諸室　1系統
　衛生設備
　給水設備　市水道使用
　排水設備　市下水道放流
　給湯設備　電気温水機
　消火設備　屋内消火栓設備、ハロン消火設備

沿　革

昭和62年７月	道東地域道立地方美術館設置調査費計上
昭和63年２月	帯広市への道立地方美術館設置を決定
昭和63年４月	北海道立帯広美術館設置基本構想策定
昭和63年５月	北海道立帯広美術館構想設計競技実施
昭和63年10月	北海道立帯広美術館構想設計競技入選作品決定
平成元年３月	北海道立帯広美術館基本設計完了
平成元年８月	北海道立帯広美術館実施設計完了
平成元年10月	北海道立帯広美術館建設工事着工
平成３年３月	北海道立帯広美術館建設工事竣工
平成３年４月	北海道立美術館条例の一部改正により、北海道立帯広美術館設置 北海道立帯広美術館職員を発令、組織発足 初代館長、室田浩志発令
平成３年９月	北海道立帯広美術館落成、開館記念式、屋外彫刻除幕（平成３年９月21日） 一般公開（平成３年９月22日）
平成４年５月	日本建築学会北海道支部第17回北海道建築賞受賞（平成４年５月21日授賞式）
平成４年６月	照明学会照明普及賞受賞（平成４年６月18日授賞式）
平成４年12月	第9回帯広市都市景観賞受賞（建物）（平成４年12月４日授賞式）
平成６年４月	第２代館長、阿部皎発令
平成７年12月	公共建築賞北海道優秀賞受賞（平成７年12月７日授賞式）

観覧者数一覧

平成7年度

展覧会名		会期（開催日数）	A 観覧者総数（一日あたり観覧者）	有料 a 一般(a/B)［団体／前売］	有料 b 高大生(b/B)［団体／前売］	有料 c 小中生(c/B)［団体／前売］	有料 B 計(B/A)［C計(C/A)］	有料 D(B+C) 計 (D/A)	無料 E 計 (E/A)
コレクション・ギャラリー		4月15日〜3月27日（257日）	23,467 (91)	10,346(86.1%) [1,903(95.4%)]	757(6.3%) [52(2.6%)]	911(7.6%) [39(2.0%)]	12,014(51.2%) [1,994(8.5%)]	14,008 (59.7%)	9,459 (40.3%)
特別展	特別展=歌川国貞	4月15日〜5月14日（26日）	5,851 (225)	3,567(88.6%) [81(11.0%)]	181(4.5%) [2(0.3%)]	276(6.9%) [653(88.7%)]	4,024(68.8%) [736(12.6%)]	4,760 (81.4%)	1,091 (18.6%)
特別展	居串佳一展	5月20日〜6月18日（26日）	2,235 (86)	894(93.5%) [178(24.3%)]	29(3.0%) [141(19.3%)]	33(3.5%) [413(56.4%)]	956(42.8%) [732(32.8%)]	1,688 (75.5%)	547 (24.5%)
特別展	20世紀美術への眼差し	6月24日〜7月30日（32日）	9,259 (289)	2,987(88.5%) [1,696(39.8%)]	159(4.7%) [86(2.0%)]	230(6.8%) [2,482(58.2%)]	3,376(36.5%) [4,264(46.1%)]	7,640 (82.5%)	1,619 (17.5%)
特別展	アンドレ・フランソワ展	8月5日〜9月3日（26日）	4,330 (167)	1,887(77.6%) [270(29.6%)]	268(11.0%) [13(1.4%)]	278(11.4%) [628(68.9%)]	2,433(56.2%) [911(21.0%)]	3,344 (77.2%)	986 (22.8%)
特別展	ルオー版画展	9月9日〜10月10日（27日）	4,219 (156)	1,818(89.3%) [580(98.6%)]	117(5.7%) [7(1.2%)]	101(5.0%) [1(0.2%)]	2,036(48.3%) [588(13.9%)]	2,624 (62.2%)	1,595 (37.8%)
特別展	ビュッフェ展	10月17日〜11月26日（35日）	12,465 (356)	4,820(85.3%) [3,248(74.7%)]	244(4.3%) [50(1.2%)]	587(10.4%) [1,049(24.1%)]	5,651(45.3%) [4,347(34.9%)]	9,998 (80.2%)	2,467 (19.8%)
特別展	今日のプリントアート展	12月2日〜1月28日（41日）	1,616 (39)	900(86.9%) [64(98.5%)]	56(5.4%) [0(0.0%)]	80(7.7%) [1(1.5%)]	1,036(64.1%) [65(4.0%)]	1,101 (68.1%)	515 (31.9%)
特別展	イギリス木版画展	2月3日〜3月27日（44日）	3,129 (71)	1,785(88.1%) [187(93.0%)]	133(6.6%) [4(2.0%)]	108(5.3%) [10(5.0%)]	2,026(64.7%) [201(6.4%)]	2,227 (71.2%)	902 (28.8%)
特別展	計	8回 (257日)	43,104 (168)	18,658(86.6%) [6,304(53.2%)]	1,187(5.5%) [303(2.6%)]	1,693(7.9%) [5,237(44.2%)]	21,538(50.0%) [11,844(27.5%)]	33,382 (77.4%)	9,722 (22.6%)
計［コレクション・ギャラリー＋特別展］		9回 (514日)	66,571 (130)	29,004(86.4%) [8,207(59.3%)]	1,944(5.8%) [355(2.6%)]	2,604(7.8%) [5,276(38.1%)]	33,552(50.4%) [13,838(20.8%)]	47,390 (71.2%)	19,181 (28.8%)
貸館		(0日)							
合計		9回 (514日)	66,571 (130)	29,004(86.4%) [8,207(59.3%)]	1,944(5.8%) [355(2.6%)]	2,604(7.8%) [5,276(38.1%)]	33,552(50.4%) [13,838(20.8%)]	47,390 (71.2%)	19,181 (28.8%)

平成8年度

展覧会名	会期（開催日数）	A 観覧者総数（一日あたり観覧者）	有料 a 一般(a/B)［団体／前売］	有料 b 高大生(b/B)［団体／前売］	有料 c 小中生(c/B)［団体／前売］	有料 B 計(B/A)［C計(C/A)］	有料 D(B+C) 計(D/A)	無料 E 計(E/A)
コレクション・ギャラリー	4月9日〜3月30日（262日）	27,124 (104)	13,565(96.6%) [1,726(88.8%)]	477(3.4%) [218(11.2%)]		14,042(51.8%) [1,944(7.2%)]	15,986 (58.9%)	11,138 (41.1%)
特別展 能勢眞美展	4月9日〜6月2日（47日）	7,497 (160)	5,140(90.6%) [205(36.9%)]	184(3.2%) [13(2.3%)]	351(6.2%) [338(60.8%)]	5,675(75.7%) [556(7.4%)]	6,231 (83.1%)	1,266 (16.9%)
特別展 マヤ古代文明の遺産	6月8日〜7月14日（32日）	12,749 (398)	5,654(87.7%) [2,170(46.3%)]	280(4.3%) [472(10.1%)]	511(7.9%) [2,041(43.6%)]	6,445(50.6%) [4,683(36.7%)]	11,128 (87.3%)	1,621 (12.7%)
特別展 プラハ国立美術館所蔵浮世絵展	7月20日〜8月18日（26日）	5,247 (202)	2,885(84.7%) [841(92.6%)]	215(6.3%) [4(0.4%)]	308(9.0%) [63(6.9%)]	3,408(65.0%) [908(17.3%)]	4,316 (82.3%)	931 (17.7%)
特別展 ユトリロ展	8月24日〜9月29日（31日）	9,339 (301)	4,256(87.7%) [866(28.9%)]	268(5.5%) [75(2.5%)]	327(6.7%) [2,057(68.6%)]	4,851(51.9%) [2,998(32.1%)]	7,849 (84.0%)	1,490 (16.0%)
特別展 富士美術館名品展	10月8日〜11月17日（35日）	19,536 (558)	5,032(90.7%) [10,026(87.3%)]	173(3.1%) [341(3.0%)]	345(6.2%) [1,115(9.7%)]	5,550(28.4%) [11,482(58.8%)]	17,032 (87.2%)	2,504 (12.8%)
特別展 北海道・今日の美術	12月7日〜1月12日（24日）	847 (35)	421(85.2%) [60(85.7%)]	35(7.1%) [0(0.0%)]	38(7.7%) [10(14.3%)]	494(58.3%) [70(8.3%)]	564 (66.6%)	283 (33.4%)
特別展 黄金時代のポスター芸術	1月18日〜2月16日（25日）	1,986 (79)	861(86.3%) [56(15.0%)]	97(9.7%) [0(0.0%)]	40(4.0%) [317(85.0%)]	998(50.3%) [373(18.8%)]	1,371 (69.0%)	615 (31.0%)
特別展 フランス美術200年の巨匠たち	2月22日〜3月30日（31日）	5,029 (162)	2,519(87.5%) [346(41.9%)]	211(7.3%) [3(0.4%)]	148(5.1%) [477(57.7%)]	2,878(57.2%)] [826(16.4%)]	3,704 (73.7%)	1,325 (26.3%)
特別展 計	8回 (251日)	62,230 (248)	26,768(88.3%) [14,570(66.5%)]	1,463(4.8%) [908(4.1%)]	2,068(6.8%) [6,418(29.3%)]	30,299(48.7%) [21,896(35.2%)]	52,195 (83.9%)	10,035 (16.1%)
計［コクレクション・ギャラリー＋特別展］	9回 (513日)	89,354 (174)	40,333(91.0%) [16,296(68.4%)]	1,940(4.4%) [1,126(4.7%)]	2,068(4.7%) [6,418(26.9%)]	44,341(49.6%) [23,840(26.7%)]	68,181 (76.3%)	21,173 (23.7%)
貸館	(0日)							
合計	9回 (513日)	89,354 (174)	40,333(91.0%) [16,296(68.4%)]	1,940(4.4%) [1,126(4.7%)]	2,068(4.7%) [6,418(26.9%)]	44,341(49.6%) [23,840(26.7%)]	68,181 (76.3%)	21,173 (23.7%)

平成7年ー8年度
北海道立帯広美術館年報

発行日　平成10年3月27日
発行者　北海道立帯広美術館
〒080-0846
帯広市緑ケ丘2番地
Tel. (0155)22－6963
印刷所　大同出版紙業株式会社
©Hokkaido Obihiro Museumu of Art 1998

北海道立帯広美術館年報